

Kodak Gray Scale



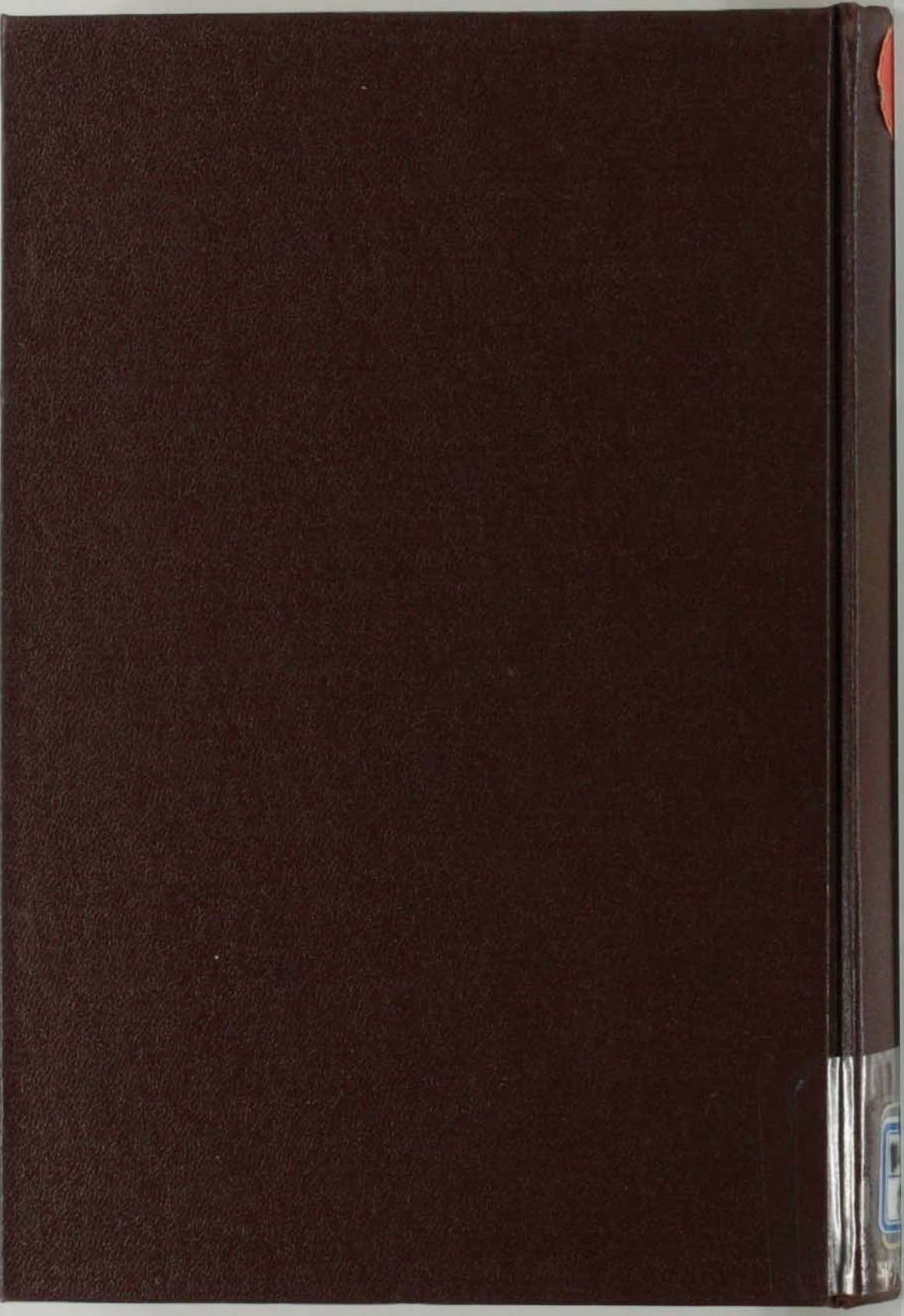
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



請 未 記 号	219
	S

長崎
北原
郡

佐世保志

下卷

685



佐世保志 下卷

目次

第一章	諸規程及諸規約	一
第一節	長屋建築規則	一
第二節	佐世保港內取締規則	四
第三節	軍港內航行營業出願規則	六
第四節	土木出願手續	七
第五節	軍港要港規則規定事項出願手續	八
第六節	財團濟生會長崎縣救療規程	九
第七節	救療事業實施規程	一二
第八節	小學校樹栽規程綱領	一二
第九節	學事獎勵規程	一四
第十節	佐世保市役所分課規程	一六

目

次

一

第十一節	佐世保市役所處務規程	二一
第十二節	市主事以下俸給規則	三〇
第十三節	佐世保市吏員俸給支給規則	三六
第十四節	佐世保市公告式條例	三九
第十五節	佐世保市町總代設置準則	四〇
第十六節	佐世保市稅徵收法	四二
第十七節	佐世保市納稅獎勵規則	四四
第十八節	兒童組合設置規程	四六
第十九節	生徒取締上ノ施設方法	四八
第二十節	小學校教員退職慰勞金給與規程	五五
第二十一節	小學校教員互助會規約	五六
第二十二節	小學校兒童學用品購買部準則	五九
第二十三節	佐世保市補習教育規程	六〇
第二十四節	佐世保市水道規則	六二
第二十五節	佐世保市水道 ^{使用料} 手 ^{手数料} 料條例	六九
第二十六節	佐世保市屠場使用料條例	七五

第二十七節	佐世保市屠場使用料徵收規程附屠場內心得	七六
第二十八節	大村灣水產組合定款	七八
第二十九節	大村灣水產組合魚類共同販賣所規程	九〇
第三十節	大村灣水產組合獎勵規程	九四
第三十一節	大村灣水產組合遭難救恤規程	九六
第三十二節	有限責任佐世保共濟會信用購買組合定款	九八
第三十三節	佐世保市衛生組合規約	一一二
第三十四節	帝國在郷軍人會佐世保市分會規約	一一九
第三十五節	佐世保甲辰義會會則	一二六
第三十六節	佐世保市召集軍人家族救助方法	一二八

第一章 委任專決事項

第一節	市長委任事項	一三〇
第二節	市參事會委任事項	一三三
第三節	助役專決事項	一三四
第四節	課長專決事項	一三七

第三章 市吏員名譽職員……………一三八

第四章 諸統計……………一五三

第一節 政務の部……………一五三

第二節 教育の部……………一七六

第三節 宗教の部……………一九九

第四節 産業の部……………二〇四

第五節 交通の部……………二三四

第六節 衛生の部……………二五四

第七節 兵事の部……………二五五

第八節 雑の部……………二七四

目次終

長崎縣 北長郡 佐世保市

佐世保志 下卷

第一章 諸規程及諸規約

第一節 長屋建築規則 明治十九年九月 長崎縣令第二十七號

第一條 此規則ニ稱スル長屋トハ人ノ住居ニ供スル家屋ニシテ一棟内ニ二戸以上ヲ設クルモノヲ總稱ス

二戸以上ノ長屋ト雖モ一戸建坪八坪以上ノモノハ本則ノ限リニアラス(第二十七年第三七號ニテ追加)

本則施行以前ノ建築ニ係ル長屋ニモ適用ス(本項同上)

第二條 長屋ヲ新築セントスルモノ及一棟ノ家屋ヲ區畫シテ二戸以上ニ改造スルモノ若クハ棟繼キ一戸以上ヲ増築スルモノハ總テ此規則ニ遵フヘシ

但一戸建ノ長屋ト雖モ其建坪八坪以下ノ者ハ此規則ニ遵フヘシ

第三條 長屋ヲ新設改造若クハ増築セントスルモノハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ所轄郡區役所へ差出シ許可ヲ受ク可シ

- 一 敷地所在ノ町村名番號及其所有者ノ氏者
- 二 敷地及建家ノ縮圖

但改造若クハ増建セントスル者ハ原家ノ縮圖

第四條 前條ノ建築落成シタルトキハ所轄郡區役所ノ検査ヲ受ケ其認可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ使用スル事ヲ得ス

第五條 落成検査ノ際其構造此規則ニ牴觸スルトキハ全部其一部分ノ改造ヲ命スヘシ

此場合ニ於テハ改造ノ上再ヒ検査ヲ受クルニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第六條 長屋ノ屋後ニハ地覆石ヨリ幅六尺以上ノ空地ヲ存スヘシ但岸上又ハ河岸等ニテ空氣ノ流通ニ障碍ナキ場所ハ此限リニアラス

第七條 一棟内ノ戸數ハ五戸以下トス

第八條 長屋ハ軒高軒先ヨリ地盤迄ヲ云フ庇付ハ庇軒先ヨリトスハ八尺以上床高地盤ノ水平面ヨリ床板下端迄ヲ云フハ一尺五寸以上タルヘシ但其床下漆喰

天川ノ類ヲ用ヒ濕氣ノ發生ヲ防止シ空氣ノ流通ニ障碍ナキモノハ床高ヲ減スルコトヲ得

第九條 普通ノ出入口ヲ除キ少クモ二方ニ通風充分ナル口ヲ設クヘシ若シ之ヲ設ケサルトキハ意ヲ設クヘシ但意ハ幅三尺以上高二尺五寸以上タルヘシ

第十條 床下ノ仕切ハ其一方毎ニ一箇ノ通風窓ヲ設クヘシ

第十一條 長屋ノ前面ニハ雨落ヨリ幅九尺以上ノ通路ヲ設クヘシ

第十二條 便所ハ一戸毎ニ之ヲ設クヘシ但地形ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ特ニ認可ヲ得テ二戸ニ付一箇所ヲ設クルコトヲ得

第十三條 此規則ハ左ノ場合ニ於テ施行スルモノトス

- 長崎區
- 西彼杵郡ノ内
- 長崎村
- 戸町村上郷美濃 郷ヲ除ク

浦上山里村 浦上淵村 木鉢郷小淵
戸郷ヲ除ク

東彼杵郡佐世保村ノ内

新市街豫定地

第十四條 本則ノ構造ニ違背シタルモノ又ハ本則施行以前ノ建築ニ係ル長屋ニシテ本則ニ依リ改造ヲ爲サ、ルモノハ其家屋ニ住居スルコトヲ禁止シ又ハ取崩シヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 第十四條ノ命令ニ従ハサル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

本則施行以前ノ建築ニ係ル長屋ハ明治二十一年四月三十日限り改造スヘシ

第二節 佐世保港内取締規則

明治二十年一月
長崎縣令第一號

第一條 港内ニ碇泊セントスル船舶ハ他船ノ航行ヲ妨ケサル様一定ノ場所ヘ投

錨スヘシ

第二條 港内船舶ノ碇泊場所ハ當分ノ内丸瀬ヨリ佐世保川ニ至ル東部トス

第三條 海軍省用地ニ屬スル河海岸ヘ猥リニ船舶ヲ繫留スヘカラス

第四條 港内波止場ニ船舶ヲ繫留シ他船ノ出入ヲ妨クヘカラス

第五條 飛鳥菴崎以内ノ河海中ヘ塵芥土石及石炭灰燼其他水理ノ妨害トナルヘ

キモノヲ投棄スヘカラス

第六條 港内河海水瀬ニ塵芥土石等ヲ猥リニ堆積スヘカラス

第七條 荷足ノ土石ハ小佐世保字觸島ノ地ニ定メタル場所ヘ投棄スヘシ

第八條 港内丸瀬ヨリ以内ニ於テ銃砲ヲ發スヘカラス

第九條 火藥ダイナマイトノ如キ爆發物ヲ積載スル船舶ハ他船ト相接シテ碇泊スヘカラス

第十條 港内丸瀬ヨリ以内ニ於テ漁業ヲ爲スヘカラス

第十一條 傳染病者アル船舶ハ港内丸瀬ヨリ以内ニ碇泊スヘカラス

第十二條 第一條第三條第四條第六條第八條第九條第十條第十一條ニ違背シタ

ルモノハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ

第三節 軍港内航行營業出願規則

明治三十年十二月
長崎縣令第五十四號

第一條 佐世保軍港内ニ汽船航行ノ營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ縣

廳へ出願許可ヲ受クヘシ

一 航行ノ目的

二 航行ノ場所

三 航行ノ期間

四 發著期日ノ定アルモノハ其期日

五 航行汽船ノ検査證書寫

第二條 第一條ノ各項ヲ變更セントスルトキハ其都度出願許可ヲ受クヘシ

但検査證書寫ハ證書ノ書換ノ都度差出スヘシ

第三條 航行許可ノ效力ハ一箇年限リトス

第四條 航行許可期限内ト雖モ公益上必要アル場合又ハ汽力ノ競争其他危險ノ
行爲アリト認ムルトキハ其航行ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

第五條 第一條第二條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 本則施行前ニ許可ヲ受ケタル者ハ明治三十一年一月末日マテニ更ニ出
願許可ヲ受クヘシ

第四節 土木出願手續

明治三十四年六月
長崎縣令第六十九號

佐世保軍港及竹敷要港境域内ニ於テ左ニ掲クル諸號ノ新營若クハ變更ヲナサン
トスル者ハ其地名地番地目段別及ヒ事業ノ種類竝ニ著手成功ノ期限ヲ記シタル
願書ニ詳細ナル圖面三葉ヲ添附シ當該村役場戸長役所ヲ經知事ニ願出ツヘシ但
海面埋立使用其他一定ノ書式アルモノハ該書式ニ依ルヘシ

本令ニ違フ者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 棧橋ノ架設埠頭ノ築造

- 二 河床ノ變更河川海面ノ埋立使用浚渫海岸ノ掘鑿海岸ニ於ケル石垣ノ築造
- 三 道路運河溝渠隧道ノ開通橋梁鐵道ノ架設
- 四 地盤ノ開鑿及埋築
- 五 森林伐採
- 六 軍港要港ノ水域内ニ發著スヘキ海運ノ營業
- 七 浮標立標其他航路標識ノ設置
- 八 第一區第二區ノ沿岸ニシテ水面若クハ海軍用地ヲ距ル七百五十間以内ニ於ケル家屋倉庫及諸設ノ築造物ノ新築

第五節 軍港要港規則規定事項出願

手續 大正元年十二月
長崎縣令第三十九號

第一條 軍港要港規則第十八條ニ掲クル事項ノ新營若クハ變更ヲ爲サントスル

者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ

- 一 工事ニ付テハ位置目的著手竣功期日設計方法書圖面
- 二 海運業ニ付テハ發著地名發著ノ日時及度數營業ノ目的營業期間船種船名噸數石數又ハ間數船主船長ノ住所氏名

本縣土木工事取締規則土木補助規程公有水面埋立又ハ使用規則佐世保市街地家屋建築規則演藝場及遊覽場取締規則汽罐汽機取締規則耕地整理法森林法ノ規定ニ依リ許可ヲ受クヘキモノハ各其規程ニ據ルヘシ

第二條 前條第一項ノ事項ト佐世保市街地家屋建築規則又ハ土木取締規則第一條第一項五號ト關聯スルトキハ其事項ヲ併記シ本則ニ據リ出願スヘシ

第三條 本則ニ依リ差出ス願書ニ添屬スヘキ圖書ハ各二通ヲ要ス

第四條 第一條第一項ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第六節 財團 濟生會長崎縣救療規程

第一條 本縣住民ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノハ本規程ノ定ムル所ニ依リ施藥救療ヲ行フモノトス

但他ニ公私救療ノ途アル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 扶養義務ヲ行フ者ナキ貧困者

二 恤救規則ニ依リ公費ノ救助ヲ受クル者

三 戸數割ヲ免除セラレタル者及其ノ家族

四 市町村長及警察官ニ於テ救療ノ必要アリト認めタル貧困者

第二條 施藥救療ハ公私立病院若クハ地方開業醫並藥劑師ニ囑託スルモノトス

第三條 救療ヲ受ケントスル者ハ最寄警察官署(經査派出所及駐在所ヲ含ム)又ハ市役所町役場ニ

申出治療券ノ交付ヲ受クヘシ

第四條 治療券一枚ノ有効期間ハ二十日間トス引繼キ治療ヲ要スル者ニ對シテ

ハ更ニ繼續治療券ヲ交付ス

第五條 治療券ノ交付ヲ受ケタル者ハ囑託醫師ニ就キ任意診療ヲ求ムルコトヲ

得

但場合ニ依リ醫師ヲ指定スルコトアルヘシ

重症患者ハ來診治療ヲ求ムルコトヲ得

第六條 急病患者ニシテ治療券ヲ受クル暇ナキ者ニ對シテハ囑託醫ハ一時診療

ヲ爲スコトヲ得

但第三條ノ手續ヲ履ミ治療券ヲ提出スルニアラサレハ其診療ヲ繼續スルコ

トヲ得ス

第七條 囑託醫並ニ囑託藥劑師ハ診療又ハ投藥ノ都度治療券又ハ處方箋ニ必要

ノ事項ヲ記入シ置キ翌月十日迄ニ前月分ヲ長崎市ニ在リテハ縣廳内濟生會ニ

直接其他ニ在リテハ島司郡市廳ヲ經テ縣廳内濟生會ニ送付スヘシ

第八條 治療費ハ前三箇月分ヲ取纏ノ縣廳内濟生會事務所ニ請求アルトキハ翌

月十五日迄ニ送金ス

第九條 治療券交付人名綴治療券及處方箋ハ左記様式(略記)ニ依ル

第十條 本規程ニ定ムルモノ、外必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第七節 救療事業實施規程

第一條 島郡市町村及警察官署ニ於テハ治療券受拂簿ヲ調製シ其授受ヲ明確ニ記載スヘシ

第二條 島司郡市長警察署長ハ管内施療患者ノ狀況ヲ取調毎月一回報告スルモノトス

第三條 治療料金ハ左ノ通之ヲ定ム

藥價一日分	總額	金八錢
入院料同上	同上	金五十錢
手術料		實費
往診料	片道一里	金二十錢

第八節 小學校樹栽規程綱領

明治三十年七月
長崎縣訓令第五十號

第一條 小學校生徒ヲシテ實業ヲ重シ勞働耐久ノ習慣ヲ與ヘ豫テ森林ヲ愛護スルノ念慮ヲ誘起スルノ一助トシテ樹木ヲ栽培セシムルモノトス

第二條 樹木ノ植栽ハ毎年紀元節十一月春季皇靈祭二十日神武天皇祭四月秋季皇靈祭二十三日天長節三十一日及ヒ其土地ニ功勞アル人士ノ記念日等ノ内ニテ土地ニ適應セル氣候ニ依リ其日ヲ定ムルモノトス

第三條 樹木植栽ノ日ハ豫メ生徒ヲ集メ樹木ノ性質效用等ノ講話ヲナスヘキモノトス

第四條 植栽スヘキ樹木ノ種類ハ松、檜、杉、樟、樺、楓、桐、槲、棕、榕等ノ内ニテ土地ニ適應シテ成ルタケ成長ノ速カナルモノヲ選擇スルモノトス

但監督ノ行届ク土地ニ於テハ梅、桃、梨、栗、柿、蜜柑、枇杷等ノ果樹ヲ植栽スルモ妨ケナシ

第五條 植栽スヘキ土地ハ學校及ヒ體操場ノ周圍ヨリ始メ漸次學校附屬地町村共有地ニ及ホシ成ルヘク學校ニ近距離ナル土地ヲ選擇スヘキモノトス

第六條 栽樹ヲナスニハ之ヲ永久ニ保續セサレハ其效果ヲ見ルコト能ハサルヲ

以テ初メヨリ徒ニ樹數ノ多キヲ競ヒ中途ニシテ廢滅スルノ不幸ニ陥ラサル様
注意スヘキモノトス

第七條 樹木ノ栽培ニ要スル費用ハ學校ノ經費若クハ有志者ノ寄附金ニ資ルモ
ノトス

第八條 苗木ノ養成栽樹ノ順序方法栽植後ノ手入成效後收利物ノ處分法等ハ市
町村長戸長之ヲ定メ島司郡長ニ報告スルモノトス

第九節 學事獎勵規程

明治三十四年十二月
長崎縣訓令第九十一號

第一條 市町村立小學校教員ニシテ素行端正左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ
褒賞ヲ行フコトアルヘシ

- 一 平素恪勤ニシテ三箇年以上缺勤セサルモノ
- 二 常ニ教授訓練ニ注意シ其ノ成績他ノ模範ト爲スニ足ルモノ
- 三 學校長ノ職ヲ兼ネ校務ノ整理職員ノ統督他ノ模範ト爲スニ足ルモノ

四 教育上有益ナル考案ヲ爲シ其ノ事業ヲ裨益スルモノ

五 僻陬ノ地ヲ厭ハス五箇年以上同一學校ニ勤務シ成績佳良ナルモノ

六 右ノ外勤務ノ成績超衆ノモノ

第二條 市町村長町村學校組合長學務委員其ノ他ノ市町村吏員ニシテ左ノ各號

ノ一ニ該當スルモノニハ褒賞ヲ行フコトアルヘシ

一 就學獎勵ノ事務ニ勵精シ其ノ成績顯著ナルモノ

二 小學校ノ設備ニ盡瘁シ其ノ成績顯著ナルモノ

三 小學校基本財産ノ蓄積ニ盡瘁シ其ノ成績顯著ナルモノ

四 右ノ外教育事務ニ關シ功勞顯著ナルモノ

第三條 市町村立小學校ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ褒賞ヲ行フコ
トアルヘシ

一 學校ノ風紀淳正ニシテ他ノ模範ト爲スニ足ルモノ

二 兒童學業ノ成績優等ニシテ他ノ模範ト爲スニ足ルモノ

三 右ノ外成績優等ナルモノ

第四條 島司郡長ハ其ノ部内ニ於テ第一條乃至第三條ニ該當スルモノアリト認ムルトキハ事實ヲ具シテ知事ニ稟申スルコトヲ得

第十節 佐世保市役所分課規程 明治四十一年十二月 佐世保市達第二號

第一條 當廳ニ左ノ七課ヲ置ク

- 庶務課
- 衛生課
- 戶籍課
- 稅務課
- 土木課
- 會計課
- 水道課

第二條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 吏員ノ進退賞罰其他身分ニ關スル事項
- 二 機密ニ關スル事項
- 三 公印ノ管守ニ關スル事項
- 四 文書ノ受付及發送ニ關スル事項
- 五 選舉ニ關スル事項
- 六 諸會議ニ關スル事項
- 七 市會市參事會ニ發スル議案ノ審査ニ關スル事項
- 八 規則規程公告訴願訟訴裁決案ノ審査ニ關スル事項
- 九 歳入出豫算編製及決算審査ニ關スル事項
- 十 學事ニ關スル事項
- 十一 社寺宗教恤救褒賞統計ニ關スル事項
- 十二 軍人以外ニ對スル勳章恩給年金扶助料ニ關スル事項
- 十三 行旅病人死亡人及精神病者ニ關スル事項
- 十四 海員及浦役場ニ關スル事項

- 十五 圖書保管ニ關スル事項
 - 十六 給仕使丁ニ關スル事項
 - 十七 應舍取締ニ關スル事項
 - 十八 他課ニ屬セサル事項
- 第三條 衛生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 衛生ニ關スル事項
 - 二 汚物掃除ニ關スル事項
 - 三 墓地及火葬場ニ關スル事項
 - 四 農工商水産林野鑛山其他勸業ニ關スル事項
 - 五 消防ニ關スル事項
- 第四條 戶籍課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 戶籍其他身分ニ關スル事項
 - 二 寄留ニ關スル事項
 - 三 印鑑ニ關スル事項

- 四 埋火葬認許ニ關スル事項
 - 五 兵事ニ關スル事項
 - 六 軍人ノ勳章恩給年金扶助料ニ關スル事項
- 第五條 稅務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國稅縣稅市稅及稅外收入ノ賦課徵集ニ關スル事項
 - 二 土地臺帳名寄帳字圖其他地種目ニ關スル事項
- 第六條 土木課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 土木ニ關スル事項
 - 二 市區道路公園溝渠橋梁河海其他地理ニ關スル事項
 - 三 土地收用ニ關スル事項
 - 四 市有土地建物ノ保管ニ關スル事項
- 第七條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 市費ノ仕拂命令ニ關スル事項
 - 二 市有財產ニ關スル事項

三 市債及寄附ニ關スル事項

四 物品ノ購入賣却修繕出納保管ニ關スル事項

第八條 水道課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 水道ニ關スル事項

二 水道使用料其他水道費所屬收入ノ調定及納入告知ニ關スル事項

三 水道費ノ仕拂命令ニ關スル事項

四 水道費所屬物品ノ購入賣却修繕出納保管ニ關スル事項

五 水道費所屬ノ市債及寄附ニ關スル事項

第九條 各課ニ課長及課員ヲ置ク

課員ノ定員ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 課長ハ市長ノ命ヲ受ケ主務ヲ管理シ及所屬課ノ事務ヲ指揮監督ス

課員ハ所屬課長ノ指揮ヲ承ケ課務ニ従事ス

第十一條 課長事故アルトキハ上席課員其事務ヲ代理ス

附 則

第十二條 本規程ハ明治四十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 佐世保市役所處務規程第一條乃至第十三條ハ本規程施行ノ日ヨリ之

ヲ廢止ス

第十四條 従前ノ規定中主任トアルハ課長ニ改ム

第十一節 佐世保市役所處務規程

明治四十三年四月
佐世保市達第二號

第一章

第一條 當廳ニ左ノ三課ヲ置ク

第一課

第二課

第三課

第二條 課ニ課長及課員ヲ置ク

第一章 諸規程及諸規約

課員ノ定員ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 課長ハ助役又ハ主事ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 課長ハ市長ノ命ヲ承ケ主務ヲ掌理シ其ノ課務ヲ指揮監督ス

第五條 課長ハ市長ノ決裁ヲ經テ其ノ課員ノ分擔事務ヲ定ムヘシ

分擔事務ヲ定メタルトキハ之ヲ各課ニ通知スヘシ

第六條 課長事故アルトキハ上席課員其ノ事務ヲ代理ス

第七條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 吏員ノ進退賞罰其ノ他身分ニ關スル事項

二 機密ニ關スル事項

三 公印ノ管守ニ關スル事項

四 文書ノ收受及發送ニ關スル事項

五 議員市名譽職員及市吏員ノ選舉ニ關スル事項

六 市會又ハ市參事會ニ關スル事項

七 市會又ハ市參事會ニ發スル議案ノ審査ニ關スル事項

八 歳入出豫算ノ編製及決算報告ノ審査ニ關スル事項

九 社寺宗教恤救及褒賞ニ關スル事項

十 統計ニ關スル事項

十一 行旅病死人精神病者棄兒及迷子ニ關スル事項

十二 海員及浦役場ニ關スル事項

十三 學事ニ關スル事項

十四 圖書保管ニ關スル事項

十五 農工商水產市場其ノ他勸業ニ關スル事項

十六 戶籍ニ關スル事項

十七 寄留ニ關スル事項

十八 印鑑證明ニ關スル事項

十九 埋火葬認許ニ關スル事項

二十 兵事ニ關スル事項

二十一 勳章恩給退隱料及扶助料ニ關スル事項

- 二十二 市費ノ仕拂命令ニ關スル事項(特別會計居場費ヲ含ム)
- 二十三 市有財産(不動産ヲ除ク)及物品ニ關スル事項
- 二十四 市債及寄附ニ關スル事項
- 二十五 給仕使丁電話掛ニ關スル事項
- 二十六 當宿直及廳舎取締ニ關スル事項
- 二十七 他課ニ屬セサル事項

第八條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 稅及稅外諸收入ノ賦課徵收ニ關スル事項(特別會計居場使用料徵收ニ關スル事項ヲ含ム)
- 二 土地臺帳名寄帳及地圖ニ關スル事項

第九條 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 水道ニ關スル事項
- 二 特別會計水道費所屬收入ノ調定及納入告知ニ關スル事項
- 三 特別會計水道費ノ支拂命令ニ關スル事項
- 四 特別會計水道費所屬ノ市有財産及物品ニ關スル事項

- 五 特別會計水道費所屬ノ市債及寄附ニ關スル事項
- 六 衛生其ノ他汚物掃除ニ關スル事項
- 七 墓地及火葬場ニ關スル事項
- 八 消防其ノ他災害ニ關スル事項
- 九 土木ニ關スル事項
- 十 市區道路河海其ノ他地理ニ關スル事項
- 十一 公園ニ關スル事項
- 十二 土地收用ニ關スル事項
- 十三 市有不動産ニ關スル事項
- 十四 屠畜ニ關スル事項

第二章

第十條 出務時間ヲ定ムルコト左ノ如シ

但土曜日ハ正午十二時退廳トス

自三月一日至七月十日午前八時昇廳午後四時退廳

自七月十一日至九月十日午前八時昇廳正午十二時退廳

自九月十一日至十月三十一日午前八時昇廳午後四時退廳

自十一月一日至翌年二月末日午前九時昇廳午後四時退廳

第十一條 休廳日ヲ定ムルコト左ノ如シ

日曜日 大祭祝日 年始自一月一日至一月三日 年末自十二月二十九日至十

二月三十一日 市制施行記念日(四月一日)

第十二條 吏員ハ規定ノ時限ニ昇廳シ直ニ吏員勤惰簿ニ捺印スヘシ

第十三條 市長若クハ課長ノ命アルトキ又ハ事務繁劇ノ場合ハ規定ノ時間外ト

雖モ出務スヘシ

第十四條 市長助役在廳ノ間ハ退廳ノ時間ヲ過クト雖モ猥リニ退廳スルコトヲ

得ス課員ノ課長ニ於ケル亦同シ

第十五條 出勤時間外ノ事務ヲ處辨シ及廳中ノ取締ヲナス爲メ當宿直ヲ置ク

但當宿直規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 病氣其ノ他ノ事故ノ爲メ缺勤若クハ遲刻スルトキハ昇廳時限後三十

分ニ書面ヲ以テ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ分擔事務中急務ヲ要スルモノハ其ノ事件ヲ詳具シ課長ニ申
出ツヘシ

第十七條 病氣缺勤十日ニ至レハ醫證ヲ添ヘ届出ツヘシ爾後十日毎ニ亦同シ

第十八條 歸省若クハ療養ノ爲メ任地ヲ離ル、トキハ其ノ日數及場所ヲ豫定シ

テ出願許可ヲ受クヘシ

但療養ノトキハ醫證ヲ添フヘシ

第十九條 喪ニ丁リ忌引ヲナストキハ定式ノ日數ヲ記シ届出ツヘシ

第二十條 退職解職轉職ノ場合ハ其ノ擔任事務ハ目錄ヲ製シ課長ハ五日其ノ他

ハ三日以内ニ後任者ニ引繼ヲ爲シ雙方連署市長ニ届出ツヘシ

若シ後任者ナキトキハ課長ハ市長課員ハ課長ノ指定スル吏員ニ引繼キ同様ノ

手續ヲ爲スヘシ

但未濟事件ニシテ重要ナルモノハ演述書ヲ添附スヘシ

第二十一條 市役所附近ニ火災其ノ他非常ノ事變アルトキハ吏員ハ災害ノ自己

ニ追ルモノ、外直ニ出廳シ簿冊搬出等臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

第三章

二八

第二十二條 總テ到達シタル文書ハ文書係ニ於テ接受開放シ收受番號及年月日(發議ノ回答ニ係ルモノハ發議番號)ヲ本書ニ記入シ件名出處收受番號及年月日ヲ收受件名簿(發議ノ回答ニ係ルモノハ發議件名簿)ニ登記シ市長ノ檢閲ヲ經テ課長ノ査閲ヲ受ケ其ノ指示ニ依リ各主任ニ配付シ領收印ヲ徵スヘシ

第二十三條 親展文書ハ總テ封緘ノ儘親展交付簿ニ記入シテ交付シ處理ハ本書ノ規程ニ依ラス前項ノ文書ニシテ機密ニ屬セサルモノハ其ノ交付ヲ受ケタルモノヨリ文書係ニ回付シ同係ニ於テハ更ニ前條ノ手續ニヨリ配付スヘシ

第二十四條 郵税未納又ハ不足ニ係ル文書ハ官衙公署ヨリ發送シタルモノヲ除ク外收受セス

第二十五條 諸願届等ニシテ不備脱漏ノモノアルトキハ其理由ヲ附箋シ之ヲ却下スヘシ此場合ニ於テハ其附箋ニ課員捺印ノ上市長及課長ノ捺印ヲ受クヘシ但人民ヨリ直接提出シタル場合ハ懇篤指示シ訂正セシムヘシ

第二十六條 人民ヨリ直接提出シタル諸願届等ニシテ成規定例アルモノハ各係ニ於テ接受處理シ書類ノ餘白ニ處理ノ要領ヲ記載シテ捺印シ文書係ニ回付ス文書係ニ於テ回付ヲ受ケタルトキハ更ニ第二十二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十七條 文書係ヨリ配付スル文書ニシテ事ノ重要ニ屬スルモノハ課長ニ於テ受領シ市長ニ稟議シテ自カラ之ヲ處理ス

第二十八條 課員ニ於テ受領シタル文書ハ翌日迄ニ案ヲ具シ係員ノ捺印ヲ了シ課長ノ査閲ヲ受ケ市長ノ決裁ヲ經テ執行スヘシ

但緊急ヲ要スルモノハ即日本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十九條 配付ヲ受ケタル文書ニシテ實地踏査其ノ他處理上日數ヲ要スル爲メ前條ニ依リ難キトキハ主務課長ヲ經テ其旨ヲ市長ニ申告シ允許ヲ受クヘシ但事ノ輕易ニ屬スルモノハ課長ニ於テ認許スルコトヲ得

第三十條 事ノ他課ニ關スルモノハ其ノ課ニ商議シ合議ヲ受ケタル課ニ於テハ三時間内ニ之ヲ調査シ若シ意見ヲ異ニスルトキハ面議商量シ尙ホ決セサルトキハ意見アル附箋ヲ施シ置キ市長ニ面陳シテ決裁ヲ請フヘシ

第三十一條 合議ヲ受ケタル課ニ於テ回議書ノ決裁ヲ知ラントスルトキハ其ノ課名ノ上ニ(要再回)ト朱記スヘシ其ノ朱記アルモノハ決裁施行ノ後主任ヨリ再回シ其ノ課ニ於テ朱記ノ傍ニ捺印シテ還付スヘシ

但再回ノ朱記ナシト雖モ決裁ノ趣旨起案ト異ナルトキハ執行ノ後之ヲ關係主任ニ通知スヘシ

第三十二條 市長ニ提出シタル回議書ニシテ一日ヲ經決裁ナキトキハ課員若クハ課長ヨリ之ヲ促スコトヲ得

但留置ノ指示アリタルモノハ此限ニアラス

第三十三條 發議ニ係ル回議書處理ノ順序ハ第二十七條第二十九條乃至第三十一條及第三十五條ヲ準用ス

第三十四條 回議書ハ所定ノ用紙ヲ用キ書體端正文意簡明ヲ要ス

若シ挿入削除スルトキハ原文ノ右側又ハ欄外ニ朱書シ原文ハ朱線ヲ施シ之ニ捺印スヘシ

第三十五條 成規定例アルモノニシテ別ニ理由ヲ附スルノ要ナキモノハ便宜帳

簿ヲ以テ回議書ニ代フルコトヲ得

第三十六條 決裁ノ文書ニシテ他ニ發送スルモノハ主任ニ於テ淨書校合シ文書課ニ回付スヘシ文書係ニ於テハ收受件名簿(發議又ハ發議ノ回答ニ係ルモノハ發議件名簿)ニ發送月日ヲ記入シ即日發送ノ手續ヲナスヘシ

但親展書書留又ハ別便配達ヲ要スルモノハ主任ニ於テ回付ノ際通知スヘシ

第三十七條 發送スヘキ文書ニシテ郵便ニ付スルモノハ郵便差立簿(電信ハ電信差立簿)ニ記入シ發送スヘシ

但使丁ヲ以テ送達スルモノハ送付簿ニ記入シテ送達シ之ニ受領者ノ捺印ヲ受ケシムヘシ

第三十八條 官報縣公報應達其ノ他吏員ノ周知ヲ要スル文書ハ文書係ニ於テ供覽ノ手續ヲナスヘシ

第三十九條 課長ハ常ニ文書ノ既未濟ヲ調査シ處理ノ期限ヲ過キ尙稽留スルモノアルトキハ其ノ主任ニ督促スヘシ

第四十條 文書係ニ於テハ毎月二回(十五日及末日)收受件名簿及發議件名簿ヲ

點檢シ指令又ハ回答ヲ要スルモノニシテ十五日以上稽留スル者アルトキハ延滞事件表ヲ製シ主任ヲシテ延滞ノ事由ヲ詳記セシメ市長ノ閱覽ニ供スヘシ

第四十一條 完結シタル文書ハ別ニ定ムル文書編纂保存規程ニ依リ編綴スヘシ

第四十二條 文書係ニ於テハ廳中日誌ヲ調製シ主要ノ事件ハ遺漏ナク登録シ翌朝市長ノ閱覽ヲ受クヘシ各課ニ於テハ日々日誌ニ記載スヘキ事項ヲ文書係ニ通知スヘシ

第四十三條 他課ノ文書簿冊等ヲ閱覽セントスルトキハ課員又ハ課長ノ承諾ヲ受クヘシ

第四十四條 總テ公文ニハ印章ヲ押捺シ證明書指令書等ニハ原書ト割印スヘシ

第四十五條 知事及内務部長ニ稟申往復スル文書ニハ必ス市長名ヲ書シ其ノ他ニ往復スル文書ハ事ノ輕重ニ依リ市長名又ハ市役所名ヲ以テスヘシ

第四十六條 諭告公告及達ニ附スヘキ番號ノ種別左ノ如シ

佐世保市諭告第何號 一般若クハ一部人民ニ諭告スルモノ

佐世保市告示第何號 一般若クハ一部ノ人民ニ公告スルモノ

廳達第何號

廳中一般若クハ一部ニ達スルモノ

第四十七條 稟申又ハ往復文書ニ附スヘキ番號種別左ノ如シ

佐收(又ハ發)第何號 佐戸收又ハ發)第何號 戶籍ニ關スルモノニ用フ)

第四十八條 公文ノ結文ノ例左ノ如シ

知事又ハ内務部長ニ稟申往復スルモノ

此段(相伺)上申(開申)進達(報告)副申(及御照會)及御回答)候也

官衙公署又ハ其ノ他ニ往復スルモノ

此段(又ハ右以下同シ)及御照會)及御回答(及御移牒)及御依頼)及御通知(申進)及御送付)候也

諭告公告及達ニ關スルモノ

(何何ス)(何何スヘシ)(何何セリ)

諸願届書等附箋却下スルモノ

何何ニ付却下ス

證明ニ關スルモノ

右證明又ハ右何何ヲ證明候也

第四十九條 人民出頭ヲ要スルトキハ左ノ告知書ヲ發ス

何何ノ件ニ付御用談有之候條何月日時此書面携帶當廳第何號へ御出頭相成度候也

年月日

市役所名

何番號

某殿

(會議様式親展文書交付簿式郵便差立簿式電信差立簿式書類送付簿式論告番號簿公告番號簿廳達番號簿式文書處理延滯事件表等は總て略記す)

第十二節 市主事以下俸給規則

明治四十三年四月 佐世保市告示第一號

第一條 市主事以下吏員ノ俸給ハ左表ニ依リ之ヲ支給ス

第一表

職名	年	俸	
		月	俸
主事	一級	八百圓	二級
	二級	七百圓	三級
主事	三級	六百圓	四級
	四級	五百圓	五級

第二表

職名	月		俸
	一級	二級	
書記	五十五圓	五十圓	四十五圓
	四十四圓	三十五圓	三十二圓
技手	二十七圓	二十四圓	二十二圓
	二十五圓	二十二圓	二十圓
巡視	十八圓	十七圓	十六圓
	十七圓	十六圓	十五圓
技手	十四圓	十三圓	十二圓
	十三圓	十二圓	十一圓
技手	十圓	十圓	十圓
	十圓	十圓	十圓

第二條 前條ノ市吏員ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得ス

但書記技手ニシテ八給俸以下掃除監督ニシテ七級俸以下書記補技手補ニシテ八級俸以下掃除巡視ニシテ七級俸以下雇ニシテ月俸十三圓以下ノ者ハ此

ノ限リニアラス

第三條 第一條ノ各表ニ掲ケサル臨時吏員ノ俸給ハ豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給ス

雇ノ月俸ハ十八圓以下トシ豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給ス

第四條 使丁給仕及電話掛ノ給料ハ日給トシ使丁ハ五十五錢以下給仕ハ二十五錢以下電話掛ハ三十五錢以下トス

附 則

本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年佐告第一八號市書記以下給料規程ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十三節 佐世保市吏員俸給支

規則 明治四十四年四月 佐世保市告示第七號

第一條 市主事以下吏員ノ俸給ハ左表ニ依リ之ヲ支給ス

第一表

主 事	職 名	
	一 級	二 級
八 百 圓	一	二
	三	四
七 百 圓	五	六
	七	八
六 百 五 十 圓	九	十
	十一	十二
六 百 圓	十三	十四
	十五	十六

第二表

職 名	月 俸	
	一 級	二 級
書 記	五十五圓	五十圓
	四十五圓	四十圓
技 書	四十五圓	四十圓
	三十五圓	三十圓
監 督	三十五圓	三十圓
	二十五圓	二十圓
技 師	二十五圓	二十圓
	二十圓	十八圓
巡 査	二十圓	十八圓
	十八圓	十七圓
技 師	十八圓	十七圓
	十六圓	十五圓
技 師	十六圓	十五圓
	十四圓	十三圓
技 師	十四圓	十三圓
	十二圓	十一圓
技 師	十二圓	十一圓
	十圓	十圓
技 師	十圓	十圓
	十圓	十圓

第二條 前條ノ市吏員ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ昇給スルコトヲ得ス
但書記技師ニシテ八級俸以下掃除監督ニシテ七級俸以下書記補技師補ニシ

第一章 諸規程及諸規約

テ八級俸以下掃除巡視ニシテ七級俸以下雇ニシテ月俸十三圓以下ノ者ハ此限ニアラス

第二條ノ二(大正元年十二月追加議決)

市吏員ニシテ月俸五十圓未満ノ者ニ一階級ヲ超エサル範圍内ニ於テ適宜ノ金額ヲ定メテ之ヲ支給スルコトヲ得

第三條 第一條ノ各表ニ掲ケサル臨時吏員ノ俸給ハ豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給ス

雇員ノ月俸ハ十八圓以下トシ豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給ス

第四條 使丁給仕及電話掛ノ給料ハ日給トシ使丁ハ五十五錢以下給仕ハ二十五錢以下電話掛ハ三十五錢以下トス

附 則

本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年佐告第一八號市書記以下給料規程ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十四節 佐世保市公告式條例

明治三十六年七月 佐世保市告示第三十九號

第一條 本市條例規則規程其他ノ公告ハ市役所門前及佐世保橋側揭示場ニ揭示シ及市ノ指定スル市内發行ノ新聞紙ニ登載スルヲ以テ公告式トス

第二條 本市條例規則規程其他ノ公告ニシテ施行ヲ要スルモノハ發布ノ日ヨリ起算シ三日ヲ經テ施行ス但特ニ施行ノ日ヲ指定シタルモノハ此限リニアラス

第三條 本市條例規則規程其他ノ公告ハ總テ發布ノ年月日ヲ記入シ市長又ハ代理者之ニ署名ス

附 則

第四條 本條例ハ明治三十六年七月十五日ヨリ施行ス

第十五節 佐世保市町總代設置準則

四〇
明治四十年十月
議決

第一條 市ノ利益ヲ増進スル爲メ各町ニ總代ヲ設置ス

第二條 町總代補佐ノ爲メ各町ニ一名ノ副總代ヲ設ク

副總代ハ總代事故アルトキ其事務ヲ代理ス

但五百戸以上ノ戸數ヲ有スル町又ハ組合ニ在リテハ土地ノ狀況ニ依リ二名以上ノ總代ヲ置クコトヲ得百戸ニ滿タサル町ニアリテハ二町以上ニ一名ノ總代ヲ置クコトヲ得

第三條 町總代及副總代ハ各町住民ノ互選トシ其任期ハ滿二箇年トス但再選セラル、コトヲ得町總代副總代ニ當選シタルトキハ市長ノ認可ヲ經ヘシ

第四條 町總代及副總代ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ選舉スルコトヲ得ス

一 當該區域内ニ住居セサルモノ

二 重禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノ

第五條 總代事務ニ關シ協議會ヲ要スル事項アルトキハ隨時協議會ヲ開ク

協議會ハ町總代之ヲ開催ス

第六條 町總代ハ協議會ノ議長トナル

第七條 協議會員ハ戸主又ハ其委任ヲ受ケタル代人ヲ以テ之ニ充ツ但代人ハ其町内ニ住居スル者ニ限ル

第八條 協議會ノ事項ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第九條 町總代ニ於テ取扱フヘキ事務ノ概目左ノ如シ

一 市ノ事務ニ關シ市長ヨリ町内住民ニ達若クハ通知ヲ要スルモノアルトキハ總代ハ之ヲ受持區域内ニ傳達シ若クハ之カ意見ヲ答申スルコト

二 公私ノ利益ヲ圖リ隣保ノ情誼ヲ厚カラシムルコト

三 郵便貯金又ハ其他ノ方法ニ依リ可成蓄積ノ法ヲ設クルコト

四 住民ノ出入ヲ明カニスルコト

但市内他町ヨリ轉入ノモノハ當該町總代ノ通知ヲ受ケ(他府縣郡市町村ヨリ轉入ノモノハ前住地ヲ明カニスルヲ要ス)又他町へ轉出ノモノニ在リテ

ハ當該町總代へ通知書ヲ發シ以テ各町連絡ノ法ヲ設クルコト
第十條 町總代ニ於テ要スル所ノ費用ハ各町住民ノ負擔トス

附 則

第十一條 本準則ニ於ケル町總代ノ事務ハ其町名ヲ附セサル箇所ニ在リテハ各
字ニ之ヲ適用ス

第十六節 佐世保市稅徵收法

明治四十年
佐世保市告示

第一條 地價割ハ其ノ年四月一日現在ノ地租額ヲ基礎トシ一箇年分ヲ市會ニ於
テ議定シタル課率ニ據リ其ノ徵收期ニ於ケル地租ヲ納ムルモノヨリ之ヲ徵收
ス
四月一日以後新タニ有租地トナリタル土地ニ就テハ其ノ地租額ニ據リ又四月
一日以後徵收期以前ニ於テ地租ヲ免除セラレタル土地ニ就テハ免除ニ於ケル
地租ヲ納ムヘキモノヨリ隨時之ヲ徵收ス

第二條 國稅所得稅附加稅同營業稅附加稅ハ一箇年分ヲ上下二期ニ分チ市會ニ
於テ議定シタル課率ニ據リ本稅ヲ本市ニ於テ納付スルモノヨリ之ヲ徵收ス

但所得稅ヲ本市ニ於テ納付スルモ本市ニ於テ全然收入ナキ者ニ對シテハ所
得稅附加稅ヲ徵收セス

所得稅納稅者ニシテ第一期納稅後十二月以前他管ヨリ轉入セシモノニ對シテ
ハ下半年分ヲ徵收シ翌年一月以後轉入セルモノニ對シテハ之ヲ徵收セス又第
一期納稅後十二月以前他管へ轉出セシモノニ對シテハ下半年分ヲ徵收セス翌
年一月以後轉出セルモノニ對シテハ之ヲ徵收ス

第三條 地價割國稅所得稅附加稅同營業稅附加稅ノ徵收期日ハ市參事會ニ於テ
之ヲ定ム但隨時收入ニ係ル徵收期日ハ徵稅令書發布ノ日ヨリ七日限リトス

第四條 縣稅營業稅附加稅同雜種稅附加稅同戶數割附加稅ハ一箇年度分ヲ上下
二期ニ分チ市會ニ於テ議定シタル課率ニ據リ縣稅ト同時ニ之ヲ徵收シ四月一
日以後新タニ納稅義務ノ生シタルモノ及ヒ納期以前納稅義務ノ消滅シタルモ
ノハ隨時縣稅ト同時ニ之ヲ徵收ス縣稅雜種稅中狩獵稅漁業稅ノ內第五種乃至

八種ノ附加税ハ縣稅ト同時ニ同年度分ヲ一時ニ徵收ス
 同雜種稅中月稅ノ附加税ハ其ノ月十五日限リ一月以後新タニ納稅義務ノ生シ
 タルモノ及ヒ日稅頭數稅ノ附加税ハ其ノ日日縣稅ト同時ニ之ヲ徵收ス
 第五條 水道區域割市稅ノ地價割縣稅戶數割附加同雜種稅中私法人建物稅ノ附
 加ハ前各條ノ規定ニ據リ之ヲ徵收ス

附加

第六條 本規則ハ明治四十一年度所屬ノ徵收ヨリ施行ス

第十七節 佐世保市納稅獎勵規則

大正元年十一月
 佐世保市告示第五十七號

第一條 本市ニ納ムヘキ稅金ヲ納期ニ完納シタルモノハ本規則ニ依リ獎勵金ヲ
 交付ス但隨時收入ニ係ルモノハ此ノ限リニアラス

第二條 獎勵金ハ之ヲ左ノ五等ニ分チ納期毎ニ箇數ヲ定メ抽籤ニ依リ之ヲ交付
 ス但等級金額ハ時宜ニ依リ之ヲ増減スルコトアルヘシ

- 一等 五圓
- 二等 三圓
- 三等 二圓
- 四等 一圓
- 五等 五十錢

第三條 獎勵金交付ノ爲メ稅金納入ノ際告知書又ハ令書一通毎ニ第一號様式ノ
 抽籤票ヲ交付ス但抽籤票ハ紛失其他如何ナル事由アルモ再交付ヲ爲サス

第四條 獎勵金ノ抽籤ハ每納期ノ翌月十日迄ニ日時ヲ豫告シテ市役所内ニ於テ
 之ヲ行フ其當籤番號ハ直ニ之ヲ廣告ス但時宜ニ依リ數箇月分ヲ合併シ同時ニ
 抽籤ヲ行フコトアルヘシ

第五條 抽籤ハ完納者三名以上ノ立會ヲ得テ之ヲ行フ

第六條 當籤者ハ廣告ノ日ヨリ三十日以内ニ抽籤票ヲ提示シ獎勵金ヲ請求スヘ
 シ若シ其期限ヲ經過シタルトキハ無効トス

第七條 廣告ハ本市公文公布式ニ依ル

附則

本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(抽籤票樣式略)

第十八節 兒童組合設置規程

明治三十七年四月
佐世保市制定

第一條 小學校兒童ヲ不時ニ呼集シ又平素校外取締上便宜ノ爲其住所ニヨリ組合ヲ設置ス

第二條 組合ノ區域ハ凡ソ左ノ標準ニ依リ定ムルモノトス(區域表略)

第三條 各組合ニ各學級ヨリ二名宛ノ伍長ヲ置ク

第四條 各組合ニ全校ヨリ一名宛組長並ニ副長ヲ置ク

第五條 組長並ニ副長ハ第三四學年兒童ヨリ之ヲ選任ス

第六條 組長副組長及伍長ノ平素ノ行爲ハ擔任教員主トシテ之カ監督ヲナスモノトス

第七條 組長副長及伍長ノ勤務ノ良否ハ擔任教員ノ報告ニヨリテ學校長之ヲ賞

罰ス

第八條 各組長ハ組合名簿ヲ製シ置キ異動アルトキハ遲滯ナク之ヲ加除スヘシ

第九條 兒童轉居スルトキハ遲滯ナク其組合伍長ニ届出シメ伍長ハ之ヲ組長ニ

報告スヘシ若シ轉居ノ爲組合ヲ異ニスルトキハ組長ハ之ヲ新ニ入ルヘキ組合ノ組長ニ通告シ前條ノ手續ヲナスモノトス

第十條 組長及伍長ニシテ他ノ組合内ニ轉居スルトキハ其任務ハ自然消滅スルモノトス此際擔任教員ハ遲滯ナク後任ヲ選定スヘシ

第十一條 學校ヨリ不時ニ傳達スヘキ命令アルトキハ學校ハ之ヲ各組長及副長ニ傳ヘ組長及副長ハ之ヲ伍長ニ傳ヘ伍長ハ之ヲ組合員ニ傳達スルモノトス

第十二條 各擔任教員ハ時時兒童組合ニ關シ遵守スヘキ事項ヲ訓示シ其實行ヲ監視スヘシ

第十三條 組長副長及伍長ハ平素各其部下ノ取締ニ任シ部下兒童ノ行爲ノ善惡ニ就テ見聞シタルコトハ其都度擔任教員ニ報告スヘシ

第十九節 生徒取締上ノ施設方法

明治三十九年八月
佐世保市制定

- 一 左ノ各點ニ關シ特別ノ注意ヲ以テ講堂訓話ヲ爲スコト
 - イ 戰後ノ日本ヲ知悉セシムルコト
 - ロ 皇運ノ無窮ヲ觀念セシムルコト
 - ハ 國體ヲ重ンシ國是ニ據リ皇室ト國家トニ貢獻スル所以ヲ深ク印象セシムルコト
- 二 修身訓話等ノ材料ニハ主トシテ健全ナル思想ト確實ナル目的トヲ有シ大成ヲ永遠ニ期シタル人物ヲ取ルコト
- 三 校内適當ノ場所ニ左ノ如キ設備ヲ爲スコト
 - イ 人物ノ肖像ヲ掲クルコト
 - ロ 世界地圖ヲ掲クルコト
 - ハ 日本ノ膨脹發達圖ヲ掲クルコト
- 四 身體ヲ鍛鍊シ困難ニ堪フル習慣ヲ養成センカ爲左ノ各種ノ運動ヲ獎勵スル

コト

- 擊劍 柔道 游泳 漕艇 綱曳 角力 弓術 諸種ノ競走 遠足 登山
長途旅行 野球 庭球 フートボール 其他ノ各種ノ遊戲
- 五 校訓ヲ制定シテ扁額又ハ幅物ノ如キモノトシ座右ノ銘ト爲サシムルコト
- 六 紀律ノ習慣ヲ養成スルコト
 - イ 自ラ時間割ヲ製シ時間ヲ確守シ行動ヲ自制セシムルコト
 - ロ 居所ヲ監視シ物品ヲ整頓セシムルコト
- 七 反省録ヲ記入セシメ檢閲スルコト
- 八 勞働作業ヲ尙ハシメン爲左ノ方法ヲ取ラシムルコト
 - イ 自己身邊ノ事物ハ自ラ處理スルコト
 - ロ 家庭ニ在テハ手工薪割草取其他何ニ寄ラス家事ヲ助クルコト
 - ハ 學校ニ在テハ築庭園藝洒掃其他ノ作業ヲ爲スコト
 - ニ 女生徒ニ在テハ學校ト家庭トヲ問ハス洗濯裁縫修理等ノ作業ニ従事スルコト

九 男女間ノ交際ヲ取締ルコト

- イ 來訪及訪問
- ロ 信書ノ往復

寄宿生ノ父兄ニ對シテハ學校名宛ヲ印刷シタル一定ノ封袋ヲ配付シ置ク
コト

十 節儉ノ美風ヲ養成スルコト

- イ 金錢物品ヲ浪費スルコトヲ恥辱ト感知セシムル訓話ヲ爲スコト
- ロ 學資標準表ヲ示スコト
- ハ 出納簿ヲ設ケ記入セシムルコト
- ニ 學資金ヲ學校ニ保管スルコト
- ホ 學校ハ振替貯金ニ加入スルコト
- ヘ 所持品ノ修理保存ニ注意セシムルコト
- ト 理髮ノ如キハ成ルヘク互ニ行ハシムルコト
- チ 間食ヲ節制セシムルコト

十一 職員中ニ校内監督ヲ設ケ衛生風紀及ヒ運動ニ關スル件ヲ監督セシムルコト

十二 圖書閱覽室ヲ設クルコト

附 閱覽室ニ備ヘサルモ善良ナル書名ハ父兄及ヒ生徒ニ之ヲ指示スルコト

十三 演說討論會ヲ催ス場合ニハ其原稿ヲ檢閲スルコト

十四 學校ノ内外ヲ問ハス服裝及ヒ使用品ヲ檢査シ粗野華美ニ陥ラサシムルコト

十五 家庭ヲ訪問スルコト

- イ 教員ヲシテ成ルヘク屢々家庭ヲ訪問セシメ結果ヲ學校長ニ報告セシムルコト
- ロ 訪問シタル際視察スヘキ要項左ノ如シ
 - 居住所ノ良否 室内ノ整頓 勉學外出ノ狀況 衛生ノ狀況 飲酒喫煙ノ形跡 樂器小説繪畫ノ類ノ有無 來訪ノ友人 信書往復ノ狀況等
- ハ 寄宿生ノ家庭視察ハ學校長教員ノ視察出張ノ際ヲ利用スルコト

- 十六 父兄懇話會ヲ開クコト
- 附 展覽會 運動會 各種娛樂會等ヲ催ストキハ父兄ヲ招クコト
- 十七 通學生ノ爲ニ通學簿寄宿生ノ爲ニ外出簿ヲ設ケ學校ノ出入自宅若ハ保證人ノ宅へ出入ヲ監督スルコト
- 十八 通學區域ヲ學友區ニ分チ各區ニ監督教員ヲ配布シ且區友互ニ相警メシムルコト
- 差支ナキ限教員ノ住所ヲ各區ニ定ムルコト
- 十九 夜間濫リニ外出スルヲ禁スルコト
- イ 校外巡視教員其他ノ職員夜間通行生徒ヲ認メタルトキハ其行先所用等ヲ糺スコト
- ロ 家庭ノ模様ヲ聽クコト
- 二十 生徒氏名ノ標札ヲ門戸ニ掲ケシムルコト
- 二十一 外出ノ際ハ制服若クハ制帽袴ヲ著セシムルコト
- 二十二 特ニ許可シタルモノ、外演說會興行場其他ノ公會ニ立入ルヲ禁スルコト

ト

- 二十三 喫煙飲酒ヲ嚴禁スルコト
- 二十四 遅刻缺課早退缺席ヲ根絶スル方針ヲ取ルコト
- イ 精勤者ヲ賞スルコト
- ロ 缺席届書ヲ徴スルコト
- ハ 各學校出缺席成績ヲ比較シテ互ニ出席ヲ獎勵スルコト
- ニ 無届缺席多數及出缺席常ナラサルモノハ行狀點ヲ削ルカ若クハ處罰スルコト
- 二十五 碁將棋骨牌等ノ遊ヲ禁スルコト
- 二十六 學校カ認ムル監督者ナキトキハ寄宿者ニ入ル、コト
- 寄宿舎ナキ場合ハ認可シタル下宿屋ニ止宿セシムルコト
- 二十七 交友ニ注意セシムルコト
- 生徒間相互訪問ヲ妄ニセシメサルコト
- 二十八 長期ノ休業中ハ日誌ヲ記入セシメ之ヲ檢閲スルコト

二十九 長期ノ休業中ハ左ノ仕事ヲ課スルコト

イ 適度ニ宿題ヲ課スルコト

ロ 特ニ博物標本ヲ蒐集セシムルコト

ハ 實業學校ノ如キ専門ノ學校ニ於ケル最高學年ノ生徒ハ特ニ將來ノ目的ニ副フ事項ニ就キ綿密ナル調査ヲ爲サシムルコト

三十 父兄保護者及ヒ生徒ニ心得書ヲ送ルコト

三十一 特定ノ事項ヲ設ケテ父兄ノ視察ヲ報告セシムルコト

三十二 長期ノ休業中ハ生徒ノ行爲ノ監督ヲ小學校長ニ便宜依託シ報告ヲ得ルコト

三十三 父兄保護者中ノ篤志者ニ生徒校外ノ行動監督ヲ補助セシムルコト

三十四 商人ヲシテ生徒ニ物品ヲ掛賣セサラシムル様豫告スルコト

第二十節 小學校教員退職慰勞金給與

規程 明治四十一年四月
佐世保市制定

第一條 滿五箇年以上本市小學校ニ在職セル教員ニシテ自己ノ便宜ニヨラス退職セシ場合ハ慰勞金ヲ給與ス

前項ニ該當セル者ニシテ在職中死亡セシトキハ其遺族ニ弔慰金ヲ給與ス

第二條 給與金額ノ標準ハ本市在職滿五箇年ヲ本俸一箇月分トシ以上滿二箇年ヲ加フル毎ニ本俸一箇月分ヲ加フ

第三條 第一條ニ該當スルモノニシテ本市教育上特ニ功勞顯著ナリト認ムルモノハ第二條ノ標準額ヲ超テ給與スルコトアルヘシ

第四條 休職期間學校修學期間ハ除クハ通算ス

第五條 此規程ニ依リ一旦給與ヲ受ケシモノ再ヒ就職シタル場合ハ再任ノ日ヨリ起算ス

第六條 教育上特ニ功勞アル者若クハ在職ノ儘外國政府ノ聘ニ應シタル者ニ對

シ必要ト認ムル場合ハ前各條ノ規定ニ依ラス慰勞金ヲ給與スルコトアルヘシ

五六

第二十一節 小學校教員互助會規約

明治四十三年一月
創定

第一章 趣旨

第一條 本市小學校教員緩急相助クル目的ヲ以テ本會ヲ設ク

第二章 會員

第二條 會員ヲ百人トシ一人二十圓宛贈金スルモノトス

第三條 會員ヲ本市小學校教員ニ限ル

第三章 役員

第四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 評議員九名 (各小學校一名宛)

監査員 三名 會計係一名

第五條 役員ノ任期ヲ二箇年トス

第六條 評議員ハ各學校ニ於テ其會員ノ互選トシ會長ハ評議員ノ互選トス

監査員ハ總會ニ於テ評議員ヲ除ケル他ノ會員中ヨリ選舉ス

會計係ハ評議員監査員ニ於テ他ノ會員中ヨリ之ヲ選任ス

第七條 會計係ニハ評議員ノ議決ニヨリ相當ノ報酬ヲナスコトヲ得

第八條 會計係ハ資金ニ對スル預リ證ヲ會長ニ差出シ置クモノトス

第四章 貸付並ニ償還

第九條 本會資金ハ本市小學校教員ニ限リ會員ニハ出資額ト月俸額ノ八割以內

其他ニハ月俸額ノ八割以內ノ範圍ニテ之ヲ貸付スルモノトス

第十條 利子ハ通常ノ場合ハ月八厘非常ノ場合本人一箇月以上引入加養ヲ要ス

ル病氣ニ罹リタルトキ火災水難ニ罹リタルトキ及家族ノ死亡ニ遇ヒタルトキ)

ニハ二厘ヲ減ス但役員會ノ議決ニヨリテ之ヲ變更スルコトアルヘシ

第十一條 利子ノ計算ハ貸付十五日以前ハ一箇月十六日以後ハ半箇月償還十五

日以前ハ半箇月十六日以後ハ一箇月トス

第十二條 償還ノ期限ハ貸借ノ月ヨリ一時拂ハ六箇月以內月賦拂ハ十箇月以內

トシ償還元高ニ相當ノ利子ヲ附スルモノトス但資金ノ都合ニ依リ引續キ貸付
クルコトアルヘシ此場合ニハ總テ月賦拂證書ニ書換ユルヲ要ス

第十三條 定期利子拂込期ヲ五月十一月トス

第十四條 會計係ハ本規約ニ違背シ貸付ケタル場合ニハ無限責任ヲ有スルモノ
トス

第十五條 借用人ハ借用證其校會計係ノ認印ヲ要ス及所定ノ委任狀市外ニ轉任
シ又ハ退職ノ場合若クハ期限内ニ返金セサルトキハ出資金俸給其他ノ給與金
受領方ヲ委任スルモノヲ納レテ金ヲ受取ルモノトス

第五章 決算並ニ利益配當

第十六條 毎年十一月三十日ヲ以テ決算期トシ利益ノ内諸雜費ヲ控除シタルモ
ノヲ會員ニ配當スルモノトス

第十七條 決算後二十日以内ニ總會ヲ開キテ決算報告ヲナスモノトス

第六章 退會並ニ補充

第十八條 會員退會セントスル場合ハ該年度始ヨリ月四厘ノ利子ヲ附シテ資金

ヲ返還シ翌年度始ニ之ヲ補充スルモノトス

補則

本規約ニ於テ小學校教員トアルハ休職者ヲ除キタルモノトス

第二十二節 小學校兒童學用品購買部

準則

明治四十五年佐世保市小
學校長會議ニ於テ議定

- 一 兒童ニ質實ナル一定ノ學用品ヲ供給シ濫費ノ弊ヲ防キ學校家庭相互ノ便宜
ヲ圖ルノ目的ヲ以テ購買部ヲ學校内ニ設置ス
- 一 購買部ニテハ教科書ヲ除キタル他ノ學用品ヲ取扱フ其品目ハ各學校ノ任意
トス
- 一 購買部ノ物品ハ原價ヲ以テ分配ス
- 一 購買部ニ係員ヲ置キテ事務ヲ處理ス但兒童中ヨリ助手ヲ採用スルコトヲ得

- 一 決算ハ毎月末ノ外學期末及學年末ニ之ヲ行フ
- 一 細則ハ各學校ニ於テ適宜之ヲ定ム

第二十三節

佐世保市補習教育規程

大正元年十一月
佐世保市制定

- 第一條 補習教育ハ學校教育ノ效果ヲ一層確實ナラシメンカ爲メ卒業生ノ品性ヲ陶冶シ處世上ニ必須ナル智識技能ヲ授クルヲ以テ目的トス
- 第二條 補習教育ノ期間ハ卒業後丁年ニ達スル迄女子ハ滿十七歲迄毎年二回男子ハ五月中旬十月中旬夜間女子ハ四月下旬九月中旬晝間右六日間トス
但卒業學校程度以上ノ學校ニ在學スル卒業生ニハ補習教育ヲ免除ス
- 第三條 補習教育ノ授業時間ハ毎日三時間トス
- 第四條 補習教育ノ學科ハ修身(二時間)國語(八時間)內讀方(七時間)綴方(一時間)算術(六時間)國民科(二時間)トス
- 第五條 補習教育ノ擔任委員ハ學校長並ニ卒業當時ノ擔任教員トス但已ムヲ得

サル場合ハ此限ニアラス

- 第六條 補習教育ノ事務ヲ補助スル爲メ同期卒業生中ヨリ委員若干名ヲ選ヒ學校長之カ任命ヲナス
- 第七條 學校長ハ補習教育ヲ受クヘキ者ノ住所氏名ヲ教育期日ノ十五日前迄ニ市長ニ報告スルモノトス
- 第八條 卒業生ハ毎年男子ハ四月二十日及九月二十日女子ハ三月末日及八月二十日迄ニ其住所ヲ被雇者ハ其雇主ヲモ學校ニ届出ツヘシ
- 第九條 補習教育ヲ受クヘキモノニハ一定ノ補習教育手帖ヲ携帯セシメ補習教育ノ都度必要事項ヲ記入シテ本人ニ交付スルモノトス
- 第十條 補習教育ノ狀況ハ其都度市長ニ報告スルモノトス

附 則

本規程ハ大正元年度卒業生ヨリ實施ス

第二十四節 佐世保市水道規則

明治四十年
一部改正

第一章 通 則

- 第一條 水ノ供給ハ總テ計量法ニヨル
- 第二條 水ハ直接衛生ニ關係アル使用ニ限リ市内ニ供給ス
但本市ノ衛生上利益ヲ保持スル爲メ必要ト認ムル時ハ特ニ市外ニ供給スル
コトアルヘシ
- 第三條 水ノ供給ハ専用給水私設共用給水公設共用給水船舶給水ノ四種トス
- 第四條 専用給水ハ一箇ノ邸宅又ハ官公署學校其ノ他營業用ニ供給スルモノト
ス
- 第五條 私設共用給水ハ家主ニ於テ裝置費ヲ負擔シ一箇ノ量水器ヲ以テ二戸以
上共用シテ使用スルモノニ供給ス
量水器ノ私費設置ヲ希望スルモノハ特ニ讓渡スルコトアルヘシ
- 第六條 公設共用給水ハ賃貸價格一箇月五圓未滿ノ住宅ニ居住スルモノ又ハ直

- 接國稅納額一箇年三圓未滿ノ者ニシテ十戸以上ノ組合ヲ組織シタルモノ、共
同使用ニ供給スルモノトス
- 賃貸價格ハ本市家屋稅賃貸價格ニ依ル前條及本條共用給水組合ハ總代人ヲ選
定シ組合ヲ代表シ給水ニ關スル責任ヲ負フモノトス
- 市長ニ於テ總代人不適當ト認ムル時ハ改選ヲ命ス此場合ハ更ニ總代人ヲ選定
シ直ニ市役所ニ届出ツヘシ
- 第七條 船舶給水ハ船舶乗組員ノ炊爨用ニノミ供給スルモノトス
船舶給水ハ本市ニ現住シ本市内ニ土地若クハ家屋ヲ所有スル水栓管理人ヨリ
設置ヲ請求スルモノトス
- 第八條 自費ヲ以テ防火栓ノ設置ヲ請求スルモノアル時ハ之ヲ許可スルコトア
ルヘシ
- 私設防火栓ハ火災又ハ演習ノ外使用スルコトヲ得ス私設防火栓ハ市役所ニ於
テ封緘スルモノトス
- 第九條 公設共用栓船舶給水栓及量水器ハ市費ヲ以テ設置ス

公設共用栓船舶給水栓及量水器竝ニ附屬具ハ總テ使用者管理ノ責ニ任ス之ヲ毀損シタル時ハ何人ノ所爲ニ拘ラス使用者ニ於テ辨償スルモノトス
量水器及水栓ハ清潔ニ保管スヘシ

第十條 公設共用栓使用者ニハ鍵及鑑札ヲ貸與ス

第十一條 水道使用者ノ門戸ニハ市役所ヨリ交付シタル標識ヲ掲クヘシ

第十二條 鑑札鍵標識及水道番號札ヲ毀損又ハ紛失シタル時ハ之ヲ辨償スルモノトス

第十三條 給水装置ハ其家屋ト分離シテ權利ヲ移轉スルコトヲ得ス

第二章 設 備

第十四條 左記事項ニ該當スルモノハ本市ノ住民ト否トニ拘ハラス給水装置ヲ請求スルコトヲ得

- 一 水道使用ノ目的タル家屋ヲ所有スルモノ
但家屋ノ登記謄本抄本若クハ市長ノ證明書ヲ以テ其所有權ヲ證明シタルモノニ限ル

二 官公署又ハ學校病院等

第十五條 給水装置ハ總テ市役所ニ於テ設備シ其費用ハ請求人ノ負擔トス

但其装置ハ裝置竣工後請求者ノ所有ニ歸ス請求人ニシテ本市ニ現住セサルモノハ管理人ヲ選定シ連署ノ上届出ヘシ其變更ノ場合亦同シ

市長ニ於テ管理人不適當ト認ムル時ハ變更セシムルコトアルヘシ

管理人ハ家屋ノ所有權者ト同一ノ責ニ任スルモノトス

第十六條 給水装置及増設變更ヲ要スルモノハ設計手数料ヲ添ヘ市役所ニ請求スヘシ市役所ハ費用調書ヲ製シ拂込期日ヲ定メ請求人ニ通報シ拂込ヲ俟テ工事ニ著手スルモノトス

但事急ナル時ハ施行後拂込マシムルコトアルヘシ

第二十條 給水装置竣工後三箇月以内ニ給水用具ニ瑕疵アルコトヲ發見シタル時ハ無償ニテ市役所之ヲ修繕ス

但此期間内ト雖モ變異又ハ故意若ハ不注意ニ起因スルモノハ此限りニアラス

第二十一條 道路變更其他ニヨリ水道管ノ移轉ヲ必要トスル場合ハ之ニ伴フ給水用具ノ改造工事ハ所有者ノ請求ヲ俟タス市役所ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ費用ハ水管移轉ノ必要ヲ生セシメタルモノ、負擔トス

第二十二條 給水装置ノ破損又ハ給水ニ異狀ヲ生シタル時ハ速ニ市役所ニ届出ヘシ

第二十三條 水道ノ設備ハ水道係員ノ指定シタル部分ノ外之ニ接觸スルコトヲ得ス

第二十四條 給水装置所有者ニ於テ水道使用ヲ廢シタル時ハ其旨市役所ニ届出ヘシ

第二十五條 給水中止三箇月以上ニ渉ルモノハ市設量水器其他ハ撤去スルモノトス

中止期間中ト雖モ量水器其他市設ニ係ル部分ノ存置ヲ希望スルモノアル時ハ存置スルコトアルヘシ

第二十六條 前條ニヨリ市設量水器其他ヲ撤去後給水ノ請求アルモ市役所ハ器

具其他ノ都合ニヨリ直ニ給水開始ノ運ニ至ラサルコトアルヘシ

此場合ニ於テハ市役所ハ其責ニ任セス

第二十七條 管末装置ヲ爲サントスルモノハ市役所ノ承認ヲ受クヘシ但工事竣工ノ後ハ速ニ検査ヲ受クヘシ

第三章 給 水

第二十八條 給水ハ晝夜不斷トス

但天災事變又ハ水道ノ破損其他佐世保鎮守府ノ都合等止ムヲ得サル場合ニ於テハ一時給水ヲ停止シ又ハ水量ヲ制限スルコトアルヘシ此場合ヨリ生スル損害ニ對シテ市ハ其責ニ任セス

前項ノ場合ニ於テハ豫メ公告スヘシト雖モ事急遽ナル場合ハ之ヲ公告セサルコトアルヘシ

第二十九條 天災事變ノ爲メ家屋焼失又ハ破壊シ給水ノ必要ナシト市役所ニ於テ認ムル時ハ其家主ヨリ引繼キ給水ノ申出アル迄ハ一時給水ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十條 消防ノ爲メ私設防火栓ヲ使用シタル時ハ其旨直ニ市役所ニ届出ヘシ
第三十一條 演習ノ爲メ私設防火栓ヲ使用セントスル時ハ豫メ市役所ニ届出當
該吏員ノ立會ヲ求メ其指揮ニ從フヘシ

第三十二條 水道使用者ニ於テ量水器ノ作用ニ關シ試験ヲ請求スルコトヲ得
第三十三條 左記各號ノ一ニ該當スルモノハ給水ヲ停止ス

- 一 水道使用者其管理ヲ放棄シタル時
- 二 水道ニ關スル費用又ハ使用料ヲ指定期限内ニ納付セザル時
- 三 當該職員ノ職務執行ヲ妨害シタル時

四 水ヲ他ニ分與シタル時

五 濫リニ給水装置ヲナシタル時

六 前各號ノ外此規則ニ違背ノ廉アル時

第三十四條 水道係員ハ給水検査ノ爲メ日出ヨリ日没迄ノ間ニ於テ水道使用者
ノ邸宅ニ立入ルコトアルヘシ
此場合ニ於テハ當該吏員タル證票ヲ携帯スルモノトス

第三十五條 給水種類ノ決定ハ市長ノ認定ニヨル

附 則

第三十六條 本規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第三十七條 本規則ノ施行ニ關スル細則ハ市長之ヲ定ム

第二十五節 佐世保市水道條例

使用料
手数料
明治四十四年十一月
内務省許可

第一條 水道使用者ハ使用料ヲ納付スルモノトス

第二條 水道使用料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徴收ス

一 専用給水及私設共用給水

市内 一石ニ付 金九 厘

市外 同 金一錢五厘

但一戸ニ付一箇月使用高三百石ヲ超過スル時ハ其超過額ニ對シ一石ニ付

市内 金七 厘

市外 金一錢二厘
同一千石ヲ超過スル時ハ其超過額ニ對シ一石ニ付

市内 金四厘

市外 金七厘

二 湯屋營業者專用給水

市内 一石ニ付 金四厘

市外 同 金七厘

但一戸ニ付一箇月使用高三千石ヲ超過スル時ハ其超過額ニ對シ一石ニ付

市内 金三厘

市外 同 金六厘

三 公設共用給水

市内 一石ニ付 金五厘

市外 同 金九厘

四 船舶給水

同 金一錢五厘

五 私設防火栓演習一回十分以内トス 金三圓

第三條 水道使用料ハ左記金額ヲ以テ最低限度ト定メ一箇月ノ使用料該金額ニ

達セサル時之ヲ徴收ス

使用日數一箇月ニ滿タサル時亦同シ

一 専用給水及私設共用給水

市内 一箇月一戸 金四十五錢

市外 同 金七十五錢

二 湯屋營業者專用給水

市内 一箇月一戸 金三圓六十錢

市外 同 金六圓三十錢

三 公設共用給水

市内 一箇月一戸 金十五錢

市外 同 金二十七錢

四 船舶給水

一箇月一基ニ付 金六圓七十五錢

第四條 使用料ハ月ノ下旬ニ於テ量水器ヲ點檢シ使用水量ニヨリ其徵收額ヲ査定シ翌月十日迄ニ徵收ス

公設共用給水使用者ハ給水開始前市役所ノ指定ニ從ヒ二箇月分ノ概算使用料ヲ前納ス可シ

爾後毎前月分ヲ徵收ス前納シタル概算使用料ハ水道使用ヲ廢止シ又ハ停止シタルトキ精算額ヲ差引其差額ヲ追徵若クハ還付ス

第五條 量水器ノ故障其他事故ノ爲メ使用量明確ナラサル時ハ前月ト同額ノ使用料ヲ徵收ス

第六條 公設共用栓及私設共用栓使用者ハ總代人ヲシテ使用料代納者タラシムルコトヲ得

第七條 水道使用料ハ給水ノ制限及停止ノ場合ト雖モ第二條第三條ニヨリ徵收ス

第八條 慈善團體及赤貧者ニ對シテハ市長ニ於テ特ニ其使用料ヲ減額又ハ免除スルコトアルヘシ

第九條 設計手數料試驗手數料檢査手數料及撤去手數料中止料左ノ通りトス

一 給水裝置設計手數料 金一圓

二 給水裝置變更設計手數料 金五十錢

三 量水器試驗手數料 金二圓

四 管末裝置檢査手數料 金五十錢

五 量水器撤去手數料 金三十錢

六 中止料 一箇月 金十五錢

第十條 停水處分ヲ解除スル場合ニ於テハ左記ノ手數料ヲ徵收ス

一回ニ付 金二十錢

第十一條 本條例ニ於テ徵收スヘキ一口ノ金額ハ厘位四捨五入ノ法ニヨリ錢止トス

第十二條 水道使用者ニ於テ使用料手數料ヲ納メサルトキハ其給水裝置所有者ニ代納セシムルコトアルヘシ

第十三條 給水裝置アル家屋ノ改築新築及給水裝置請求中ニ係ルモノニハ水道

規則第六條ノ資格以上ノモノヲシテ一時公設共用栓使用ヲ許可スルコトアル
 ヘシ此場合ハ條例第二條第三條專用給水ト同等ノ比率ヲ以テ使用料ヲ徵收ス
 第十四條 水道規則第二十四條ノ届出ナク市役所ニ於テ廢止ノ状態ニアリト認
 ムルトキハ市設ニ係ル量水器其他ハ撤去シ撤去手數料ヲ徵收ス
 第十五條 水道規則第二十五條第一項ノ場合ハ撤去手數料ヲ同條第二項ノ場合
 ハ中止料ヲ徵收ス

第十六條 左ノ各號ニ該當スルモノハ金一圓ノ過料ニ處ス

但情狀ノ酌量スヘキモノハ市長ニ於テ特ニ輕減スルコトアルヘシ

- 一 水道規則第三十三條第三號第四號第五號ニ該當スルモノ
- 二 共用給水使用者間ニ於テ鑑札及鍵ヲ貸借シ使用シタルモノ
- 三 共用給水ノ鍵ヲ模造變造シタルモノ

第十七條 水道使用者ノ請求ニ依リ量水器試驗ノ結果量水器完全ナルトキハ試
 驗手數料ヲ徵收ス

附 則

第十八條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十九條 本條例施行細則ハ市長之ヲ定ム

第二十六節 佐世保市屠場使用料條例

明治四十二年
七月制定

第一條 本市立屠場ニ於テ獸畜ヲ屠殺スル者ニ對シ本條例ノ規定ニヨリ使用料
 ヲ徵收ス

第二條 屠場使用料ハ左ノ範圍内ニ於テ市參事會之ヲ定ム

市ノ屠夫ヲシテ屠殺セシムル場合ハ前項ニ依リ定メタル使用料ノ外其十分ノ
 五ノ使用料ヲ増徴ス

成牛 一頭ニ付 金一圓以上二圓以下

犢牛 同 金四十錢以上一圓以下

馬 同 金一圓以上二圓以下

豚 同 金三十錢以上一圓以下

山羊 一頭ニ付 金二十錢以上五十錢以下
羊 同 金三十錢以上一圓以下

第三條 病毒アル獸畜ヲ屠殺シタル場合ハ前條ニ依リ定メタル使用料ニ相當スルノ外同條第一項ニ依リ定メタル使用料ノ十分ノ五ノ使用料ヲ増徴ス

附 則

第四條 本條例ハ明治四十二年七月一日ヨリ施行ス

第二十七節

佐世保市屠場使用料徴收
規程附屠場内心得

第一條 本市屠場ヲ使用セントスル者ハ屠殺解體五時間前其獸畜ノ種類頭數及日時ヲ具シ市長ヘ届出ツ可シ

但急ヲ要スル特別ノ事情アル場合ハ此ノ限リニアラス

第二條 使用料ハ屠場使用ノ際之ヲ徴收ス

但使用料ヲ領收シタルトキハ領收證ヲ交付ス

屠場内心得

- 一 屠畜ハ生體検査開始時刻前迄ニ到着スヘシ
- 一 屠夫内臓取扱人ハ生體検査開始時刻前迄ニ屠場ニ參集スヘシ
- 一 屠場管理者ハ警察官又ハ検査員ノ指揮ヲ受ケ生體検査開始ヲ號鈴スヘシ
- 一 屠夫及内臓取扱人ハ號鈴アリタルトキハ所定ノ服裝ヲナシ警察官又ハ検査員ノ點檢ヲ受クヘシ
- 一 但服裝不潔ト認ムルトキハ更衣セシムルコトアリ
- 一 屠場管理者ハ生體検査開始ト同時ニ正門ヲ閉鎖シ警察官又ハ検査員ノ許可ナクシテ猥リニ出入セシムヘカラス又裏門ハ一切通行スヘカラス
- 一 但危急ノ場合ハ此限リニアラス
- 一 獸體ノ著シク汚染シタルモノハ生體検査前拭掃スヘシ
- 一 作業中ハ靜肅ニシテ屠室内ニテ放歌喫煙又ハ唾壺外ニ放唾スヘカラス
- 一 屠肉運搬車肉容器其他ノ携帶品ハ一定ノ場所ニ置キ場内ニ散亂スヘカラス

- 一 屠室内屠肉運搬ニハ清潔ナル「ズツク」又ハ産ヲ用ヒ他物ニ接觸スヘカラス
- 一 屠肉内臓皮革容器ハ日日洗滌シ常ニ清潔ノモノヲ用ユヘシ
- 一 屠肉ハ検査前清拭シ内臓ハ洗滌ノ上検査臺ニ整列スヘシ
- 一 屠畜屠殺ハ虐待ノ行爲ナキ様注意スヘシ
- 一 屠室内ニハ屠夫内臓取扱人ノ外検査員又ハ警察官ノ許可ナクシテ出入スヘカラス
- 一 屠場管理者ハ場内及器具ノ清潔完備ヲ保持シ業務上支障ヲ來スコトナキ様常ニ注意スヘシ

第二十八節 大村灣水産組合定款

明治三十七年一月
長崎縣認可

第一章 總 則

第一條 本組合ハ水産業ノ改良發達及水産動植物ノ蕃殖保護其他組合員共同ノ利益ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本組合ノ業務左ノ如シ

- 一 漁撈養殖及製造ノ調査指導ニ關スル事項
 - 二 水産動植物ノ蕃殖保護ニ關スル事項
 - 三 販路ノ調査ニ關スル事項
 - 四 營業品ノ検査ニ關スル事項
 - 五 紛議調停ニ關スル事項
 - 六 博覽會共進會及品評會ノ出品ニ關スル事項
 - 七 共同販賣所ニ關スル事項
 - 八 前項ノ外水産業上必要ト認ムル事項
- 第三條 本組合ハ大村灣水産組合ト稱ス
- 第四條 本組合ノ事務所ハ佐世保市鹽濱町八十一番地ニ置ク
- 第五條 本組合ノ地區ハ長崎縣東彼杵郡佐世保市北高來郡ノ内眞津山村及西彼杵郡ノ内喜々津村大草村伊木力村長與村時津村村松村長浦村龜岳村大串村瀬川村ノ區域ニ依ル

第六條 本組合ハ地區内ニ於ケル漁業者製造業者及販賣業者ヲ以テ組織ス
第七條 本組合ニ於テ使用スル印章左ノ如シ

一寸二分
大村灣
水産組
合之印

六分
大村灣
水産組
合長印

第二章 組合員ノ届出及資格消滅

第八條 組合員タル資格ヲ有スルモノハ其營業ノ種類及氏名住所ヲ記シ組長ニ
申出ツヘシ

前項ノ申出アリタルトキハ組長ハ之ヲ組合員名簿ニ記載スヘシ

第九條 組合員タル資格消滅シタルトキハ其旨ヲ組長ニ届出ツヘシ

第十條 前條届出ヲ受理シタルトキハ組長ハ組合員名簿ヨリ其氏名ヲ削除スヘ
シ

第十一條 組合員營業ノ種類又ハ氏名住所ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ

届出ツヘシ

第三章 組合員ノ權利義務

第十二條 組合員ハ總會ニ出席シテ表決ヲ爲ス權利並ニ議員ノ選舉權及ヒ被選
舉權ヲ有ス

組合員ハ組合事務所ニ出頭シテ帳簿ノ閲覽ヲナシ又ハ事業上ノ實況ヲ質問シ
及ヒ意見ヲ述ヘ若クハ書面ヲ提出スルコトヲ得

第十三條 組合員ハ定款及ヒ會議ノ決議ヲ遵守シ並ニ組合經費ヲ負擔スル義務
ヲ負フ

第四章 役員及事務員

第十四條 本組合ニ左ノ職員ヲ置ク

- 一 組長 一名
- 一 副組長 一名
- 一 評議員 九名

役員ハ議員會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス

第十五條 役員ノ任期ハ四箇年トス但再選ヲ妨ケス

補缺選舉ニ依リ就任シタル評議員ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

組長又ハ副組長任期滿了ニ依リ退任シタルトキハ後任者ノ就任ニ至ル迄尙其職務ヲ行フ

第十六條 辭任其他ノ事由ニ依リ役員ニ缺員ヲ生シタルトキハ通常議員會ヲ俟

ツコト能ハサル場合ニ限リ臨時議員會ニ於テ補缺選舉ヲ爲スモノトス

議員會ニ於テ役員ノ解任ヲ議決シタルトキハ同時ニ其補缺選舉ヲ爲スヘシ

第十七條 組合員ニ正當ノ事由ナクシテ役員ノ當選ヲ辭シ又ハ其職ヲ辭スルコトヲ得ス

第十八條 常務ヲ擔當スル役員ハ有給職トシ其他ノ役員ハ名譽職トス

第十九條 本組合ニ技術員一名書記一名取締人若干名ヲ置キ組長之ヲ任免ス

技術員ハ組長ノ指揮ヲ受ケ技術ニ關スル事務ニ従事ス

書記ハ組長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

取締人ハ組長ノ指揮ヲ受ケ各受持區内ニ於ケル組合費ノ徵收及營業品検査ノ

事務ニ従事ス

第二十條 定款及業務ノ執行ニ關スル細則ハ評議員會ニ於テ之ヲ定ム

第五章 會議

第二十一條 會議ハ總會評議員會及營業部會ノ四種トス

總會ハ組合員ヲ以テ組織ス

評議員會ハ議員ヲ以テ組織ス

營業部會ハ選出議員中ノ同種營業者ヲ以テ組織ス

第二十二條 總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

一 組長カ必要ト認メタルトキ

二 組合員五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求シタルトキ

第二十三條 議員ハ組合員五十人ニ付一人ノ割合ヲ以テ營業種類毎ニ市町村ノ

區域ニ依リ之ヲ互選スルモノトス

但二十人以上ノ市町村ハ五十人未滿ト雖モ一人ノ議員ヲ置クコトヲ得

第二十四條 議員ノ任期ハ三箇年トス但再選ヲ妨ケス補缺選舉ニヨリ當選シタル議員ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

第二十五條 通常議員會ハ毎年一回十二月之ヲ開ク

第二十六條 臨時議員會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

一 組長カ必要ト認メタルトキ

二 評議員ノ過半数又ハ議員五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求シタルトキ

第二十七條 評議員會ハ組長ニ於テ必要ト認ムルトキ之ヲ招集ス

第二十八條 營業部會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

一 組長カ必要ト認メタルトキ

二 同種營業者五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求シタルトキ

第二十九條 營業部會ハ同種營業者ノミノ利害ニ關スル事項ノ外議決スルコトヲ得ス

組長ニ於テ營業部會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ議員會ノ決議ヲ經テ之ヲ取

消スコトヲ得

第三十條 會議ノ招集ハ組長七日前ニ書面ヲ以テ各組合員又ハ各議員ニ通知ス

ヘシ但議員會開會中營業部會ヲ招集スル場合ハ此限リニアラス

評議員ノ招集ハ會議ノ三日前迄ニ組長ヨリ通知スルモノトス但至急ヲ要スル場合ハ前各項ノ期限ニ依ラサルコトヲ得

第三十一條 總會ハ組合員議員會ハ議員各三分ノ一以上出席スルニアラサレハ

開會スルコトヲ得ス但同一事項ニ就キ再度招集シタル場合ハ此限リニアラス

第三十二條 議員會ノ決議ハ出席員ノ過半数ニ依ル可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第三十三條 會議ノ議長ハ組長之ニ當ル

組長副組長事故アルトキハ他ノ役員ノ一人之ニ代ル但會議ノ決議ヲ以テ出席員之ヲ互選スルコトヲ得

第三十四條 會議ノ決議録ハ議長及出席員三名以上記名捺印スヘシ

第三十五條 議事ニ關スル細則ハ各其會議ニ於テ之ヲ定ム

第六章 會計

八六

第三十六條 本組合ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第三十七條 本組合經費ノ豫算及徵收法ハ議員會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム經費ノ決算ハ議員會ノ承認ヲ經ヘシ但經費決算ノ承認ハ評議員會ニ委任スルコトアルヘシ

第三十八條 本組合ノ收入金ハ議員會ノ決議ニヨリ定メタル銀行ニ預ケ入ル、モノトス但二十五圓未滿ノ現金ハ組長之ヲ保管シ置キ經費ノ支出ニ宛ツルコトヲ得

第七章 業務

第三十九條 本組合ハ眞珠貝海鼠其他水産動植物ニ就キ漁撈養殖製造ノ方法ヲ調査シ組合員ニ指示スルモノトス

組合員ニ於テ前項ノ調査ヲ請求スル場合ハ其漁具漁法又ハ製法等ヲ組合ニ申出ツヘシ

第四十條 本組合ハ水産動植物ノ蕃殖ヲ圖ルカ爲種苗ノ配付ヲ爲スコトアルヘシ

種苗配付ニ關スル規定ハ議員會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第四十一條 組合員ハ商品ノ販路ノ調査ヲ組合ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サントスルトキハ品名價格及產出額ノ見込ヲ記載シタル書面ヲ組合ニ差出スヘシ

第四十二條 水産蕃殖上防害ヲ與ヘ又ハ漁業經濟ヲ紊亂スルノ虞アル漁業ハ議員會ノ決議ヲ經テ其制限又ハ禁止ヲ地方長官ニ上申スルコトアルヘシ

第四十三條 本組合ハ便宜ノ地ニ検査所ヲ設ケ營業品ノ検査ヲ行フ

前項營業品ノ種類及検査規定ハ議員會ノ決議ニ依リ定款ノ一部トシテ之ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ經テ之ヲ行フ

第四十四條 前條ノ検査ヲ經サルモノハ之ヲ組合地區外ニ搬出シ又ハ組合員ニ非サルモノニ賣渡スコトヲ得ス

第四十五條 受檢者ニ於テ検査ニ關シ不服アルトキハ再検査ヲ請求スルコトヲ

得但再検査ニ對シテハ不服ヲ唱フルコトヲ得ス

再検査ノ請求アリタルトキ又ハ組長ニ於テ検査ノ不當ナルヲ認めタルトキハ組長ハ他ノ検査員ヲシテ再検査ヲ爲サシムルモノトス

再検査ニ於テ最初ノ検査正當ナルコトヲ認定シタルトキハ再検査ノ請求者ハ再検査ノ費用ヲ辨償スヘシ但組長ニ於テ再検査ヲ命シタルモノハ此限りニアラス

第四十五條ノ二 本組合ハ必要ト認ムル地ニ組合員ノ漁獲物並ニ製造品又ハ營業品ノ共同販賣所ヲ設置スルコトヲ得

第四十五條ノ三 共同販賣所ニ關スル規定ハ議員會ノ決議ニヨリ定款ノ一部トシテ之ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ經テ之ヲ行フモノトス

第四十六條 本組合ハ必要ト認ムルトキハ組合員ノ營業ニ關スル紛議ニ付キ調停ヲ爲スコトアルヘシ

第四十七條 本組合ハ博覽會共進會又ハ品評會等ニ關シ組合員ノ製品ヲ選抜出品シ又ハ組合員ノ出品ニ關シ諸般ノ便益ヲ與フルコトアルヘシ

第四十八條 組合員ニシテ水産業ノ改良發達ヲ圖リ共同ノ利益ヲ増進セシメタルモノアルトキハ別ニ定ムル規定ニ從ヒ之ヲ賞與スヘシ

第四十九條 本組合ハ第三十九條乃至第四十一條ニ依リ請求ヲ爲シタルモノヲシテ相當ノ費用ヲ納メシムルコトアルヘシ但シ費用徴收ニ關スル規定ハ議員會ニ於テ別ニ之ヲ定ム

第八章 違約者處分

第五十條 第四十四條ノ規定ニ違背シタルモノハ五十圓以下ノ過怠金ヲ課ス

第五十一條 組合經費ノ納付ヲ怠リシ者ニハ其負擔額三倍以下ノ過怠金ヲ課ス

第九章 定款ノ變更

第五十二條 定款ノ變更ハ總會ノ決議又ハ議員會ニ於テ議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得タル決議ニ依リ之ヲ爲スモノトス但第一條第二條第五條第六條第十二條第二十一條乃至第三十五條ノ規定ヲ變更セントスルトキハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス本條ノ規定ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第十章 解散

第五十三條 本組合解散シタル場合ニ於テ清算人タル組長又ハ副組長ニ缺員アルトキハ評議員ノ互選ニ依リ之ニ代ルヘキ清算人ヲ定ム

附 則

第五十四條 本組合設置後初回ノ役員選舉ハ創立總會ニ於テ之ヲ行ヒ投票ノ多數ヲ得タルモノヲ當選者トス但投票ノ數同一ナルトキハ年長者ヲ以テ當選者ト定ム

第二十九節 大村灣水産組合魚類共同

販賣所規程

明治四十三年十月
認可

第一條 定款第二條第七號ノ規定ニ依リ便宜ノ地ニ共同販賣所ヲ設置ス又必要ニ應シテ出張所ヲ設ケ或ハ臨時出張販賣所ヲ設クルコトアルヘシ
第二條 共同販賣所ノ位置竝ニ地區ハ評議員會ノ承認ヲ經テ組長之ヲ定メ開設ノ時ニ之ヲ公告ス

但時宜ニヨリ書面ヲ以テ評議員ノ意見ヲ諮問シ承認ヲ經テ之ヲ行フコトアルヘシ

第三條 共同販賣所ニ於テハ組合員ノ漁獲物竝ニ其取扱ニ係ハル鮮魚貝類鹽魚(乾製品ヲ除ク)鯨肉ノ販賣ヲナス

但地區ノ狀況ニ依リ販賣物ノ種類ヲ限定スルコトヲ得

第四條 共同販賣所設置ノ地ニ於テハ組合員ハ共同販賣所ヲ經スシテ前條ノ物品ヲ賣買スル事ヲ得ス他ヨリ輸入シタルモノ若クハ委託セラレタル物品ト雖モ亦同シ

但特殊ノ事由アルモノハ其都度共同販賣所ニ届出相當ノ手数料ヲ納付シ承認ヲ受クヘシ

組合員カ自己ノ漁獲物ヲ行商シ或ハ店舗ヲ設ケテ自用者ニ小賣スルモノハ第四條ヲ適用セス

第五條 賣買ハ總テ競争ノ方法ニ依ル賣込人買受人ハ之ニ對シ一切異議又ハ取消ヲ申出ルコトヲ得ス

但競賣ノ結果賣込人カ別ニ指定スル豫定價格ニ達セサルトキハ此限ニアラス

第六條 共同販賣所ニ於テ販賣スル水産物ノ代金ハ荷主ニ於テ現品引替即時領收スルモノトス

第七條 共同販賣所ニ於テハ賣揚高一割二步以内ノ手数料ヲ賣方ヨリ徴收ス

第八條 共同販賣所ニ於テ競買スル仲買人小賣人ハ組長ノ承認ヲ受クルヲ要ス
組長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ身元確實ナル保證人二名以上ヲ立テシメ且ツ身元保證ノ爲メ三百圓以内ノ現金又ハ有價證券ヲ提供セシムルコトアルヘシ

第九條 組合員外ノ者ト雖モ本組合ノ承認ヲ經テ賣買ニ參加スルコトヲ得

第十條 共同販賣所ニ左ノ職員ヲ置キ組長之ヲ任免ス

所長 一名 販賣取扱人 若干名

書記 若干名 取締人 若干名

所長ハ組長ノ指揮監督ヲ受ケ共同販賣所ヲ統轄ス其他ノ職員ハ組長及所長ノ

指揮ヲ受ケ各其事務ヲ掌ル

第十一條 共同販賣所ニ相談役若干名ヲ置キ組長之ヲ囑託ス相談役ハ名譽職トス

相談役ハ共同販賣所ノ業務執行ニ關シ組長ノ諮問ニ答ヘ且ツ意見ヲ提出スルモノトス

組長ハ相談役ヲ召集シ相談役會ヲ開クコトヲ得

第十二條 組長ハ相談役又ハ其他ノモノニ特別ノ事務ヲ囑託スルコトヲ得此場合ニハ報酬ヲ給與スルコトアル可シ

第十三條 共同販賣所ニ於テ使用スル印章左ノ如シ

大村 灣
水産 組合
魚類 共同
販賣 所 印

大村灣水産
組合魚類共
同販賣所何
何出張所印

第十四條 組合員ニシテ第四條ニ違背シ又ハ違背ノ行爲ヲ煽動シ又ハ幫助シタ

ルモノ若クハ仲買人小賣人ニシテ代金ノ仕拂物品ノ引受ケ其他賣買ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ共同販賣所ノ事業ヲ妨害スヘキ行爲アリタルトキハ五十圓以下ノ過怠金ヲ徴シ尙ホ違約物品ヲ沒收シ且ツ其氏名ヲ揭示スルコトアルヘシ

第十五條 共同販賣所施行細則ハ組長之ヲ定ム

第三十節 大村灣水産組合獎勵規程

- 第一條 本組合員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ他ノ模範トナルヘキ者ニシテ特ニ組長ニ於テ表彰スヘキモノト認メタル者ハ本規定ニヨリ之ヲ表彰ス
- 但第一第二ハ本組合魚類共同販賣所ニ於テ水産物ヲ販賣シ又ハ購入シタルモノニ限ル
- 一 素行方正ニシテ善ク共同販賣所規定ヲ遵守スル者
 - 二 一箇年ニ於ケル販賣物並ニ購買高多額ニ上リ且ツ品行方正ニシテ最モ成績優良ト認メタル者
 - 三 漁具漁法ヲ發明シ其成績良好ナル者
 - 四 漁具漁法ノ改良ヲ圖ル爲メ之ヲ實地ニ試ミ其成績良好ナルヲ確メ之ヲ一般ニ表示シ其利益ヲ同業者ニ與ヘタル者
 - 五 其他組長ニ於テ特ニ表彰スヘキモノト認メタル者
- 第二條 本組合地區内各漁業組合總員三分ノ一以上本組合員タリシ漁業組合基金増殖ヲ勵ス爲メ其金高割ニシテ金若干ヲ經費ノ支フル限リ年年各組合ヘ贈與スルモノトス
- 第三條 本組合地區内漁業組合員ニシテ遠洋漁業ノ必要ヲ感シ乘組員ヲ募集シテ其業ニ就キシモノヘハ相當ノ補助ヲ與ヘテ其成業ヲ勵マスモノトス
- 第四條 第一條ノ表彰方法ハ表彰狀ヲ授與シ其情狀ニ依リ物品若クハ金員ヲ贈與スルモノトス
- 第五條 本規定ハ共同販賣所實施ノ日ヨリ施行ス

第三十一節 大村灣水産組合遭難救恤規程

九六

第一條 本組合地區内漁業組合員ニシテ出漁又ハ輸送往復中左記各號ノ一ニ該當シ組長ニ於テ救恤ヲ要スルモノト認メタルトキハ本規定ニヨリ救恤金ヲ交付ス

- 一 難破其他ノ災害ニ依リ死ニ至リタルモノ
 - 二 病傷又ハ過失ニ依リ死ニ至リタルモノ
 - 三 重病傷者ニシテ治療費及歸國旅費支出ノ途ナキモノ
 - 四 難破ノ爲メ船舶ヲ流失シタルモノ
 - 五 前各號ノ外組長ニ於テ救恤ノ必要アリト認メタルモノ
- 第二條 救恤ヲナスヘキ漁業組合員ハ本組合地區内ニ根據ヲ構ヘ三箇月以上繼續シ一箇月三回以上本組合魚類共同販賣所若クハ出張所ニ於テ漁獲物ヲ販賣シタル者ニ限ル

但三箇月ニ滿タサル者ト雖モ事情ニヨリ救恤スルコトアルヘシ

第三條 救恤金ハ一人ニ付金十圓以内トシ第一條第一第二ニ該當スルモノハ遺

族其他ハ本人ニ交付ス

前項ノ場合ニ於テ遺族ナキトキハ組長ニ於テ救恤金ノ交付ヲ適當ト認ムルモノニ限リ之ヲ交付スルコトアルヘシ

第四條 救恤金ヲ請求セントスルモノハ申請書ニ左記ノ書類ヲ添附シテ本組合ニ差出スヘシ

- 一 第一條第一第二ニ該當スルモノハ當該官公吏ノ署名シタル死亡證明書又ハ醫師ノ診斷書若クハ檢案書及本人ト救恤金請取人トノ關係ヲ證スヘキ戸籍謄本又ハ市町村長ノ證明書

二 第一條第三第四ニ該當スルモノハ當該官公吏若クハ漁業組合ノ證明書

第五條 左ニ該當スル場合ニ於テ前條規定ニ拘ハラズ組長ハ臨機救恤金ノ交付ヲナスコトヲ得

- 一 救恤スヘキ事實至急ヲ要シ前條ノ書類ヲ具備セシムルノ暇ナキトキ
- 二 第一條第一ニ該當スルモノニシテ其死亡者ノ死體ヲ發見スルコト能ハサ

但此ノ場合ニ於テ其救恤金ノ下付ヲ受ケントスルモノハ身元確實ナル二名以上ノ保證人ヲ立テ後日若シ死體不明者生存スルコト判然シタルトキハ受取人及保證人ニ於テ救恤金ヲ返納スヘキ旨ヲ宣誓シタル證書ヲ提供スヘシ

第六條 本規定ハ共同販賣所實施ノ日ヨリ施行ス

第三十二節 有限責任佐世保共濟會信用

購買組合定款 明治四十三年一月 改訂長崎縣認可

第一章 總 則

第一條 本組合ハ組合員カ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシメ又産業及生計ニ必要ナル物品ヲ購買シテ組合員ニ賣却スルヲ以テ目的トス

第二條 本組合ハ有限責任佐世保共濟會信用購買組合ト稱ス

第三條 本組合ノ組織ハ有限責任トス

第四條 本組合ノ事務所ヲ長崎縣佐世保市港町二十九番地ニ置ク

第五條 本組合ノ區域ハ長崎縣佐世保市東彼杵郡早岐村日宇村及佐世村北松浦郡山口村中里村皆瀬村大野村及柚木村トス

第六條 本組合員タル者ハ組合ノ區域内ニ住スル海軍工廠共濟會會員及海軍軍人軍屬ニシテ確實ナル收入アリ獨立ノ生計ヲ營ミ信用ヲ重スル者ニ限ル

第七條 本組合ノ財産ニ對スル組合員ノ權利ハ特別積立金ニ付テハ本組合ヨリ配當シタル金額ニ應シ其他ノ財産ニ付テハ拂込濟出資額ニ應スルモノトス

第二章 出資及準備金

第八條 各出資一口ノ金額ヲ五圓トシ各組合員ハ先ツ一口ヲ所有シ一口宛拂込ヲ完了シ十口迄増加スルコトヲ得

第九條 出資金ノ第一回拂込ハ金一圓以上トス

第十條 第一回拂込後ハ剩餘金又ハ割戻金ニテ拂込ニ充ツルモノ、外各自隨意

拂込ヲ完了スルモノトス

一〇〇

但理事ハ第一回拂込後二十箇月ヲ經過シ一口ノ拂込ヲ完了セサルモノニ限
リ一箇月一圓以内ヲ限リ時期ヲ指定シ拂込ヲ催告スルコトヲ得

自己ノ出資拂込ヲ完了セサルモノ他ノ拂込ヲ完了セサル出資口數ヲ讓受ケタ
ル場合ハ拂込金額ノ多キモノヨリ順次ニ拂込ヲ完了スルモノトス

第十一條 組合員カ前條指定ノ期間内ニ拂込ヲ完了セサルトキハ期限後ハ一日
ニ付其拂込ム可キ金額ノ百分ノ一ニ當ル過怠金ヲ徴スルモノトス

第十二條 準備金ノ額ハ出資總額ト同額トナル迄毎年剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ
積立ツルモノトス

第十三條 準備金ノ積立ヲナシ尙剩餘金アルトキハ其準備金ト同額以内ヲ特別
積立金トスルコトヲ得

特別積立金ハ左ノ事項ノ外總會ノ決議ヲ經テ使用スルモノトス

一 組合員ノ扶養ス可キ子孫ノ出產アリタルトキハ其子孫ノ名ヲ以テ金十錢
ヲ預入レタル十年間ノ郵便指置貯金通帳ヲ祝トシテ贈呈スルモノトス

第十四條 準備金及特別積立金ハ組合員ニ貸付シ總會ノ承認ヲ得タル銀行ニ預
ケ入レ若クハ郵便貯金トシ又ハ國債證券及勸業債券ヲ買入ル、外他ニ之ヲ利
用スルコトヲ得ス

第三章 本組合ノ機關

第十五條 本組合ニ理事一名監事四名ヲ置ク

理事ハ直ニ理事長ヲ互選シ總會ニ報告スルモノトス

第十六條 理事及監事ノ任期ハ各二箇年トス但再選ヲ妨ケス補缺トシテ任セラ
レタル者ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

第十七條 理事又ハ監事ハ總會ノ決議ニ依ルニアラサレハ解任スルコトヲ得ス
又總會ノ承認アルニ非サレハ辭任スルコトヲ得ス

總會ニ於テ其解任ヲ議決シ又ハ其辭任ヲ承認シタルトキハ同時ニ其補缺選舉
ヲナスモノトス

死亡其他ノ事由ニヨル理事又ハ監事ノ缺員ハ已ムヲ得サル場合ハ臨時總會ヲ
開キ其他ハ通常總會ヲ待チ其補缺選舉ヲナスモノトス

第十八條 總會ハ通常總會及臨時總會ノ二種トス
通常總會ハ每事業年度後一箇月以内ニ之ヲ開ク

臨時總會ハ左ノ場合ニ之ヲ開ク

- 一 理事カ必要ト認メタル時
- 二 監事カ産業組合法第三十四條ニヨリ必要ト認メタル時
- 三 組員五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及其召集ノ理由ヲ示シテ請求シタル時

組員一千五百人以上ニ達スル時ハ總代ヲ選任シ總代會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得ルモノトス

佐世保海軍工廠共濟會會員ハ共濟會總代ヲ以テ總代トシ其他ハ勤務所又ハ住所ニ依リ組員ヲ區分シ百名以下ニ付一名ノ割合トシ各區ノ定員ヲ定メ毎年一回通常總會前ニ其區組員ニ總代ヲ互選セシム

總代ハ平常理事ヲ補助シ其區組員ニ關スル一切ノ事業ヲ處辨スルモノトス
第十九條 總會ノ召集ハ少クトモ五日前ニ召集者ノ記名アル書面ヲ以テ通知ス

ルモノトス

第二十條 總會ハ總組員ノ四分ノ一以上總代會ハ總代ノ半數以上出席スルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス

第二十一條 總會ノ議長ハ理事長之ニ當ル理事長事故アルトキハ他ノ理事之ニ代ル但總會ニ於テ必要ト認ムル時ハ會員中ヨリ互選ス

第二十二條 總會ノ決議録ハ理事之ヲ作り理事及監事之ニ署名捺印スルモノトス

第二十三條 總會ノ議事ニ關スル細則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第二十四條 理事及監事ハ名譽職トシ總會ノ議決セル報酬又ハ賞與金ヲ給スル外無給トス

第二十五條 事務員及傭人ハ事業盛衰事務ノ繁閑ニ應シ理事之ヲ任免ス理事カ組合事務ヲ其職業トシテ分擔掌理スル場合ハ毎月一定ノ俸給ヲ受クルコトヲ得

第二十六條 理事ハ組員中ヨリ検査委員若干名ヲ選定シ購買品仕入ノ監督品

質ノ鑑定代價ノ評定ヲナサシム

但本條事務ニ關シ特殊ノ技能ヲ要スルトキハ理事ハ組合員以外ノ者ニ囑託スルコトヲ得

第二十七條 本組合ハ佐世保海軍工廠共濟會會長其他ノ名譽職員ヲ本組合ノ名譽組合長其他ノ名譽職ニ推戴ス名譽組合長竝ニ其他ノ名譽職ハ隨時本組合事業ニ對シ意見ヲ述ヘ且ツ其行務ヲ贊助督勵スルモノトス

本條名譽職員中ニ検査委員ヲ囑託スルコトヲ得

前條及本條ノ職員ニ對シ報酬謝禮其他ノ經費ヲ要スル場合ニハ總會ノ決議ヲ經テ事業費豫算中又ハ剩餘金ヨリ之ヲ支出スルコトヲ得

第四章 事務ノ執行

第一款 通則

第二十八條 本組合ノ事業年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第二十九條 理事ハ通常總會ニ次年度事業費豫算案ヲ提出シ其決議ヲ經ルモノトス

臨時支出ヲナシ豫算ニ不足ヲ生シタル場合ハ總會ノ承認ヲ求ムルモノトス

第三十條 本組合ハ一事業年度間ノ出資拂込金額及年月日ヲ名簿ニ記載スル期日ヲ毎年六月十二月ノ各末日ト定ム

第三十一條 理事ハ日記ヲ備置キ本組合ノ沿革概項ヲ記入スルモノトス

第三十二條 理事ハ組合ニ餘裕金アル時ハ總會ノ承認ヲ經タル銀行ニ預ケ入ルルモノトス

第三十三條 事業執行ニ關スル細則ハ總會ノ決議ヲ經テ理事之ヲ定ム

第二款 貸付貯金

第三十四條 理事ハ必要ニ應シ各組合員ノ信用ヲ評定シ信用程度表ヲ作成シ之ヲ保管シ役員以外ノ閱覽ヲ許サ、ルモノトス

第三十五條 組合員カ貸付ヲ請求シタルトキハ理事ハ信用程度表及其用途ヲ調査シ其金額ヲ定ムルモノトス

第三十六條 貸付ヲナス場合ハ他ノ組合員ヲ保證人ニ立テシメ又ハ確實ナル擔保ヲ供セシムルコトヲ要ス

第三十七條 貸付金ハ一箇年以内ニ於テ辨濟期限ヲ定ムルモノトス
但特別ノ事情アルモノニ付テハ之ヲ三箇年以内トナスコトヲ得

第三十八條 組合員カ貸付金ノ辨濟ヲ怠リタル時ノ遅延利息ハ貸付金ノ利率ニ
依ル

第三十九條 理事ハ貸付金ノ使用ノ實況ヲ監査シ貸付ノ目的ニ反スルモノアリ
ト認ムルトキハ期限前ト雖モ辨濟ヲナサシムルコトヲ得

第四十條 貯蓄ハ一回金一錢以上トス

貯金利息ハ六箇月毎ニ之ヲ元本ニ組込ムモノトス

第四十一條 利率ハ貸付金ニアリテハ年一割二分貯金ニアリテハ年八分ヲ最高
トシ理事ハ其範圍内ニ於テ時宜ヲ見テ之ヲ定ム

第三款 購買

第四十二條 本組合ニ於テ取扱フ物品ノ種類其購入ノ方法購入代價購入先トノ
契約及組合員ニ配給ノ方法ハ理事之ヲ定ム

第四十三條 組合員ニ賣却スル物品ノ代價ハ協議員ノ意見ヲ徴シ市價ヲ標準ト

シテ理事之ヲ定ム

第四十四條 本組合ハ組合員ノ需用ヲ調査シ又ハ註文ニ應シ便宜購買ス

理事ハ物品ノ購買ニ關スル現業ヲ取扱フ爲メ販賣本部ヲ設置シ其購買シタル
物品ハ配給上必要ナル箇所ニ分配所ヲ設置シ各其配達區域ヲ定メ一定代價ニ
テ組合員ニ配給セシムルモノトス

理事ハ自ラ業務ヲ經營スルヲ不得策ト認ムル場合ハ總會ノ決議ヲ經テ販賣本
部ニ業務主任ヲ置キ自己ノ責任ヲ以テ業務ヲ擔當シ組合ニ對シテハ常ニ賣上
高ニ對スル一定率ヲ提供セシムル契約ヲ締結シ一切ノ業務ヲ引受けシムルコ
トヲ得

理事ハ特殊物品ノ取扱ヲナス商人ニ其物品ノ購買賣却ニ關スル一切ノ業務ヲ
委託スルコトヲ得此場合ハ其商店ヲ組合特約店ト稱シ組合トノ協定代價又ハ
正札定價表若クハ普通最低賣價ニ對シ割戻率ヲ約定シ組合員ノ支拂ヒタル代
金ノ一部ヲ組合ニ割戻セシムルモノトス

第四十五條 理事ハ必要アルトキハ時期ヲ指定シ組合員ニ註文物品ノ見積代金

ノ全部若クハ一部ヲ提供セシムルコトヲ得

第四十六條 組合員ハ物品取引ト同時ニ代金ヲ支拂フコトヲ要ス理事ハ一定ノ期日ニ入金スル確實ナル保證アルトキハ豫メ組合購買證券ヲ交付シ置キ之ト引換ニ物品ヲ引渡スコトヲ得

理事カ確實ナラサルモノニ購買證券ヲ發行シ損失ヲ蒙リタルトキハ自ラ其責ニ任スルモノトス

第四十七條 組合員ハ前金拂ヲナスコトヲ得此場合ニ於テハ年八分ヲ最高額トシ理事ハ其範圍ニ於テ利子ヲ附ス

第四十八條 理事ハ組合規定ノ契約書ヲ徴シ又ハ相當擔保品ヲ提供セシメ組合員ニ月末拂及六箇月以内ノ月賦拂ヲ許スコトヲ得月末拂ハ期日ヲ定メ締切ヲ爲シ及仕拂ヲナサシムルモノトシ若シ其期日ニ支拂ヲ爲サ、ルトキハ保證人共ニ物品ノ配給ヲ停止シ其後ハ細則ニ定メタル一定ノ期間ヲ經過スルトキハ其金額ノ百分ノ一ニ當ル延滞金ヲ徴收スルモノトス

理事ハ特別ノ事情アリト認ムルトキハ一定ノ利息ヲ定メ保證人連帶ノ借用證

ヲ提出セシメ六箇月ヲ越エサル期間支拂ノ延期ヲ承認シ前項ノ延滞金ヲ免除スルコトヲ得

本條ニヨラスシテ分配所主任又ハ特約店主カ掛賣ヲ爲シタル場合ハ組合ハ其責ニ任セサルモノトス

第五章 剩餘金分配及損失填補

第四十九條 剩餘金ハ準備金及特別積立金ヲ控除シタル後ニアラサレハ之ヲ組合員ニ配當スルコトヲ得ス

但剩餘金配當ハ持分ニ應シ其率ハ年六分以内トス

組合員ニ配當スル剩餘金ハ出資金ノ拂込ニ充テ又ハ貯金ニ繰入ル、ヲ得ルモノトス

第五十條 前條ノ配當金ヲ控除シタル剩餘金ハ

- 一 特別配當金トシ組合員カ該事業年度ニ購買シタル物ノ價格若クハ別ニ割戻ヲ受ケタル金額ニ應シ配當シ
- 二 賞與金トシ其年度剩餘金十分ノ一以内ヲ限リ總會ノ決議ヲ經テ理事以下

役員ニ分配スルコトヲ得

本條ノ剩餘金ハ其全部又ハ一部ヲ次年度ニ繰越スコトヲ得

第五十一條 損失ノ填補ハ先ツ特別積立金ヲ以テシ次ニ準備金ヲ以テス

第六章 加入及脱退

第五十二條 本組員タラントスル者ハ加入申込書ヲ理事ニ提出スルコトヲ要ス

理事前項ノ申込ヲ承認スルトキハ其旨加入者ニ通知シ加入金ヲ拂込マシメ時期ヲ指定シ第一回拂込ヲナサシメタル後名簿ニ記載スルモノトス
加入金ハ準備金權利額及加入ニ要スル手數ヲ參酌シ總會ノ承認ヲ得テ理事之ヲ定ム

海軍工廠共濟會員ハ申込書ノ手續ヲ省略シ加入スルコトヲ得セシム

第五十三條 組員ハ理事ノ承認ヲ得テ其持分ヲ讓渡スコトヲ得持分讓受人組員ニアラサルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

此場合ハ加入ニ要スル手數ヲ參酌シ加入金ヲ徴收スルコトアルヘシ

第五十四條 組員ハ六箇月以前ニ其旨ヲ理事ニ豫告スルトキハ年度末ニ於テ脱退スルコトヲ得

第五十五條 死亡ニヨル脱退者ノ遺族カ直ニ組員タラントスルトキハ加入金ヲ要セス

第五十六條 組員ハ左ノ事由ノ一ニ當ルトキハ總會ノ決議ニヨリ之ヲ除名ス

- 一 出資ノ拂込及購買代金ノ支拂若クハ貸付金ノ辨濟又ハ利息ノ支拂ヲ怠リ期限後三箇月以内ニ其義務ヲ履行セザルトキ
- 二 組合ノ事業ヲ妨クル所爲アリタルトキ
- 三 犯罪其他ノ所爲ニ依リ信用ヲ失ヒタルトキ
- 四 六箇月以上居所分明ナラサルトキ
- 五 組合ヨリ購買シタル物品ノ轉賣ヲナシタルトキ

第五十七條 組員脱退ノ場合ニ於ケル持分ノ拂戻ハ損失分擔額ヲ控除シタル拂込済出資額ニ止マルモノトス但死亡禁治産區域外轉居其他總會ニ於テ止ム事ヲ得サルモノト認メタル事由ニヨリ脱退シタル組員ニハ持分ノ全部ヲ拂

戻スモノトス

第七章 組合ノ解散

第五十八條 本組合解散シタルトキハ理事其精算人トナル

第三十三節

佐世保市衛生組合規約

明治四十年十二月
改 正

第一章 總 則

第一條 明治二十三年長崎縣甲第一〇一號達ニ依リ衛生組合ヲ組織シ佐世保市何町衛生組合ト稱ス

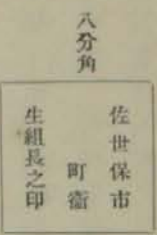
第二條 本組合ノ區域ハ町ノ區域ニ依ル

但一町ニ數組合ヲ置キ若クハ數町ヲ以テ一組合ヲ設クルコトヲ得

第三條 本組合ノ區域ニ住居スルモノハ必ス其組合員タル可シ同炊寄宿者及雇人ハ戶主ノ家族ト見做ス

但組合區域ニ來住シ又ハ他ニ轉住スルモノハ組長ニ届出ヲ要ス

第四條 本組合ニ於テ使用スル印章左ノ如シ



第五條 組合ハ市長ノ監督ニ屬シ指揮命令ヲ遵守スヘシ

第二章 役員職務權限選舉並ニ任期

第六條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組長 一名

副組長 一名

會計 一名

伍長 若干名

但組合ノ都合ニ依リ評議員ヲ設クルコトヲ得
評議員ノ選舉ハ第八條ノ例ニ依ル

第七條 組長ハ組合ノ事務ヲ總理シ組合ヲ代表ス

第一章 諸規程及諸規約

副組長ハ組長ヲ補佐シ組長事故アルトキハ之ヲ代理ス
會計ハ組長ノ指揮ヲ受ケ組合ノ出納ヲ掌ル但會計ハ組長ニ於テ兼務ヲナスコ
トヲ得

伍長ハ組長ノ指揮監督ヲ受ケ伍内ノ事務ヲ分掌ス

第八條 組長副組長會計ハ組合員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉シ伍長ハ一伍中ヨ
リ之ヲ選舉ス

前項ノ選舉ニ於テハ投票最多數ヲ得タル者ヲ當選トス得票同數ナル場合ハ更
ニ同一得票者ニ就キテ投票ヲ行ヒ尙得票同數ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
但伍長ハ一般組合員ヨリ選舉スルモ妨ケナシ

第九條 當選シタル役員ハ市長ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 組長副組長會計伍長ノ任期ハ二年トス但再選ヲ妨ケス

第十一條 役員當選者ハ其當選ヲ拒辭シ又ハ就任後辭職スルコトヲ得ス

但總會ニ於テ正當ノ事由アリト認メタルトキハ此限リニアラス

第十二條 役員ハ名譽職トス

第三章 組合ノ事務

第十三條 本組合ハ衛生上ニ關スル法律規則ヲ遵守シ左ノ各項ヲ施行ス

- 一 毎年春秋二季ニ大清潔法ヲ施行スルコト
- 但時宜ニ依リ當局者ノ指揮ニ從ヒ臨時清潔法ヲ施行スルコトアル可シ
- 一 不斷家屋ノ内外及ヒ道路ノ掃除ニ注意シ塵芥ヲ散逸セシメサルコト
- 一 井戸下水ノ浚渫修理及ヒ便所ノ掃除ニ注意スルコト
- 一 官公署ノ指揮命令ノ事項ヲ遵守シ其實行ヲナスコト
- 一 未痘者ノ接種ヲ怠ラサルコト
- 一 傳染病患者アルトキハ當該官公吏ノ指示ニ從ヒ豫防消毒隔離等ヲ嚴重ニ
實行スルコト

一 傳染病類似ノ患者アルトキハ速ニ醫診ヲ求メ隱蔽ヲ防クコト

第十四條 傳染病發生蔓延ノ虞アルトキハ組合ハ豫防消毒ヲ行フヘシ
但其方法ハ當該官公吏ノ指示ニ從フヘシ

第四章 會議

第一章 諸規程及諸規約

第十五條 組合總會ハ通常總會及ヒ臨時總會ノ二種トス

通常總會ハ毎年春季ニ之ヲ開キ衛生上諸般ノ事ヲ審議シ且ツ豫算及決算ヲ認定スヘシ

臨時總會ハ傳染病流行ノ兆アルカ又ハ衛生上ニ關シ組長ニ於テ必要ヲ認めタルトキ之ヲ開ク總會ノ會場及ヒ日時ハ組長之ヲ定メ開會三日以前ニ通知ス其ノ急速ヲ要スルモノハ此限リニアラス

第十六條 組合員ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ正當ノ事故ナク缺席スルコトヲ得ス若シ病氣其ノ他ノ事故ニテ缺席スルトキハ開會前ニ組長ニ届出ツヘシ但缺席スルモ會議ノ議決ヲ遵守スル義務ヲ有ス

第十七條 總會ノ議長ハ組長組長事故アルトキハ副組長之ニ代ハル副組長事故アルトキハ出席組合伍長ノ年長者ヲ以テ之ニ充ツ

第十八條 總會ニ於テハ決議録ヲ作り議長及出席組合員二名以上之ニ署名スルモノトス

第五章 庶務及會計

第十九條 本組合ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

但組合ノ慣例アルモノハ此限リニアラス

第二十條 本組合ノ經費ハ組合員ノ負擔トス

但組合員負擔ノ割合ハ毎年豫算ニ於テ之ヲ定ム

第二十一條 經費ハ組合ノ慣例ニ依リ徵收スルモノトス

經費徵收後來住スル者ハ其翌月ヨリ徵收シ轉居スル者ハ還付セス

第二十二條 組合ニ於テ支出スル費用左ノ如シ

- 一 清潔法消毒法施行ニ要スル組合ノ費用
- 一 傳染病豫防消毒及交通遮斷隔離ニ關スル費用ニシテ公費負擔以外ノ諸費
- 一 組合會ニ要スル諸費
- 一 組合役員ノ實費辨償又ハ報酬
- 一 其他組合ニ於テ必要ト認めタル諸費

第二十三條 經費ノ決算ハ翌年春季ノ總會ノ認定ヲ受クヘシ

第二十四條 本組合ニ左ノ帳簿ヲ備フ

組合員名簿 出納簿 財產臺帳

事務執行記錄

第六章 附 則

第二十五條 組長ハ衛生上ニ關シ市長ノ召集ニ應シ諸般ノ協議ヲ受ケ又ハ組合内ノ事項ニ付意見アルトキハ之ヲ市長ニ申告スヘシ

第二十六條 各組長ハ衛生上ニ關シ春秋二季ニ於テ市當局者ト協議會ヲ開クモノトス

第二十七條 傳染病流行ノ時ニ於テハ數組合聯合シテ相互ノ事務ヲ補佐シ且ツ事務取扱ノ統一ヲ圖ルモノトス

第二十八條 組合規約ハ市長ノ認可ヲ受クヘシ改正ノ時亦同シ

第二十九條 組合施行ノ事務及會計ハ翌年四月市長ニ報告スルモノトス

第三十條 組合規約ノ變更ハ總會ニ於テ出席シタル組合員三分ノ二以上ノ同意アルヲ要ス

第三十一條 本組合ノ區域ニシテ町名ナキトキハ字名ノ區域ニ依ル

第三十二條 本組合規約ニ違背シタル者ハ組長懇切ニ訓諭シ尙應セザルトキハ其筋ニ申告シ相當ノ處分ヲ待ツヘシ

第三十四節 帝國在郷軍人會佐世保市分會規約

明治四十四年五月制定

第一條 本分會ハ帝國在郷軍人會佐世保市分會ト稱ス

第二條 本分會事務所ヲ當分ノ内佐世保市役所ニ置ク

第三條 本分會ハ帝國在郷軍人會ノ規約ニ基キ軍人ニ賜ハリタル 勅諭ノ精神ヲ奉體シ在郷軍人ノ品位ヲ進メ親睦ヲ敦フシ相互扶助シ軍人精神ヲ振作シ體軀ヲ練リ軍事智識ヲ増進スルヲ以テ目的トス

第四條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ
一 三大節ニ於テ遙拜式及勅諭奉讀式ヲ行フコト
二 陸海軍記念日ニハ祝典ヲ行フコト

- 三 每年少クトモ一回戰役死亡者ノ祭典ヲ行フコト
- 四 廢兵及戰死者遺族ヲ優遇スルコト
- 五 軍事ニ關スル懇話會ヲ開キ擊劔會射擊會等ヲ開クコト
- 六 有動者ノ名譽ヲ保持セシメ之ヲ優遇スルコト
- 七 會員ニシテ傷痍若クハ疾病ニ罹リ自活シ能ハサル者又ハ災厄ニ罹リタル者アルトキハ之ヲ救助スルコト
- 八 會員ニシテ死亡シタルトキハ會葬シ時宜ニ依リ其遺族ニ弔慰金ヲ贈リ又ハ其葬祭ヲ行フコト
- 九 在營兵卒ノ家族ニシテ救護ノ必要アル者ヲ救助スルコト
- 十 在營兵及其家族ノ狀況ニ關シ軍隊ト連繫ヲ保ツコト
- 十一 會員タリシ者ノ寡婦孤兒ニシテ救護ノ必要アル者ヲ救助スルコト
- 十二 確實ニシテ有益ナル事業ヲ經營シ其收益ヲ會ノ基本金トスルコト
- 十三 軍隊行軍演習等ノ舉アルトキハ分會員ハ勉メテ參觀シ且ツ市吏員ト協力シ宿營其他便宜ヲ計ルコト

十四 現役兵ノ入營前ニ當リテハ市役所ト協議シ之カ爲入ニ豫教會ヲ開キ其退營ニ際シテハ送迎ヲナスコト

第五條 會員ハ左ノ三種トス

一 正會員

待命休職豫備役後備役退役將校同相當官准士官及在郷下士兵卒但第一國民兵役者ヲ含ミ未教育補充兵役者ヲ含マス

二 特別會員

在郷軍人ニ非スシテ特ニ本會ニ功勞アリ分會ノ推薦ニ係ル者

三 名譽會員

現役陸海軍將校同相當官ニシテ分會ノ推薦ニ係ル者

第六條 將校同相當官及特別會員ハ第四條ノ救助及弔慰金ヲ受ケサルヲ本則トス又特別會員ハ本會ノ役員トナルコトナシ

第七條 分會ニ於テ特別會員及名譽會員ヲ推薦セントスルトキハ評議會ノ決議ヲ經テ推薦狀ヲ贈與シ尙名譽會員ニアリテハ豫メ本人ノ承諾ヲ得且ツ支部ヲ

經テ本部ニ申報スルモノトス

第八條 第五條第一項ニ該當スル本市在住者ハ凡テ本分會ニ入會スルモノトス
第九條 會員ハ左ノ門札ヲ掲クルモノトス

(門札略)

第十條 正會員住所ヲ變更シタル時ハ直ニ其町委員ニ届出ツルモノトス
第十一條 正會員ハ毎年(四月及十月ニ分納)左ノ會費ヲ釀出スルモノトス
但十月以後ノ入會者ハ半額トス

將官同相當官	佐官同相當官	尉官同相當官	准士官同相當官	下士同相當官	卒
10,000	4,000	11,000	1,000	600	400

第十二條 疾病災厄等ノ爲メ生計困難ナル者ニ對シテハ評議會ノ決議ニヨリ會費ヲ免除スルコトヲ得

第十三條 分會ノ資産左ノ如シ

一 分會ノ所有ニ屬スル財産

二 分會ノ事業及財産ヨリ生スル收入金

三 分會ヘノ寄附金

四 會員ノ會費

第十四條 分會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第十五條 毎年度ノ決算報告ハ年度ノ經過後十日以内ニ理事之ヲ調製シ監事ノ審査ヲ經テ評議會ニ提出シ其承認ヲ受クルモノトス

第十六條 會費額會費免除及財産ノ管理ニ關スル規則ハ支部ノ認可ヲ受クルモノトス

第十七條 本分會ニ分會長分會副長各一名理事二名監事二名及評議員約二十名ヲ置キ各町若クハ若干町ニ委員若干名ヲ置ク

各町委員ハ其町會員互選ノ上分會長之ヲ囑託シ評議員ハ分會ノ總會ニ於テ選舉シ分會長分會副長理事及監事ハ評議員之ヲ互選ス但分會長及分會副長ハ支部ヲ經由シ本部ニ申報スルモノトス

第十八條 分會長分會副長理事監事評議員及町委員ハ名譽職トシ其任期ハ二箇

年トス

但重任ヲ妨ケス又補缺員ノ任期ハ前任者ノ任期ニヨル

第十九條 會長ハ一切ノ會務ヲ統轄ス

副長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

理事ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

監事ハ會長ノ命ヲ承ケ經理ノ整否ヲ監査ス

委員ハ會長ノ命ヲ承ケ左ノ事務ヲ行フ

一 諸通達ヲ町内會員ニ傳達スルコト

二 町内會員ヲ調査シ其出入アリタルトキハ其町會員名簿ヲ加除シ之ヲ分會ニ報告スルコト

三 會費ノ徵集ヲナシ分會理事ニ納入スルコト

第二十條 分會ニ係ル重要ノ事件ヲ議決スル爲メ評議會ヲ置ク評議員ハ會長副長理事及評議員ヲ以テ組織シ議長ハ分會長ヲ以テ之ニ充ツ

第二十一條 評議會ハ會長ニ於テ必要アリト認メタルトキ會長之ヲ召集ス

第二十二條 評議會ハ議長ノ外定員ノ三分之一以上出席スルニアラサレハ決議ヲナスコトヲ得ス

第二十三條 評議會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十四條 分會ニ會旗ヲ備ヘ會員ハ一定ノ徽章ヲ佩用ス其制式ハ本部ノ定ムル所ニ據ル

第二十五條 會旗ハ分會長之ヲ保管ス

第二十六條 會旗ハ奉迎送集會及會葬ノ場合ニ之ヲ用フ

第二十七條 本會ハ毎年四月五日迄ニ到着スル如ク部内ノ景況大村支部規約ノ

様式ニヨル)ヲ支部長ニ報告スルモノトス

第二十八條 會員中不都合ノ所爲アルモノハ訓戒シ其改悛ノ見込ナク軍人タル體面ヲ傷クル者ハ會員徽章ヲ收奪シ其情況ヲ支部長ニ報告ス

第二十九條 本規約ハ評議會ノ決議ヲ經ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス其變更シタルトキハ其都度支部長ニ報告スルモノトス

第三十條 本分會ハ事務ヲ處理スル爲メ左ノ帳簿ヲ備フ

- 一 本分會歷史
- 二 規約竝設立ニ關スル趣旨書在郷軍人ニ與ヘラレタル特典
- 三 本分會役員名簿
- 四 會員名簿
- 五 會費徵收簿
- 六 金錢物品出納簿及之ニ要スル證憑書類綴

第三十五節 佐世保甲辰義會會則

- 第一條 本會ハ佐世保市内有志者ヲ以テ組織シ戰時若クハ事變ニ際シ諸般ノ恤兵事業ヲ爲シ軍港民ノ本分ヲ盡スヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ヲ佐世保甲辰義會ト稱シ事務所ヲ佐世保市役所内ニ置ク
- 第三條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 會長一名 評議員中ヨリ之ヲ選舉ス
 - 一 副會長一名 同上
 - 一 評議員三十五名 會長之ヲ推薦ス
 - 一 委員若干名 衛生組合中ヨリ選出ス
 - 一 理事五名 會長之ヲ選任ス
- 第四條 本會ノ事業ハ凡ソ左ノ如シ
- 一 軍隊送迎慰問ニ關スル事
 - 一 軍隊ノ輸送宿營其他ニ關シ幫助スルコト
 - 一 出征軍人軍屬家族ノ救助及保護ニ關スルコト
 - 一 軍資金獻納竝軍事公債募集ニ關スルコト
 - 一 以上各項ニ掲ケサル諸般ノ恤兵ニ關スルコト
- 第五條 會長ハ評議員ノ決議ヲ以テ本會ノ事業ヲ執行ス
但緊急ノ事件ニシテ時宜ヲ失フノ虞アルトキハ臨機ノ處分ヲ爲シ爾後其旨ヲ評議員會ニ報告スルモノトス

- 第六條 評議員會ハ必要ニ應シ會長之ヲ招集ス
- 第七條 本會ノ費用ハ有志者ノ寄贈金ヲ以テ之ニ充ツ
- 第八條 本會ノ集金ハ銀行ニ預ケ之ヲ出納ス

第三十六節 佐世保市召集軍人家族救

助方法

- 第一條 本市住民中充員召集ニ應シ若クハ現役ニ依リ從軍セシ者ニシテ其家族貧困ナル者ニハ應分ノ救助ヲ爲スモノトス其救助スヘキ者ノ程度ハ會長ノ認ムル處ニ依ル
- 但應召者若クハ現役兵ニシテ内縁ノ妻ヲ有シ孿孿ヲ異ニセルトキハ其妻ヲ以テ家族ト見做スコトアルヘシ此場合ニ於テハ同戶籍内ノ家族ニハ救恤ヲ爲サ、ルモノトス

第二條 現役及應召兵ノ家族ニ對シ救護ヲ爲サ、ル者ヘハ慰問トシテ一時金品

ヲ寄贈スルモノトス

第三條 救恤ノ種目ハ食費藥餌費送葬費ノ三種トス

第四條 救恤費額ハ左ノ標準ニ據ル

- 一 食費ハ男一日白米四合女一日白米三合代以内トス

(救米當時ノ相場ニ依ル)

但七十年以上十年未満ハ男女一日白米二合以内トス尤モ生計ノ情況ニヨリ

増減スルコトアルヘシ

- 一 藥餌費ハ實費トス

- 一 送葬費一人五圓以内トス

第五條 支給ノ方法ハ毎月一日及十一日二十一日ノ三回ニ分テ之ヲ支給ス

第六條 本人歸郷シタルトキハ其翌日ヨリ救助ヲ廢止シ若シ死亡シタルトキハ

評議會ノ決議ニ依リ扶助料ヲ支給スルコトアルヘシ

第七條 會長副會長評議員ハ救恤ヲ受ケタル家族ノ情況視察ノ爲メ毎月一回出

張臨檢スルモノトス

第八條 出征軍人家族ニシテ就學兒童ヲ有シ就學ニ要スル需用資力ナキモノニハ文具費ヲ給シ國民教育ノ義務ヲ果サシムルコト但在學兒童亦同シ

第二章 委任專決事項

第一節 市長委任事項

- 一 罹災救助基金法ニ依ル救助ニ關スルコト
- 二 舊縣道並木枯損木處分ニ關スルコト
- 三 統計小票補給ニ關スルコト
- 四 官民有地社寺境内使用ニ關スルコト
- 五 氏子替届ノコト

- 六 縣社以下神社及寺院境内竹木處分ニ關スルコト
- 七 社寺什物取締ノコト
- 八 同宗派内離末本寺替届ノコト
- 九 官有地ノ貸地内ニ於ケル民有ノ建設物賣買讓與及質入書入ノトキ其貸地タル證明ヲ爲スコト
- 十 官有地貸地ノ破損セシ場合ニ於テ借地人ノ費用ニ係ル修繕願ノコト
- 十一 電信電話柱道路及耕地家屋等ニ障害アル官有ノ竹木伐採願ヲ許否シ及之カ處分ヲ爲スコト但農商務省ノ管理ニ屬スルモノ並國縣道ニ係ル並木ハ此限ニアラス
- 十二 官有地ニ於ケル枯損倒木ノ伐採願ヲ許否シ及之カ處分ヲ爲スコト但農商務省ノ管理ニ屬スルモノ並國縣道ノ並木ハ此限ニアラス
- 十三 町村ノ管理ニ屬スル地盤ノ官有ニ係ル堤塘道路並木敷等使用願ニ關スルコト
- 十四 町村ノ管理ニ屬スル官有堤塘用悪水路土居敷等ニ生スル竹木伐採願ニ關

スルコト

- 十五 内務省管理ニ屬スル土地ノ登記ニ關スルコト
- 十六 里道ノ並木枯損木ヲ處分スルコト
- 十七 道路掃除丁場ヲ分定スルコト
- 十八 國縣道ノ橋梁潰亡ニ際シ渡船場ヲ假設スルコト
- 十九 樋管ノ新設又ハ變更若ハ修繕ノ爲メ國縣道路掘鑿願ニ關スルコト
- 二十 里道ノ橋梁架設願ニ關スルコト
- 二十一 町村立學校長及教員ニ出張ヲ命スルコト
- 二十二 町村立學校長及教員ニ除服出仕ヲ命スルコト
- 二十三 有租地ヲ公立學校地ト爲ストキ又ハ免租地タル公立學校地ニ變更ヲ生シタルトキ所轄稅務署ニ通知スルコト
- 二十四 船鑑札規則ニ基ク船舶測度船鑑札下付書換返納及件名書證明ニ關スルコト
- 二十五 造林地免租ニ關スルコト

一三三

- 二十六 船舶法施行細則第六十條第三號證明ノコト
- 二十七 大藏省主管國稅外ノ諸收入徵收事務ニ關スルコト
- 二十八 諸貸付金債務者他負債ノ爲メ破産又ハ家屋分散ノトキ裁判所へ配當金ヲ要求スルコト
- 二十九 賣藥受賣及行商取締鑑札下付ノコト
- 三十 醫師出張診察所開廢屆ノコト

第二節 市參事會委任事項

市制第四十三條ニ依リ市會ノ權限ニ屬スル事項中左記ノ件市參事會ニ委任ス但此委任ニ依リ議決シタル事項ハ之ヲ市會ニ報告スルモノトス

- 一 公用ヲ廢シタル官有地ノ取得ニ關スル件
- 二 至急ヲ要スル道路堤塘川敷溝渠使用許否ニ關スル件
- 三 負擔條件ノ伴ハサル寄附金品受否ニ關スル件

- 四 法律命令ノ結果ニ依リ歳入出豫算ノ更正ヲ爲ス件
- 五 官廳ノ命令又ハ其他ノ要求ニ依リ決議事項ノ字句修正ノ件
但決議ノ要旨ニ變更ヲ及ホサ、ル場合ニ限ル
- 六 豫算各項流用ノ件
- 七 市會議員選舉人名簿ニ關スル異議決定ノ件
- 八 徵稅期日變更ノ件
- 九 市吏員ノ身元保證ニ關スル件
- 十 事急ヲ要スル訴願訴訟ニ關スル件

第三節 助役專決事項

大正
市會
議決
年

- 一 海運營業願處理簿
- 一 山林伐採願
- 一 出生及死亡屆

- 一 在郷軍人願屆整理簿
- 一 恩給年金願屆整理簿
- 一 金券配付簿
- 一 學事ニ關スル諸願屆整理簿
- 一 學齡簿謄本
- 一 收入印紙郵便切手購入伺
- 一 經費補充戻入ノ決裁ヲ經タル金額ヲ收入役ニ通知ノ件
- 一 購入物品見積書
- 一 肥料賣買ニ關スル願屆
- 一 營業屆
- 一 通稅檢舉通知書
- 一 他市町村へ滯納金受領書送付
- 一 興行許可通知
- 一 船舶鑑札再渡願

- 一 雜收入過年度縣稅追徵金滯納處分報告
- 一 船車賣買通知
- 一 製藥醫師產婆其他書類整理簿
- 一 賣藥受賣免許願
- 一 豫防事務成績報告(鼠ニ關スルモノ)
- 一 除鼠日報
- 一 屠殺報告
- 一 屠場人夫伺
- 一 屠殺未濟通知
- 一 豫納金認印簿
- 一 水道歳入調定伺
- 一 人夫其他備人伺ノ件但伺簿中ノ課長欄ハ主務課長丈ケニ改ムルコト
- 一 營業開廢ニ對スル調定及調定減額伺ノ件
- 一 水道ニ關スル物品上納書ノ件

一 家屋新築増築解家改築届

第四節 課長專決事項

大正二年
保市會決
議年

- 一 諸證明簿
- 一 海員公認申請書
- 一 船員手帳交付申請書
- 一 退隱料請求書證明ノ件
- 一 水道事務ニ關スル時間外勤務承認伺
- 一 地類及地目變換届
- 一 開墾廢止届及同成功届
- 一 身元證明ニシテ單ニ公簿ニ依ルモノ及警察署及憲兵警察囑託調査ヲナシタルモノ
- 一 附箋返戻再進

第二章 委任專決事項

一 海陸軍軍人願屆條例規則ニ依ルモノ及兵事事務ニ關スル照會回答ニシテ事
極メテ輕易ナル事件
一 給仕使丁其他傭人ノ病氣引入届

第三章 市吏員名譽職員

一 市長、助役、收入役、主事

市長	助役	收入役	主事																																				
<table border="1"> <tr> <th>就任年月日</th> <th>退任年月日</th> </tr> <tr> <td>明治三十五年九月六日</td> <td>明治三十五年十二月九日</td> </tr> <tr> <td>同三十九年四月二十七日</td> <td>同三十八年十二月九日</td> </tr> <tr> <td>明治三十九年八月二十七日</td> <td>明治三十八年十二月九日</td> </tr> <tr> <td>大正元年八月二十六日</td> <td>同四十一年六月八日</td> </tr> </table>	就任年月日	退任年月日	明治三十五年九月六日	明治三十五年十二月九日	同三十九年四月二十七日	同三十八年十二月九日	明治三十九年八月二十七日	明治三十八年十二月九日	大正元年八月二十六日	同四十一年六月八日	<table border="1"> <tr> <th>就任年月日</th> <th>退任年月日</th> </tr> <tr> <td>明治三十五年十二月九日</td> <td>明治三十五年十二月九日</td> </tr> <tr> <td>同三十八年十二月九日</td> <td>同三十八年十二月九日</td> </tr> <tr> <td>明治三十八年十二月九日</td> <td>同三十八年十二月九日</td> </tr> <tr> <td>同四十一年六月八日</td> <td>同四十一年六月八日</td> </tr> </table>	就任年月日	退任年月日	明治三十五年十二月九日	明治三十五年十二月九日	同三十八年十二月九日	同三十八年十二月九日	明治三十八年十二月九日	同三十八年十二月九日	同四十一年六月八日	同四十一年六月八日	<table border="1"> <tr> <th>就任年月日</th> <th>退任年月日</th> </tr> <tr> <td>明治三十五年十一月六日</td> <td>明治三十五年十一月六日</td> </tr> <tr> <td>(現職)</td> <td>(現職)</td> </tr> </table>	就任年月日	退任年月日	明治三十五年十一月六日	明治三十五年十一月六日	(現職)	(現職)	<table border="1"> <tr> <th>就任年月日</th> <th>退任年月日</th> </tr> <tr> <td>明治四十三年四月二十二日</td> <td>明治四十三年四月二十二日</td> </tr> <tr> <td>同四十四年十月二日</td> <td>同四十四年十月二日</td> </tr> <tr> <td>明治四十三年四月二十二日</td> <td>明治四十三年四月二十二日</td> </tr> <tr> <td>(現職)</td> <td>(現職)</td> </tr> </table>	就任年月日	退任年月日	明治四十三年四月二十二日	明治四十三年四月二十二日	同四十四年十月二日	同四十四年十月二日	明治四十三年四月二十二日	明治四十三年四月二十二日	(現職)	(現職)
就任年月日	退任年月日																																						
明治三十五年九月六日	明治三十五年十二月九日																																						
同三十九年四月二十七日	同三十八年十二月九日																																						
明治三十九年八月二十七日	明治三十八年十二月九日																																						
大正元年八月二十六日	同四十一年六月八日																																						
就任年月日	退任年月日																																						
明治三十五年十二月九日	明治三十五年十二月九日																																						
同三十八年十二月九日	同三十八年十二月九日																																						
明治三十八年十二月九日	同三十八年十二月九日																																						
同四十一年六月八日	同四十一年六月八日																																						
就任年月日	退任年月日																																						
明治三十五年十一月六日	明治三十五年十一月六日																																						
(現職)	(現職)																																						
就任年月日	退任年月日																																						
明治四十三年四月二十二日	明治四十三年四月二十二日																																						
同四十四年十月二日	同四十四年十月二日																																						
明治四十三年四月二十二日	明治四十三年四月二十二日																																						
(現職)	(現職)																																						

<table border="1"> <tr> <th>就任年月日</th> <th>退任年月日</th> </tr> <tr> <td>大正元年九月四日</td> <td>大正元年九月四日</td> </tr> <tr> <td>(現職)</td> <td>(現職)</td> </tr> </table>	就任年月日	退任年月日	大正元年九月四日	大正元年九月四日	(現職)	(現職)	<table border="1"> <tr> <th>就任年月日</th> <th>退任年月日</th> </tr> <tr> <td>明治四十一年十一月十三日</td> <td>明治四十一年十一月十三日</td> </tr> <tr> <td>(現職)</td> <td>(現職)</td> </tr> </table>	就任年月日	退任年月日	明治四十一年十一月十三日	明治四十一年十一月十三日	(現職)	(現職)	<table border="1"> <tr> <th>就任年月日</th> <th>退任年月日</th> </tr> <tr> <td>明治四十五年一月九日</td> <td>明治四十五年一月九日</td> </tr> <tr> <td>(現職)</td> <td>(現職)</td> </tr> </table>	就任年月日	退任年月日	明治四十五年一月九日	明治四十五年一月九日	(現職)	(現職)
就任年月日	退任年月日																			
大正元年九月四日	大正元年九月四日																			
(現職)	(現職)																			
就任年月日	退任年月日																			
明治四十一年十一月十三日	明治四十一年十一月十三日																			
(現職)	(現職)																			
就任年月日	退任年月日																			
明治四十五年一月九日	明治四十五年一月九日																			
(現職)	(現職)																			

二 市會議長

就任年月	退任年月	在職年數	兵名
明治三十五年六月當選	明治三十六年一月當選	同	市會議長(現職) 富田愿之助
同 年十二月滿期	同 年十二月滿期	同	
同 三十七年一月當選	同 三十八年一月當選	同	
同 年十二月滿期	同 年六月議員半數改選ノ結果退任	同	
同 三十八年六月當選	同 三十九年一月當選	同	
同 年十二月滿期	同 年十二月滿期	同	
同 四十年一月當選	同 四十一年一月當選	同	
同 年十二月滿期	同 年六月議員滿期ニ付退任	同	
同 四十一年六月當選	同 四十二年一月當選	同	
同 年十二月滿期	同 年十二月滿期	同	
同 四十二年六月當選	同 四十四年一月當選	同	
同 年十二月滿期	同 年六月議員滿期ニ付退任	同	
同 四十四年一月當選	同 四十五年一月當選	同	
同 年十二月滿期		同	

第三章 市吏員名譽職員

就職年 月 (滿期、辭任、失格、死亡等)

明治三十五年六月一級選舉ニ當選
同 四十一年六月滿期
同 四十四年六月二級補缺選舉ニ當選
同 四十四年六月二級選舉ニ當選

在職年數 氏 名

市會議員 (現職) 富田 愿之助
十箇年七箇月

三 市參事會員

市會議長代理者
市會副議長

就職年 月 (滿期、辭任、失格、死亡等)

明治三十五年六月一級選舉ニ當選
同 四十一年六月滿期
同 四十四年六月一級選舉ニ當選
明治四十四年十月當選

在職年數 氏 名

市會議員 (現職) 川 副綱隆
十箇年七箇月

市參事會員 (現職) 同 人
一箇年三箇月

明治三十五年六月一級選舉ニ當選
同 三十八年六月半數の選ニ付退職
同 三十八年六月一級選舉ニ當選
同 四十四年六月滿期
同 四十四年六月一級選舉ニ當選

市會議員 (現職) 富田 等平
十箇年七箇月

明治三十五年六月當選
同 三十九年九月滿期
明治三十九年九月當選

市參事會員 同 人
五箇年四箇月

明治三十五年六月三級選舉ニ當選
同 四十一年六月滿期
同 四十一年六月三級選舉ニ當選

市會議員 (現職) 木崎 芳平
十箇年七箇月

明治四十四年十月當選

市參事會員 (現職) 同 人
一箇年三箇月

明治三十六年七月二級補缺選舉ニ當選
同 四十一年六月滿期
同 四十一年六月一級選舉ニ當選

市會議員 (現職) 岡田 六郎
九箇年七箇月

明治四十一年六月當選
同 四十二年一月當選
明治四十三年一月當選
同 四十二年十二月滿期
同 四十四年一月當選
同 四十四年六月當選
同 四十四年十月辭任

市會議長代理者 同 人
三箇年五箇月

明治四十四年十月當選

市參事會員 (現職) 同 人
一箇年三箇月

就職年月

(滿期、辭任、失格、死亡等)

在職年數

氏

名

一四二

明治三十五年六月當選
同三十七年六月半數改選ニ付退職

市參事會員

田中規三

同三十九年七月當選
同四十四年九月市制改正ノ結果退職

九箇年四箇月

明治三十五年六月一級選舉ニ當選
同三十八年六月半數改選ニ付退職

市會議員

同

同三十八年六月一級選舉ニ當選
同三十九年九月辭任

四箇年四箇月

明治三十五年七月當選
同三十九年九月辭任

市參事會員

栗原種芳

明治三十七年十月二級補選選舉ニ當選
同三十八年六月半數改選ニ付退職

市會議員

森永泰兵衛

同三十八年六月二級選舉ニ當選
同四十四年六月滿期

八箇年四箇月

明治四十四年十月當選

市參事會員

同

明治三十六年七月當選
同三十九年九月滿期

一箇年三箇月

江淵武彌太

同三十七年六月半數改選ニ付退職
同三十七年六月當選

八箇年三箇月

同四十七年七月滿期

市參事會員

吉村長策

明治三十九年九月當選
同四十四年九月市制改正ノ結果退職

明治三十八年六月三級選舉ニ當選
同四十四年六月三級補選選舉ニ當選

市會議員

七種周哲

明治四十四年十月當選

市參事會員

同

明治三十八年六月二級補選選舉ニ當選
同四十四年六月改選ニ付退職

一箇年三箇月

同

同四十四年六月一級選舉ニ當選

市會議員

森口謙哉

明治四十四年十二月當選

市會副議長

同

明治三十七年六月當選
同四十四年七月滿期

市參事會員

前田貞四郎

明治三十五年六月當選
同年同月辭任

市參事會員

岡真一郎

明治三十五年六月三級選舉ニ當選
同四十四年六月滿期

市會議員

同

明治三十六年九月當選
同三十八年六月滿期

市參事會員

同

同三十八年六月當選
同三十九年一月當選

市會議員

同

同三十九年六月當選
同四十四年六月滿期

市會議員

同

同四十四年六月滿期

市會議員

同

第三章 市吏員名譽職員

市會議長代理者
四箇年十箇月

藤井格太郎

一四三

就職年 月 (満期、辭任、失格、死亡等)

明治三十六年七月一級補缺選舉ニ當選
 同 四十一年六月滿期
 明治三十五年六月一級選舉ニ當選
 同 三十七年五月辭任
 明治三十五年七月當選
 同 三十七年五月辭任
 明治四十四年六月一級選舉ニ當選
 明治四十四年十月當選
 明治三十五年六月當選
 同 年十二月滿期
 明治三十五年六月一級選舉ニ當選
 同 三十六年七月辭任
 明治三十五年六月當選
 同 三十六年四月辭任
 明治三十六年六月當選
 同 三十六年四月辭任
 明治三十五年六月當選
 同 年同月辭任

在職年數 氏 名

市會議員 藤井格太郎
 市會議員 副島政十
 市參事會員 同 人
 一箇年十一箇月
 市會議員(現職) 川崎玄龍
 一箇年七箇月
 市參事會員(現職) 同 人
 一箇年三箇月
 市會議長代理者 村尾美二
 一箇年二箇月
 市會議員 同 人
 一箇年二箇月
 市參事會員 古川澄二
 一箇月
 市參事會員 小林松二郎
 市參事會員 市村正太郎

四 市會議員

就職年 月 (満期、辭任、失格、死亡等)

明治三十五年六月二級選舉ニ當選
 同 四十一年六月滿期
 同 四十一年六月二級選舉ニ當選
 明治三十五年六月一級選舉ニ當選
 同 三十八年六月半數改選ニ付退職
 同 三十八年六月一級選舉ニ當選
 同 四十四年六月滿期
 明治三十五年六月一級選舉ニ當選
 同 三十八年六月半數改選ニ付退職
 同 三十八年六月一級選舉ニ當選
 同 四十四年六月滿期
 明治三十七年十月一級補缺選舉ニ當選
 同 四十一年六月滿期
 同 四十一年六月一級選舉ニ當選
 明治三十六年七月一級補缺選舉ニ當選
 同 四十一年六月滿期
 同 四十一年六月一級補缺選舉ニ當選
 同 四十四年六月滿期

在職年數 氏 名

十箇年七箇月(現職) 井村寅三
 九箇年一箇月 森 又 吉
 九箇年一箇月 山縣猛彦
 八箇年三箇月(現職) 山口 莞
 八 箇 年 青木政吉

就職年月 (満期、解任、失格、死亡等)

明治三十五年六月三級選挙ニ當選
同 三十八年六月半數改選ニ付退職
同 四十一年六月三級選挙ニ當選
明治三十五年六月三級選挙ニ當選
同 四十一年六月満期
明治三十八年六月一級増員選挙ニ當選
同 四十一年六月改選ニ付退職
同 四十一年六月一級選挙ニ當選
明治三十八年六月三級増員選挙ニ當選
同 四十四年六月満期
同 四十四年六月二級選挙ニ當選
同 三十七年十月二級補缺選挙ニ當選
同 三十八年六月半數改選ニ付退職
同 三十八年六月三級選挙ニ當選
同 四十四年六月満期
明治三十七年十月三級補缺選挙ニ當選
同 三十八年六月半數改選ニ付退職
同 三十八年六月二級増員選挙ニ當選
同 四十四年六月満期

在職年數 氏名

七箇年八箇月(現職) 大谷九平
七箇年八箇月(現職) 松田新藏
七箇年七箇月(現職) 青木榮藏
七箇年七箇月(現職) 山口信太郎
六箇年十箇月 濱崎悌二郎
六箇年九箇月 緒方太一郎

明治三十五年六月二級選挙ニ當選
同 四十一年六月満期
明治三十五年六月二級選挙ニ當選
同 四十一年六月満期
明治三十五年六月三級選挙ニ當選
同 四十一年六月満期
明治三十八年六月一級増員選挙ニ當選
同 四十四年六月満期
明治三十五年六月一級選挙ニ當選
同 四十一年六月満期
明治三十八年六月三級選挙ニ當選
同 三十八年六月半數改選ニ付退職
同 三十八年六月三級選挙ニ當選
同 四十一年六月改選ニ付退職
明治三十八年六月三級選挙ニ當選
同 四十四年六月満期
明治三十八年六月二級選挙ニ當選
同 四十四年六月満期
明治三十八年六月一級選挙ニ當選
同 四十四年六月満期
明治三十五年六月三級選挙ニ當選
同 三十八年六月半數改選ニ付退職
同 三十八年六月三級選挙ニ當選
同 四十一年六月満期

六箇年一箇月 田中國吉
六箇年一箇月 山本字造
六箇年一箇月 吉澤與平
六箇年一箇月 福島末一
六箇年一箇月 齋藤松之助
六箇年一箇月 初瀬進
六箇年一箇月 太田開助
六箇年一箇月 池田彦作
六箇年一箇月 熊野保吉
六箇年一箇月 長醫秀夫
六箇年一箇月 桂木友五郎

就職年月月 (滿期、辭任、失格、死亡等)

明治四十四年六月三級選舉ニ當選
 明治四十四年六月一級選舉ニ當選
 明治四十四年六月二級選舉ニ當選
 明治四十四年六月一級選舉ニ當選
 明治四十四年六月三級選舉ニ當選
 明治四十四年六月二級選舉ニ當選
 明治四十四年六月三級選舉ニ當選
 明治四十四年六月一級選舉ニ當選
 明治四十四年六月一級選舉ニ當選
 明治四十四年六月一級選舉ニ當選
 明治四十四年六月三級選舉ニ當選
 明治三十五年六月二級選舉ニ當選
 明治三十六年七月辭任
 明治三十五年六月二級選舉ニ當選
 明治三十六年七月辭任
 明治四十一年八月辭任
 明治四十一年六月一級選舉ニ當選
 明治四十一年七月死亡

在職年數 氏名

一箇年七箇月(現職) 安室六藏
 一箇年七箇月(現職) 本田林三郎
 一箇年七箇月(現職) 金高靖三
 一箇年七箇月(現職) 橋本喜造
 一箇年七箇月(現職) 上田健三郎
 一箇年七箇月(現職) 原口德太郎
 一箇年七箇月(現職) 深江猶四郎
 一箇年七箇月(現職) 古賀政一
 一箇年七箇月(現職) 松浦森
 一箇年二箇月 淺井晉三郎
 一箇年二箇月 浦部文一
 三箇月 鶴永武二
 二箇月 松永武吉

五 學務委員

就職	職	退職	職	職別	氏名
三十五年十月十日		三十六年七月十日辭職		市會議員	村尾美二
同年同月十三日		三十九年十月滿期		公 民	時任平藏
同		同年七月七日辭職		同	吉澤實信
同		三十六年十月九日辭職		同	江淵武彌太
同		四十一年四月退職		同	堺 昂
同年同月十五日		三十七年一月退職		同	中村直三郎
三十五年十月十日		四十一年六月十日滿期		市會議員	川 副綱隆
四十一年六月十日(再選)		四十四年十月二十七日辭職		公 民	北 岡重信
三十六年十月三日		三十七年七月一日退職		市會議員	森 義勝
三十六年十一月十四日		三十八年六月十日退職		公 民	大谷九平
三十六年十一月十四日		四十年十一月十三日滿期		同	桂木友五郎
四十二年一月二十五日		四十五年一月二十四日滿期		同	片山清曉
三十六年十一月十四日		四十五年一月二十四日滿期		同	東島良太郎
三十七年一月		三十八年八月十四日退職		同	
三十八年八月二十二日		四十一年		同	

第三章 市吏員名譽職員

市役長	助役	收入役	主事	書記	技手	書記	技手	掃除監督	掃除監督	年
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	明治四十五年
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	明治四十四年
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	明治四十三年
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	明治四十二年
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	明治四十一年
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	明治四十年
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	明治三十九年
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	明治三十八年
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	明治三十七年
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	明治三十六年
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	明治三十五年
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	明治三十四年

第四章 諸統計

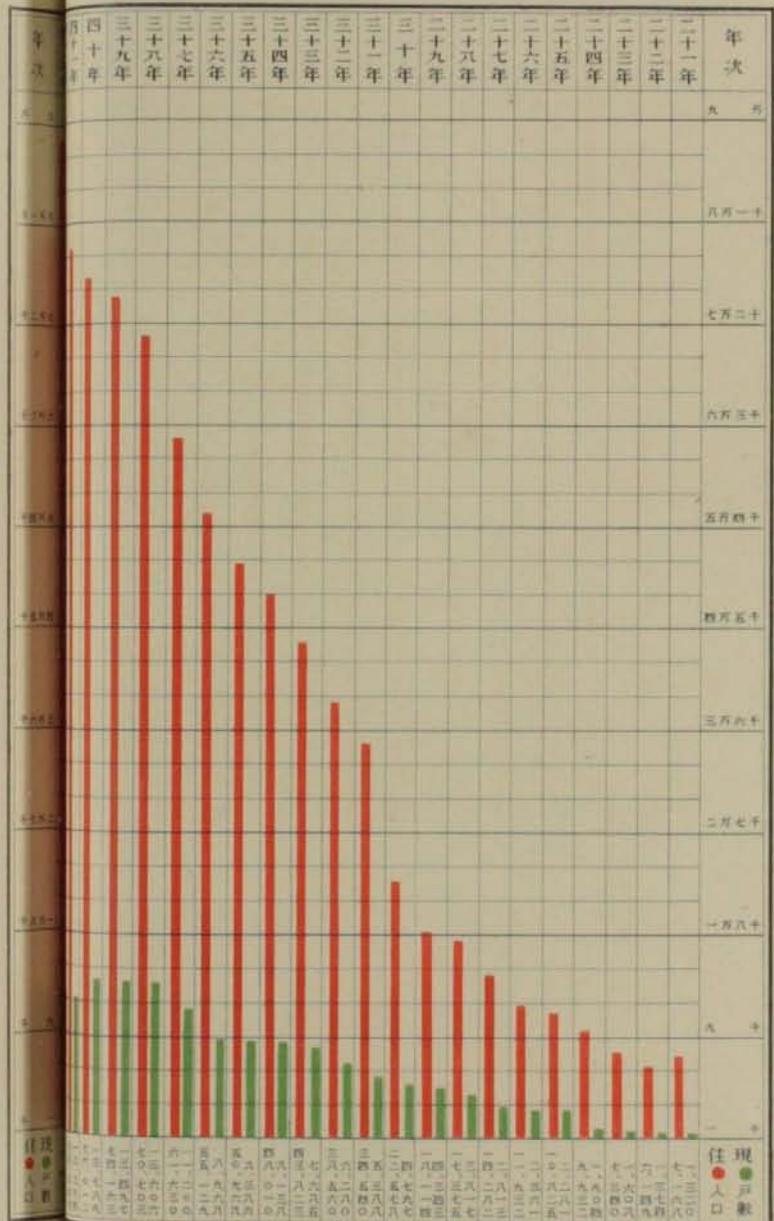
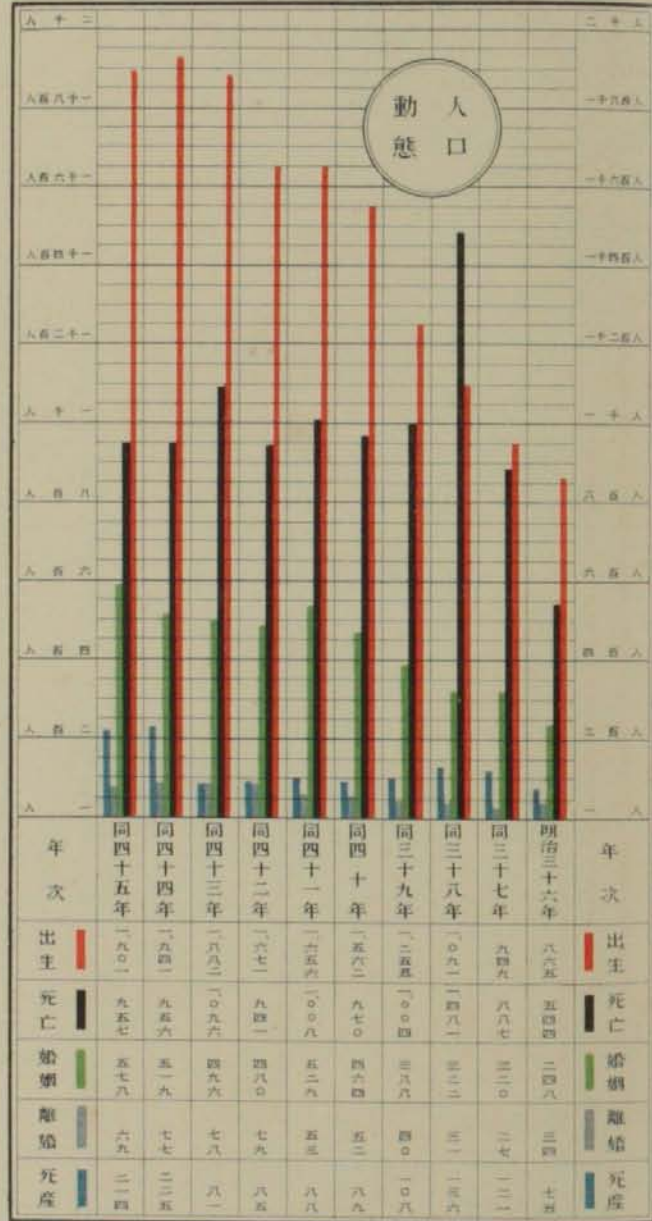
第一節 政務の部

一 市吏員の定數

氏名	職別	職	退	職	就
仁木康真	市會議員	市會議員	三十九年九月退職	同	三十八年
牟田德太郎	市會議員	市會議員	四十三年十二月二十二日退職	同	同
朝山勘一	市會議員	市會議員	四十一年八月四日退職	同	同
山口直路	市會議員	市會議員	四十一年四月三日退職	同	同
大木高甫	市會議員	市會議員	四十四年十二月十七日滿期	同	同
熊野保吉	市會議員	市會議員	四十四年六月十二日退職	同	同
小宮謙藏	市會議員	市會議員	四十三年十二月二十二日退職	同	同
北村倉之助	市會議員	市會議員	現在	同	同
豊村勝治	市會議員	市會議員	同	同	同
松浦勝森	市會議員	市會議員	同	同	同
矢次喜三郎	市會議員	市會議員	同	同	同
大木高甫	市會議員	市會議員	同	同	同
熊野保吉	市會議員	市會議員	同	同	同
田添忠敏	市會議員	市會議員	同	同	同

戶口累年比較

(二 十 五 年)



三戸口

年次	現住戸数	現住人		一月平均現住人	本籍人		
		男	女		男	女	
明治三十五年	八三八戸	三二〇五	一九九二	六〇	五八四	五三三	一一四六
同三十六年	八九六	三〇七二	二四四〇	六一	六二五	六〇六	一一五一
同三十七年	一一一〇〇	三四二九	二七四二	五五	七二二	六八〇	一三九三
同三十八年	三六〇六	三八三五	三二八六	五一	八二五	六九五	一五〇〇
同三十九年	二四九七	四一五九	三二五七	五四	八三九	七〇九	一五四七
同四十年	三七八九	四二五八	三三四五	五五	八六二	七五〇	一六三三
同四十一年	二二九四	四三三四	三五三四	六三	一〇一三	九四九	二〇一三
同四十二年	二二七九	四二六六	三六〇一	六二	一一四八	一一六八	二二六六
同四十三年	二二七五	四五一九	三六九七	六一	一二二六	一一四六	二二七二
同四十四年	二二七五	四七四七	三八九八	六七	一二四三	一一六六	二五〇九

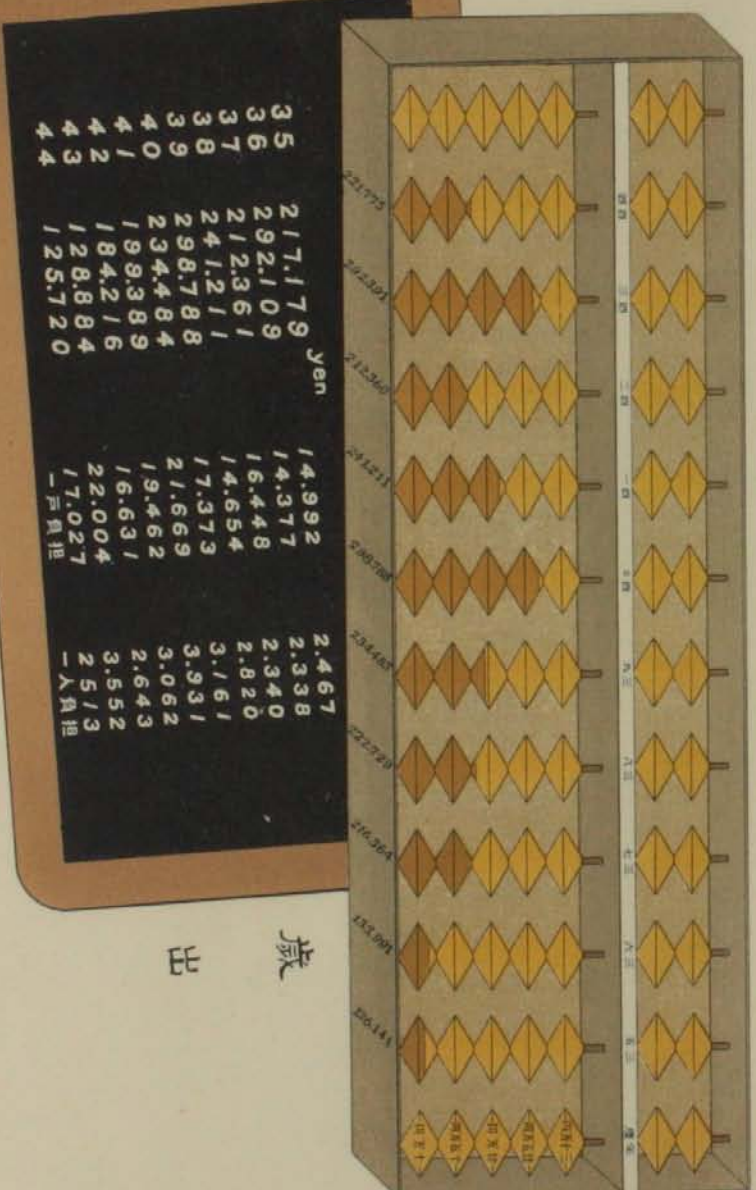
(附) 大正元年の戸口は「戸数一三、一五五」人口八八、四五三」なり

四市費累年比較

年 度	市 費 決 算 額		現 人 口	住 戶 數	歲 一 戶 負 擔 額		一 人 負 擔 額	
	入 歲	出 歲			一 戶 負 擔 額	一 人 負 擔 額		
明治四十四年度	三三,七五〇	三二,七一九	六六,四九五	二,七五五	一七,〇二七	二五,二二三		
同 四十三年度	三九,三一九	三九,一〇九	八二,一〇一	三,一七五	三三,〇〇四	三三,五五二		
同 四十二年度	三三,三〇〇	三三,三六一	八〇,三三七	三,七六九	一六,六三二	二六,四三三		
同 四十一年度	三三,四三二	三二,三三二	七六,七七七	三,三九四	一九,四六二	三〇,〇三二		
同 四十年度	二九,八七六	二九,七六六	七六,〇三三	三,七八九	二二,六六九	三〇,九三二		
同 三十九年度	三三,四四六	三三,四八四	七四,一三三	三,四九七	一七,三三三	三〇,六六一		
同 三十八年度	三三,七二九	一九,九八九	七〇,七〇五	三,六〇六	一四,六五四	二八,二〇〇		
同 三十七年度	三三,三三三	一八,四三六	六二,六〇〇	二,一〇〇	一六,四四八	二〇,四四〇		
同 三十六年度	三三,三九一	二八,八八四	五五,二一九	八,九八六	一四,三三七	二〇,三三八		
同 三十五年度	三六,二四一	二五,七三〇	五〇,九八八	八,三六六	一四,九九二	二〇,四三七		

市 歲 入

入 歳 費 在



前年度繰越金	寄附金	縣交付及補助金	國庫交付及補助金	使用料及手数料	財産ヨリ生スル收入	特別税	直接			年
							附加税	縣税	地價	
二八三	一〇、五三三	五、二五九	三、〇〇六	五、八三〇	四、八八七	營業稅	戶別稅	營業稅	明治四十年	
—	100	六、七四	二、九三	二、六〇〇	四、八〇七	八、五三七	一、六四九	四、九三七	明治三十九年	
一、七三八	一、五〇	五、四六三	二、八八三	一、三〇七	八、五三三	五、八〇六	一、五四七	四、七二六	明治三十八年	
—	—	九、一〇	二、一〇	一、九五四	七、〇七〇	五、六四三	一、五七五	四、七〇	明治三十七年	
—	—	八、〇三九	二、〇一四	一、八八〇	八、三二〇	四、七七一	一、六六二	四、九六五	明治三十六年	
三、三三四	—	三、九〇六	二、一〇	一、八三九	七、七八七	一、〇〇九	一、七四三	五、五〇七	明治三十五年	
三、一四八	一、三四九	二、九一三	三、七三	一、八三五	七、三二八	二、二二八	二、九六三	五、五五〇	明治三十四年	
五、一〇七	—	三、七八五	一、三三	二、五三三	六、五〇四	五、〇三	二、〇三三	四、八三三	明治三十三年	
三、三	七、三一一	一、二六四	三、九三	六、九九三	三、二九二	三、八五〇	二、二六八	二、二六八	明治三十二年	
二、九七三	七、九四〇	七、八二〇	五、六五	三、六九二	一、七九九	八、二五	—	三、七〇六	明治三十一年	

市名	明治三十五年度	明治三十九年度	明治四十年度
東京	1,700,000	2,100,000	2,500,000
京都	700,000	800,000	900,000
大阪	1,000,000	1,200,000	1,400,000
堺	1,000,000	1,100,000	1,200,000

市名	明治三十五年度		明治三十九年度		明治四十年度	
	現住人口	歳出豫算額	現住人口	歳出豫算額	現住人口	歳出豫算額
東京	1,700,000	1,700,000	2,100,000	2,100,000	2,500,000	2,500,000
京都	700,000	700,000	800,000	800,000	900,000	900,000
大阪	1,000,000	1,000,000	1,200,000	1,200,000	1,400,000	1,400,000
堺	1,000,000	1,000,000	1,100,000	1,100,000	1,200,000	1,200,000

市名	明治三十五年度		明治三十九年度		明治四十年度	
	現住人口	歳出豫算額	現住人口	歳出豫算額	現住人口	歳出豫算額
東京	1,700,000	1,700,000	2,100,000	2,100,000	2,500,000	2,500,000
京都	700,000	700,000	800,000	800,000	900,000	900,000
大阪	1,000,000	1,000,000	1,200,000	1,200,000	1,400,000	1,400,000
堺	1,000,000	1,000,000	1,100,000	1,100,000	1,200,000	1,200,000

明治四十年度に於ける全国六十二市に就て觀るに佐世保市は戸數に於て第十八位人口に於て第十三位歳出豫算に於て第十七位に在り歳出一戸負擔額に於ては第二十一位を占め居れり歳出豫算累年比較は左の如し

五 各市歳出豫算額比較

市名	明治三十五年度		明治三十九年度		明治四十年度	
	現住人口	歳出豫算額	現住人口	歳出豫算額	現住人口	歳出豫算額
東京	1,700,000	1,700,000	2,100,000	2,100,000	2,500,000	2,500,000
京都	700,000	700,000	800,000	800,000	900,000	900,000
大阪	1,000,000	1,000,000	1,200,000	1,200,000	1,400,000	1,400,000
堺	1,000,000	1,000,000	1,100,000	1,100,000	1,200,000	1,200,000

市歳出

年 度	明治三十五年度		明治三十九年度		明治四十年度	
	計	雑収入其他	計	雑収入其他	計	雑収入其他
明治三十五年	1,700,000	1,700,000	2,100,000	2,100,000	2,500,000	2,500,000
明治三十九年	2,100,000	2,100,000	2,500,000	2,500,000	3,000,000	3,000,000
明治四十年	2,500,000	2,500,000	3,000,000	3,000,000	3,500,000	3,500,000

市名	明治三十五年度		明治三十九年度		明治四十四年度	
	現住人口	歳出豫算額	現住人口	歳出豫算額	現住人口	歳出豫算額
横濱	五七五〇三	三三三六九	三三三六九	一〇〇六五	四一九六三〇	二四八七
横須賀	—	—	—	—	—	—
神戶	六九二六〇	二七四四九	二七四四九	一〇〇九四	四一九六三〇	二四八七
姫路	九三九二	三二六四	三二六四	一〇〇九四	一〇〇九四	一〇〇九四
長崎	二〇四八三	一四八八三	一四八八三	一〇〇九四	一〇〇九四	一〇〇九四
佐世保	八三六六	五〇九六八	五〇九六八	一〇〇九四	一〇〇九四	一〇〇九四
新潟	一一二五九	五〇九六八	五〇九六八	一〇〇九四	一〇〇九四	一〇〇九四
長岡	—	—	—	—	—	—
前橋	七五七七	—	—	—	—	—
高崎	六〇四三	—	—	—	—	—
水戸	六二四	—	—	—	—	—
宇都宮	七七〇三	—	—	—	—	—
奈良	五九九四	—	—	—	—	—
津	六五二五	—	—	—	—	—
四日市	五〇三三	—	—	—	—	—
山田	六七八〇	—	—	—	—	—

市名	明治三十五年度		明治三十九年度		明治四十四年度	
	現住人口	歳出豫算額	現住人口	歳出豫算額	現住人口	歳出豫算額
名古屋	六六五五	二七五三九	二七五三九	一〇〇六五	四一九六三〇	二四八七
豊橋	—	—	—	—	—	—
静岡	九八四	—	—	—	—	—
甲府	七九〇三	—	—	—	—	—
大津	六二五	—	—	—	—	—
岐阜	七五五	—	—	—	—	—
長野	六六五五	—	—	—	—	—
松本	六六七一	—	—	—	—	—
仙臺	一八六九三	—	—	—	—	—
若松	五四三	—	—	—	—	—
福島	—	—	—	—	—	—
盛岡	六〇二五	—	—	—	—	—
青森	七五五八	—	—	—	—	—
弘前	六八八八	—	—	—	—	—
山形	六五五五	—	—	—	—	—
米澤	五七八七	—	—	—	—	—
秋田	七二四〇	—	—	—	—	—

市名	明治三十五年度			明治三十九年度			明治四十四年度			
	現住戸數	現住人口	歳出豫算額 負擔額	現住戸數	現住人口	歳出豫算額 負擔額	現住戸數	現住人口	歳出豫算額 負擔額	
福井	二二九七	四八四二	七三、一五、四三	六三九	九六五九	五〇、七、五四	一〇、三三三	五〇、二七八	七、一、四〇、三三〇	六、八、五五
金澤	二四三五一	九六、三、七、二八	九、二、九、六、五	二、七、七、七	一〇、三、五、五四	一、九、二、七、六、〇	七、〇、〇、二、五	一、五、八、九	二、九、九、八、八、〇	九、三、七、一
富山	一四、三、八、五	五七、九、七、二、九	三、三、三、三、三、三	一、五、二、七	五、三、八、一	二、五、七、三、八、九	一、七、三、三、四	一、三、四、六、七	一、五、一、六、九、四、七	一、一、二、六、四
高岡	七、三、三、七	三二、四、三、七	五、五、七、三、九、四	七、三、六、八	三三、〇〇三	六、一、三、〇、〇	八、四、三、三	八、〇、九、七	三、六、四、〇、〇	三、六、一、一
鳥取	六、四、三、一	三〇、五、四、四	五、九、二、三、四、三	九、一、四	三、八、〇、九	四、四、一、〇、一、〇	六、九、八、八	五、七、三、三	三、四、三、〇、一	三、〇、五、五
松江	八、一、二、〇	三、五、六、七、八	五、二、四、九、七、二	六、四、六、五	三、五、一、二、一	四、六、一、六、一、四	五、六、九、五	八、四、三、三	八、二、四、九、五、〇	九、七、八、四
岡山	一三、六、六、三	八二、七、七、〇	九、一、三、九、三、五	六、六、八、八	八、四、三、七、六	九、一、七、八、二、九	六、二、二、四	一、六、八、三、六	三、〇、五、九、三、七	一、八、〇、三、一
廣島	三、四、五、六	一、七、七、〇、〇	二、五、八、〇、〇、〇	七、四、七、四	一、四、〇、四、八	三、六、六、一、六、一、七	七、九、八、四	四、三、三、三、四	四、八、四、二、五、〇	一、一、一、一、一
尾道	五、九、三、〇	三〇、三、三、八	三、〇、三、七、〇、三	五、一、三	六、四、四、五	三、四、八、〇、九、四	五、三、八、四	五、五、四、一	三、〇、一、九、八	六、一、六、五、五
吳	一、三、八、〇、九	六、〇、二、二、四	三、九、三、七、五、三	二、八、五、一	一、九、五、七	一、四、四、九、九、四	七、四、七、七	二、四、二、五、六	一、〇、二、三、七	二、九、〇、八、三、〇
下ノ關	一、四、一、七、〇	四、四、七、三、三	七、三、三、九、四、〇	八、九、七、九	一、七、〇、九、九	一、九、八、九、七、六、三	一、一、六、七、〇	二、二、八、六	六、七、三、三、九	一、九、七、五、四、〇
和歌山	三、三、三、九	七、一、〇、三、二	七、一、〇、三、二、四、五	六、一、八、一	一、四、六、三、一	一、〇、三、六、九、〇、七、五	八、九、三、三	二、〇、三、三、四	七、九、二、一、一	一、五、一、四、七、一
徳島	二、九、三、七	六、二、六、九、二	二、六、八、四、九、六	九、九、三、一	一、三、四、一、八	九、三、六、三、二、九	六、九、八、四	一、四、七、七、八	六、六、二、九、五	一、六、四、一、二、六
高松	八、四、五、九	三、五、八、三、二	一、〇、八、〇、八、五	一、二、七、七、三	八、七、〇、〇	一、八、九、〇、七、二	二、二、四、八、四	九、〇、一、四	四、二、七、五、五	一、七、一、〇、四、三
丸龜	七、一、二、〇	二、八、五、六、八	四、八、七、〇、九、五	六、三、二、一	七、〇、七、三	三、五、三、七、三、四、五	四、九、八、三	七、四、七、一	一、五、九、三、三	六、三、五、三、九

市名	明治三十五年度			明治三十九年度			明治四十四年度			
	現住戸數	現住人口	歳出豫算額 負擔額	現住戸數	現住人口	歳出豫算額 負擔額	現住戸數	現住人口	歳出豫算額 負擔額	
松山	九、〇、三、一	三、五、四、三、二	四、四、八、〇、九、九	五、三、六、一	八、九、五、五	三、七、〇、三、二	七、五、〇、三、七、六	八、四、四、三	一、一、四、〇、〇	四、四、九、三、一
高知	八、四、六、三	三、四、六、八、五	七、三、四、五、〇、〇	八、五、六、一	七、九、九、一	二、八、〇、〇、一	六、一、七、四、五、〇、〇	七、七、七、七	八、二、七、七	三、八、〇、七、九
福岡	一〇、四、〇、六	六、九、五、八、一	六、六、八、五、五、五	一、五、五、五、五	一、〇、七、七、七	七、七、〇、九、八	二、五、四、九、〇、〇、〇	一、四、五、六、一	二、七、六、四	八、四、一、七、〇
久留米	五、〇、三、四	三、三、三、三、六	二、六、六、九、六、九	一、五、〇、一、九	五、一、一、四	三、一、六、五、六	一、〇、八、七、七、〇、〇	一、一、三、三、四	五、七、五、九	三、七、九、三、三
門司	七、八、六、五	三、八、七、九、八	二、六、八、四、五、一、〇	二、二、四、八、一	四、四、二、三	四、九、一、五、三	二、九、九、〇、八、〇、〇	二、〇、七、九、九	二、一、三、三、三	六、二、三、九
小倉	四、四、七、九	三、二、四、七、〇	八、九、一、〇、三、七、七	一、九、八、九、四	四、六、三、三	二、七、七、五	二、九、四、二、〇、〇、〇	二、五、八、八、九	四、七、六、〇	三、三、三、五
佐賀	五、〇、五、三	三、四、三、四、四	三、八、〇、九、二、一、五	七、五、九	五、一、九、八	三、五、一、七、三	三、八、六、〇、八、四、八	七、四、三、六	五、五、三、八	三、五、〇、六、六
熊本	一、四、一、三	五、五、一、三、一	二、二、九、六、〇、四、五	七、九、四、二	四、六、〇、四	五、六、〇、八、四	九、八、四、五、二、一、五	六、七、〇、〇	四、九、八、六	六、〇、一、六、五
鹿児島	一、〇、四、八	五、七、八、〇、一	五、一、六、三、六、八、四	四、九、一、一	一、〇、九、一、〇	五、八、三、〇	一、二、八、七、三、四、四	二、一、八、四、四	二、七、三、〇	六、二、一、八
大分	一、〇、四、八	五、七、八、〇、一	五、一、六、三、六、八、四	四、九、一、一	一、〇、九、一、〇	五、八、三、〇	一、二、八、七、三、四、四	二、一、八、四、四	二、七、三、〇	六、二、一、八

六 諸基本財産

年 度	市 有 資 金	福 石 免 有 金	教 育 基 本 財 産
明治三十九年	—	—	五二八、九二四
同 四十年	—	六四、八八〇	五六五、八〇六
同 四十一年	—	六九、三七〇	六〇七、九六六

第四章 諸統計

年 度	市 有 資 金	福 石 免 有 金	教 育 基 本 財 產
明 治 四 十 二 年	六〇〇,〇〇〇	七二,九七〇	八〇一,四一六
同 四 十 三 年	一,二三〇,〇〇〇	七六,九三〇	八九八,八〇六
同 四 十 四 年	一,二三〇,〇〇〇	八〇,七三〇	四,一五一,三一六

七 市 有 財 產

(明治四十四年十二月現在)

種 別	所 在 地	建 物 坪 數	土 地 坪 數	備 考
佐世保市役所廳舎	佐世保市八幡町	一九〇・二四九		木造二階建
同 附屬煉瓦倉庫	同	一六〇〇〇		煉瓦二階建
同 宿直室小使室	同	一二・二五〇		木造平家建以下同
同 物置	同	一八〇〇〇		
同 便所	同	六〇〇〇	八〇四 ^坪	
同 物置	同	一五・七五〇		起工四十二年八月
同 渡廊下	同	三五〇〇〇		竣工四十二年三月
同 水道倉庫	同	二二・〇〇〇		

種 別	所 在 地	建 物 坪 數	土 地 坪 數	備 考
同 鍛冶場	同	四〇〇〇	二,九三二・〇〇〇	木造二階建
戸尾尋常高等小學校	同市戸尾町	四一三・〇〇〇	二,九三二・〇〇〇	
八幡谷女兒尋常高等小學校	同市八幡町	二五二・二五〇	二,七〇〇・〇〇〇	同
八尋常小學校分教場	同	一二六・〇〇〇	二,七〇〇・〇〇〇	同
八幡尋常小學校	同	一三四・五〇〇	一,五八〇・〇〇〇	同
八幡女兒尋常小學校	同	二四〇・七五〇	一,四七五・〇〇〇	同
白南風尋常小學校	同市白南風町	二五六・二五〇	一,八七七・五〇〇	同
祇園尋常小學校	同市祇園町	二八三・〇〇〇	一,八三二・〇〇〇	同
琴平尋常小學校	同市金比良町	二八三・〇〇〇	一,八三二・〇〇〇	同
赤崎尋常小學校	同市赤崎免字上天石	一二二・二九〇	五八五・〇〇〇	木造平家建
庵ノ浦尋常小學校	同市庵ノ浦字太田	四七・五〇〇	一六五・〇〇〇	同
長 田 病 院	同市保立町	四七九・〇〇〇	三,一〇二・〇〇〇	木造平家建
狂 人 病 院	同上長田病院構内	一〇〇・〇〇〇	三,一〇二・〇〇〇	起工明治三十七年十二月二十三日
行 族 病 院	同上長田病院構内	四・九八〇	三,一〇二・〇〇〇	竣工同 三十八年八月十六日
元 傳 染 病 院	同市戸尾町	一	一,五五〇・一〇〇	同
消 防 器 具 置 場	佐世保警察署構内	六〇〇〇		木造平家建
同	佐世保市宮田町	一九九五		同
同	同市濱田町	二・二五〇		同

種別	所在地	建物坪數	土地坪數	備考
同	同市元町	一・四五〇		木造平家建、教法寺脇
同	同市相生町	八〇〇		木造平家建
同	同市谷郷町	八〇〇		木造平家建
同	同市松浦町	八〇〇		金子病家建
同	同市榮町	一・二六三		木造平家建、宮地嶽神社下
同	同市島瀬町	一〇〇〇		綱生屋建
同	同市湊町	六三〇		木造平家建、島瀬橋脇
同	同市光月町	九一〇		明治三十七年五月建設
同	同市高天町	六五〇		小佐世保川端
同	同市上京町	九一〇		勝富町交番所ノ側
同	同市鹽濱町	八〇〇		明治三十七年五月建設
同	佐世保停車場脇	一・一七〇		海浜端
同	同市京町	一〇〇〇		人力駐車場裏手
同	同市花園町	一〇〇〇		明治三十八年十二月建設
同	同市萬徳町		五四・九一〇	戸尾橋脇
同			六三・〇四〇	木造平家建、熊野神社下
同			二五・〇〇〇	大正二年三月建設
				道路ニ使用

種別	所在地	建物坪數	土地坪數	備考
消防器具置場	佐世保市松浦町	四〇〇〇		木造平家建
同	同市金比真町	四〇〇〇		同
同	同市勝富町	三八〇〇		明治三十八年十二月建設
同	同市下京町	三・〇〇〇		木造平家建
同	同市白南風町	四〇〇〇		同
警鐘臺	同市鹽濱町	二・二三〇		明治三十九年三月建設
掃除監視所	同市鹽濱町	二・〇〇〇		木造平家建
掃除休憩所	同市島地町	二・〇〇〇		同
夜警見張所	同市島地町	六五〇		同
街路便所	同市城山町	八〇〇		同
同	同市木場田町	八〇〇		木造平家建
同	同市上町	二・三五〇		木造平家建
同	同市松浦町	二・三五〇		煉瓦造及木造平家建
				佐世保橋下
				大正二年一月建設

種別	所在地	建物坪數	土地坪數	備考
宅地	同市八幡町		六六・七九〇	同
同	同市萬津		四・三二〇	同
同	同市三浦町		二五・〇〇〇	同
同	同市八幡町		九・〇〇〇	同
同	同市島瀬町		一七・五〇〇	同
同	同市宮地町		一七・五〇〇	同
同	同市比真町		六・〇〇〇	同
同	同市萬津町		四七・〇〇〇	同
同	同市折橋免		一三五・〇〇〇	海面埋立ノ分 木造平家建以下同シ
新開地	同市折橋免	四二・〇〇〇		
雜種地	同市折橋免			
事務室、検査員室	同	一七・〇〇〇		
内蔵取扱所	同	一六・〇〇〇		
居夫役夫控所	同	一一・〇〇〇		
生體検査室	同	六・〇〇〇		
病畜居室	同	七・五〇〇	七〇〇・〇〇〇	起工明治四十二年五月 竣工同 四十二年六月
牛馬隔離舍	同	四・〇〇〇		
病畜留所	同	三・三二五		

種別	所在地	建物坪數	土地坪數	備考
市街宅地	佐世保市元町		一九四〇	濱崎寅三郎ノ貸付
同	同市松川町		一〇・三九〇	元中ノ橋踏懸ケ脇
同	同市高砂町		二五・〇〇〇	道路數
同	同市八幡町		七・〇〇〇	井戸數
同	同市佐世保免字白木		九九一・〇〇〇	舊塵芥焼却場
市街宅地	同市佐世保免字白木		一〇〇・〇〇〇	荒地
同	同		六八・〇〇〇	同
同	同		一九七・〇〇〇	同
同	同		一八〇・〇〇〇	共同墓地
同	同市名切町		三・〇〇〇	火葬場道路
同	同市名切町		一八六・〇〇〇	塵芥焼却場
同	同市折橋免		一・〇〇〇	堤防數
同	同市元町		二五・二〇〇	溝數
同	同市木場田町		三・三五〇	堤防數
同	同市名切町		六・〇〇〇	不用道路數讓與ヲ受ケタル分

牛馬羊豚繫留所	佐世保市折橋免	1,313.10
廊下	同	1,000.00
運搬車置場	同	3,000.00

貯蓄預金二千七百九十圓十七錢二厘、公債額面三千百圓、器具器械其他備品彙帳記載の通、水道用器具機械其他(備品彙帳記載の通)、鐵管延長十一里二十八丁二十一間

八市債

借入年月	起債目的	借入額	利率	元金	利子	四十四年度現在	摘要
明治三十七年三月	水道事業調査、道路改修、塵芥、機却場改築、傳染預防事務費、臨時警備費、衛生費、土木費、衛生費	3,500 円	一割	3,500 円	90.6000		三十七、三十八、三十九ノ三箇年度ニテ償却
同年七月	給水事業費	3,000 円	一割	3,000 円	65.5000		三十七、三十八、三十九ノ三箇年度ニテ償却
同年八月	給水事業費	4,000 円	一割	4,000 円	110.0000		三十七、三十八、三十九ノ三箇年度ニテ償却
同年十月	水害土木及警備費	1,500 円	一割	1,500 円	75.0000		三十八、三十九、四十ノ三箇年度ニテ償却
同三十八年三月	學校建築費	1,500 円	一割	1,500 円	37.5000		三十八、三十九、四十ノ三箇年度ニテ償却
同三十九年二月	同	10,000 円	日歩二錢五厘	10,000 円	570.0000		三十九、四十、四十一ノ三箇年度ニテ償却

借入年月	起債目的	借入額	利率	元金	利子	四十四年度現在	摘要
同年十二月	臨時衛生費	3,000 円	八步五厘	3,000 円	350.0000		三十九、四十ノ二箇年度ニテ償却
同年同月	同	5,875 円	八步五厘	5,875 円	69.6768		三十九、四十ノ二箇年度ニテ償却
同四十年二月	同	2,788 円	八步五厘	2,788 円	129.7275		三十九、四十ノ二箇年度ニテ償却
同年六月	同	6,000 円	八步五厘	6,000 円	146.7000		三十九、四十ノ二箇年度ニテ償却
同年九月	同	13,500 円	日歩二錢五厘	13,500 円	1,800.0000		三十九、四十、四十一ノ三箇年度ニテ償却
同四十二年四月	舊債償還	10,800 円	九朱	10,800 円	1,872.0000		三十九、四十、四十一ノ三箇年度ニテ償却
同年同月	臨時衛生費、小學校新築費	7,000 円	九朱	7,000 円	1,877.4400		三十九、四十、四十一ノ三箇年度ニテ償却
同年七月	中學校新築費	5,000 円	九朱	5,000 円	1,876.2500		三十九、四十、四十一ノ三箇年度ニテ償却
同四十二年四月	経費補元	2,000 円	日歩二錢四厘	2,000 円	2,800.9600		三十九、四十、四十一ノ三箇年度ニテ償却
同年六月	市役所廳舎及附屬施設改築費、屠場施設費	2,500 円	九朱	2,500 円	5,473.0000		三十九、四十、四十一ノ三箇年度ニテ償却
同四十二年三月	市役所廳舎及附屬施設改築費	1,500 円	日歩二錢二厘	1,500 円	1,180.0000		三十九、四十、四十一ノ三箇年度ニテ償却
同年四月	同	9,000 円	日歩二錢	9,000 円	3,673.5000		三十九、四十、四十一ノ三箇年度ニテ償却

九縣稅負擔額累年比較

年 度	分 區	地 租 制	營 業 稅	雜 種 稅	附 營 業 稅	附 所 得 稅	附 續 業 稅	戶 數 制
明治三十五年	稅 人	一、三〇四、六三〇 七 七 人	三、九四八、五〇〇 三 七 三 九 人	一、一九〇、八八〇 二 八 三 二 人	一、六〇〇、九六〇 五 八 一 人	一、一三三、〇〇〇 九 九 八 人	—	一、三六〇、七六〇 八 三 八 六 人
同 三十六年	同	一、二四八、八〇〇	四、五〇〇、五八〇	一、八七六、五三〇	一、六二八、二〇〇	一、二八七、七三〇	—	九三〇、八五〇
同 三十七年	同	一、〇九一	四、三三三	三、一八一	六二六	一、一〇〇	—	八九六、八
同 三十八年	同	一、三六三、二〇〇	七、四七三、七〇〇	三、四七三、四一〇	三、二四九、九九〇	二、二八三、五七〇	八、〇〇〇 五 人	一、〇一七、四一〇
同 三十九年	同	一、三〇二	六、一七七	三、四四七	七〇三	一、〇〇一	—	一一一、〇〇〇
同 四十年	同	一、二二八、二四〇	八、七三三、八六〇	一、四八八、一七七〇	四、四一七、一八〇	二、六九六、八五〇	八、七七〇	一、〇〇六、四一九〇
同 四十一年	同	一、二四四	七、九八〇	四、四三三	九七二	一、三六六	五	一、三三六、三
同 三十九年	同	一、七四三、三〇〇	八、八二二、六七〇	二、二二九、五四〇	三、九〇五、〇〇〇	三、〇五九、九五〇	一、九一六、〇〇	一、六六三、〇三〇
同 四十年	同	一、二六七	七、五五六	四、八三七	九八四	一、七五五	六	一、三三九、七
同 四十一年	同	一、八七七、〇五〇	七、八〇一、七〇	一、九六〇、三二〇	三、三九三、三九〇	三、四八三、三七〇	九、四〇〇	二、六一〇、九〇
同 四十一年	同	一、九三二、五〇〇	六、八七六、八五〇	一、八八三、三六〇	三、五三〇、二二〇	二、五八〇、三〇	七、八〇〇	二、六四〇、八八九〇
同 四十一年	同	一、三九〇	五、六六八	四、二八八	一、〇六四	二、二四八	六	一、三〇四、〇

第四章 諸 統 計

年 度	分 區		地 租 制	營 業 稅	雜 種 稅	附 加 稅	附 所 得 稅	附 加 稅	附 加 稅	戶 數 制
	同	同								
同 四十四年	同	同	五八五二・三三〇	六三三三・四七〇	一九二七・五五五	四七〇〇・三〇〇	一〇八八	二九七・〇七〇	八・五〇〇	三三三・二八〇
同 四十三年	同	同	一六二二	五三三三・四七〇	四二七八	一三三九	二八〇・六三〇	二七〇三	五	三三三・二七五
明 治 四十二年	稅 人	稅 人	三六二二・九一五 一五七二	六四〇〇・五五〇 四九七五	一八二九・八八〇 四二六六	四九五・七五〇 一・三三	二八〇・六三〇 二四八八	一九八〇	九・五〇〇	二八三・三三〇 二二五三

一〇 國稅徵收滯納金額

年 度	地 租	所 得 稅	營 業 稅	酒 稅	醬 油 稅	鹽 業 稅	相 續 稅	洋 織 稅 物	其 他	計
同 三十八年	一七九三 一六一四	三三九〇・八 一五三三	一五三三 一五三三	一三三三 一三三三	四二二 四二二	一三三 一三三	一三三 一三三	一三三 一三三	一八八 一六六	一七九三 一七九三
同 三十七年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同 三十六年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
明 治 三十五年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

一一 縣稅滯納人員及金額

年 度	地 租 制		營 稅 業	同	同
	金 額	人 員			
同 三十九年	同	同	同	同	同
同 四十年	同	同	同	同	同
同 四十一年	同	同	同	同	同
同 四十二年	同	同	同	同	同
同 四十三年	同	同	同	同	同
同 四十四年	同	同	同	同	同

第四章 諸 統 計

第二節 教育の部

一 小學校沿革圖表

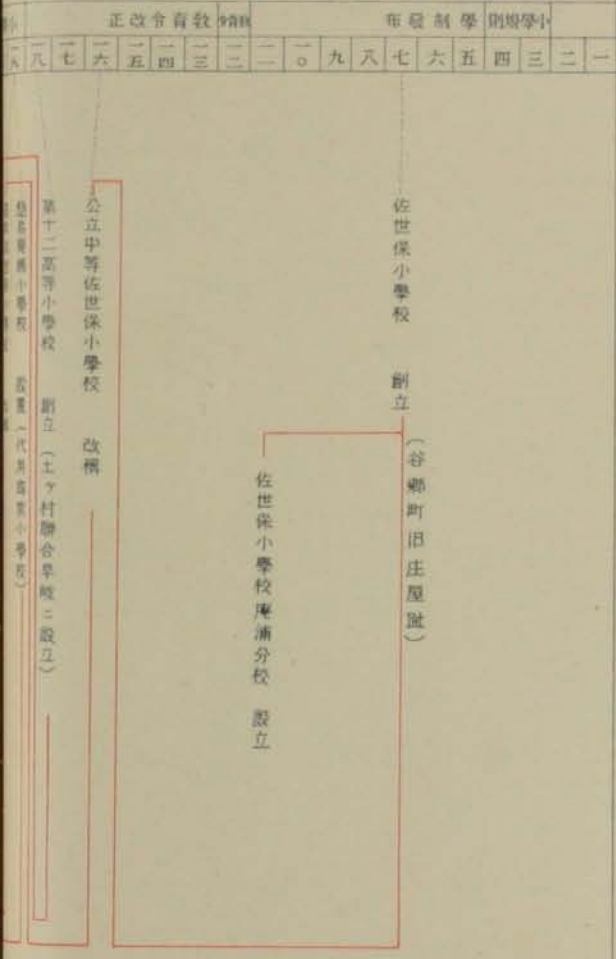
計	戸 數 割	附鎮 加業 稅稅		附所 加得 稅稅		附營 加業 稅稅		雜 種 稅			
		同	同	同	同	同	同	金額	人員		
一九〇〇	二五〇五	一〇七五	八三〇四	四	一	五五六	九七	五五〇	三七六	四三四三	二五三〇
一九〇一	二五二七	九〇八	七六八	九	五	三三三	六四	一三六	四九	四九四六	二六四六
一九〇二	二六四六	七〇八	二〇〇八	八	四	三二	六三	一三	六三	五五九	二六八八
一九〇三	二七二四	七〇八	一八六九	七	七	六〇	一〇三	一四〇	一〇七	一〇三七	四六二五
一九〇四	二八四三	七〇八	一三九六	五	二	一	一	一三	五三	一三三四	三六二六
一九〇五	二八四三	七〇八	一五八四	一	一	一	一	一〇	四八	一三五九	六〇五四
一九〇六	二八四三	七〇八	一五八四	一	一	一	一	一〇	四八	一三五九	六〇五四
一九〇七	二八四三	七〇八	一五八四	一	一	一	一	一〇	四八	一三五九	六〇五四

佐世保小學校沿革圖表

年次
改正
年次

年次	改正	年次	行政區
一	一	一	寺小屋代
二	二	二	寺小屋代
三	三	三	寺小屋代
四	四	四	寺小屋代
五	五	五	寺小屋代
六	六	六	寺小屋代
七	七	七	寺小屋代
八	八	八	寺小屋代
九	九	九	寺小屋代
一〇	一〇	一〇	寺小屋代
一一	一一	一一	寺小屋代
一二	一二	一二	寺小屋代
一三	一三	一三	寺小屋代
一四	一四	一四	寺小屋代
一五	一五	一五	寺小屋代
一六	一六	一六	寺小屋代
一七	一七	一七	寺小屋代
一八	一八	一八	寺小屋代

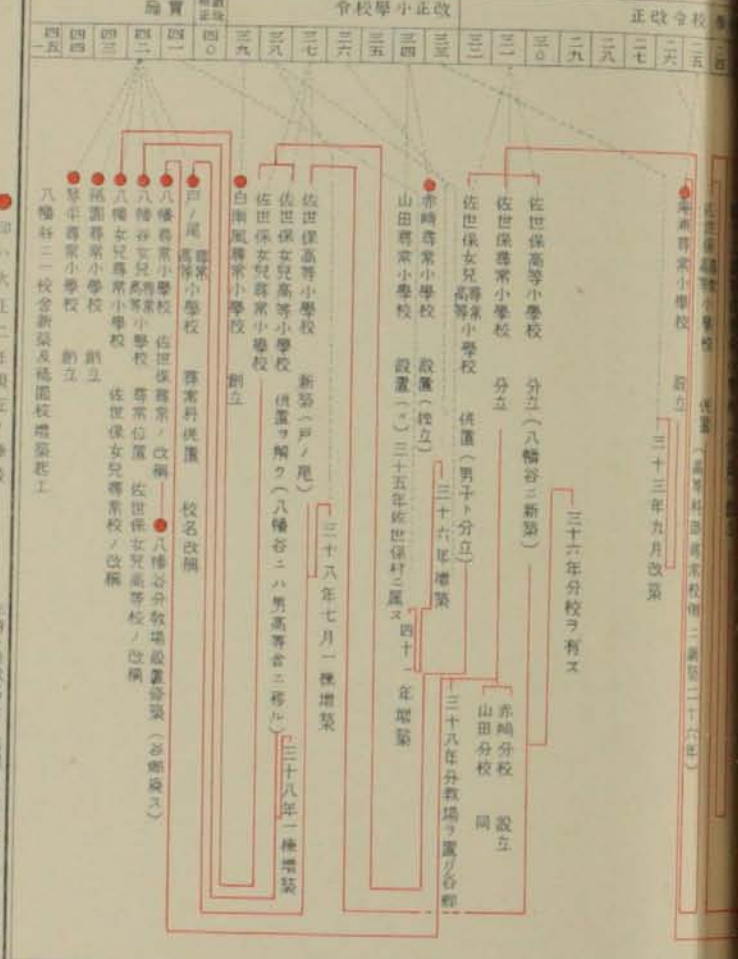
明



年次	改正	年次	行政區
一	一	一	寺小屋代
二	二	二	寺小屋代
三	三	三	寺小屋代
四	四	四	寺小屋代
五	五	五	寺小屋代
六	六	六	寺小屋代
七	七	七	寺小屋代
八	八	八	寺小屋代
九	九	九	寺小屋代
一〇	一〇	一〇	寺小屋代
一一	一一	一一	寺小屋代
一二	一二	一二	寺小屋代
一三	一三	一三	寺小屋代
一四	一四	一四	寺小屋代
一五	一五	一五	寺小屋代
一六	一六	一六	寺小屋代
一七	一七	一七	寺小屋代
一八	一八	一八	寺小屋代

治

年次	改正	年次	行政區
一	一	一	寺小屋代
二	二	二	寺小屋代
三	三	三	寺小屋代
四	四	四	寺小屋代
五	五	五	寺小屋代
六	六	六	寺小屋代
七	七	七	寺小屋代
八	八	八	寺小屋代
九	九	九	寺小屋代
一〇	一〇	一〇	寺小屋代
一一	一一	一一	寺小屋代
一二	一二	一二	寺小屋代
一三	一三	一三	寺小屋代
一四	一四	一四	寺小屋代
一五	一五	一五	寺小屋代
一六	一六	一六	寺小屋代
一七	一七	一七	寺小屋代
一八	一八	一八	寺小屋代
一九	一九	一九	寺小屋代
二〇	二〇	二〇	寺小屋代
二一	二一	二一	寺小屋代
二二	二二	二二	寺小屋代
二三	二三	二三	寺小屋代
二四	二四	二四	寺小屋代
二五	二五	二五	寺小屋代
二六	二六	二六	寺小屋代
二七	二七	二七	寺小屋代
二八	二八	二八	寺小屋代
二九	二九	二九	寺小屋代
三〇	三〇	三〇	寺小屋代
三一	三一	三一	寺小屋代
三二	三二	三二	寺小屋代
三三	三三	三三	寺小屋代
三四	三四	三四	寺小屋代
三五	三五	三五	寺小屋代
三六	三六	三六	寺小屋代
三七	三七	三七	寺小屋代
三八	三八	三八	寺小屋代
三九	三九	三九	寺小屋代
四〇	四〇	四〇	寺小屋代
四一	四一	四一	寺小屋代
四二	四二	四二	寺小屋代
四三	四三	四三	寺小屋代
四四	四四	四四	寺小屋代
四五	四五	四五	寺小屋代



年次	改正	年次	行政區
一	一	一	寺小屋代
二	二	二	寺小屋代
三	三	三	寺小屋代
四	四	四	寺小屋代
五	五	五	寺小屋代
六	六	六	寺小屋代
七	七	七	寺小屋代
八	八	八	寺小屋代
九	九	九	寺小屋代
一〇	一〇	一〇	寺小屋代
一一	一一	一一	寺小屋代
一二	一二	一二	寺小屋代
一三	一三	一三	寺小屋代
一四	一四	一四	寺小屋代
一五	一五	一五	寺小屋代
一六	一六	一六	寺小屋代
一七	一七	一七	寺小屋代
一八	一八	一八	寺小屋代
一九	一九	一九	寺小屋代
二〇	二〇	二〇	寺小屋代
二一	二一	二一	寺小屋代
二二	二二	二二	寺小屋代
二三	二三	二三	寺小屋代
二四	二四	二四	寺小屋代
二五	二五	二五	寺小屋代
二六	二六	二六	寺小屋代
二七	二七	二七	寺小屋代
二八	二八	二八	寺小屋代
二九	二九	二九	寺小屋代
三〇	三〇	三〇	寺小屋代
三一	三一	三一	寺小屋代
三二	三二	三二	寺小屋代
三三	三三	三三	寺小屋代
三四	三四	三四	寺小屋代
三五	三五	三五	寺小屋代
三六	三六	三六	寺小屋代
三七	三七	三七	寺小屋代
三八	三八	三八	寺小屋代
三九	三九	三九	寺小屋代
四〇	四〇	四〇	寺小屋代
四一	四一	四一	寺小屋代
四二	四二	四二	寺小屋代
四三	四三	四三	寺小屋代
四四	四四	四四	寺小屋代
四五	四五	四五	寺小屋代

印ハ大正二年在現在ノ學校

正明ト學校名トヲ其後ラ以テ遷移シタルノ其年ニ
其校ノ新築設置改稱ノケルヲ表ハス

市立小學校一覽表

(明治四十五年三月現在)

創立年月	御聖影下賜年月	職員	學級數	兒童數	卒業生數	建築構造	校舍總坪數
明治七年九月 位 置 舊庄屋址(今ノ谷郷 現時八幡町一六一ノ 一)	明治三十七年十一月 三日	正教員 男十一人 其他 女二人	二十學級	一千八十三人	二十六箇年間 男三千六百八十九人 女三百三十二人 計四千零一十一人 明治七年ヨリ同十九 年迄不明同二十一年 ヨリ同三十二年迄女 生アリ	二階建 木造瓦葺 七百六十五坪	四十七坪五合 十七室
明治十一年三月	明治二十六年十二月 二十三日	正教員 男一人 其他 男一人	二學級	六十四人	二十七箇年間 百七十八人 (明治十九年以前不明)	平家 木造瓦葺 百六十五坪	四十七坪五合 三室
明治二十三年 慶浦字太田一、四四 六ノ一	明治二十六年九月一 日	正教員 男十六人 其他 女三人	尋常 十一學級 高等 十學級	二十四年ヨリ四十五年 迄二十二箇年間 高等一千五百五十一人 尋常 三百二十三人	二階建丁字形 木造瓦葺 二千九百三十二坪 (實用二千二百坪)	六百九十九坪五合 二十二室	
明治三十一年 八幡町一六一ノ一	明治三十七年十月二 十二日	正教員 男十一人 其他 女二人	二十一學級	三十七年ヨリ四十四年 迄十四箇年間 尋常二千二百四十七人 高等 二百八十八人	二階建 木造瓦葺 八百十五坪	四百三十七坪五合 十九室	
明治三十一年 崎免字天石一、七 〇ノ二	明治三十五年六月二 十七日	正教員 男三人 其他 女一人	五學級	三十四年ヨリ四十五年 迄十二箇年間 二百人	平家二棟 木造瓦葺 五百八十五坪	百二十二坪二合九 四室	

<p>清混女男</p> <p>琴平尋常 紙園尋常 白南風尋常 赤崎尋常 庵浦尋常</p> <p>計合 九校</p>	<p>十四年創立新築</p> <p>明治四十二年 金比良町一四三ノ二 二日</p>	<p>十四年創立新築</p> <p>明治四十二年 紙園町一一五 二日</p>	<p>十四年創立新築</p> <p>明治四十二年 白南風町一三八 一日</p>	<p>十四年創立新築</p> <p>明治三十九年 白南風町一三五 八幡町三五</p>	<p>十七年尋常ト分離シ 八年更ニ一棟新築 二年尋常併置 校名ニ改稱ス</p> <p>明治三十七年 赤崎免字天石一、七 二〇ノ二 十七日</p>	<p>十一年佐世保尋常小 時分校ト稱ス 四年獨立シテ現校名 六年同四十二年ノ兩</p> <p>明治三十一年 赤崎免字天石一、七 二〇ノ二 十七日</p>	<p>十一年男兒ト分離シ 等併置 七年尋常高等分立 二年現校名ニ改稱</p> <p>明治三十一年 八幡町一六一ノ一 十二日</p>	<p>十三年第十二高等佐 學校創立 五年尋常ニ併置 六年校舍新築 一年分立新築 八年戸尾ニ新築 二年尋常科併置</p> <p>明治二十三年 二十三年舊庄屋址 (谷郷町) 二十六年八幡町 三十七年八幡谷 三十七年戸尾二三一 二日</p>	<p>三年改築</p> <p>明治二十四年五月十 三日</p>	<p>一年在佐世保小學校廢 創立 五年簡易小學校ト改稱 五年庵浦尋常小學校</p> <p>明治二十六年九月一 日</p>	<p>現時八幡町六一ノ 一</p> <p>明治二十六年十二月 二十三日</p>	<p>其他女 一〇</p> <p>二學級</p> <p>二十七箇年間 (明治十九年以前不明)</p> <p>二百六十三坪七合五 勺</p> <p>四十七坪五合</p> <p>四十七坪五合</p>	<p>其他女 一人</p> <p>六十四人</p> <p>正教員 男 一人</p> <p>其他 男 一人</p> <p>正教員 男 一人</p> <p>其他 女 一人</p> <p>十一學級</p> <p>二十四年ヨリ四十五年 迄三箇年間 高等一千五百五十一人</p> <p>二百六十五坪</p> <p>三室</p> <p>六百九十九坪五合</p>	<p>其他女 一人</p> <p>二十一學級</p> <p>三十二年ヨリ三十四年 迄三箇年間 高等一千二百四十七人</p> <p>四百七坪</p> <p>三十二室</p> <p>六百九十九坪五合</p>	<p>其他女 二人</p> <p>一十百三十九人</p> <p>正教員 男 十一人 女 六人</p> <p>其他 女 一人</p> <p>十一學級</p> <p>三十一年ヨリ三十四年 迄六箇年間 高等二百八十八人</p> <p>二百四十坪七合五勺</p> <p>十九室</p> <p>四百三十七坪五合</p>	<p>其他女 二人</p> <p>五學級</p> <p>三十一年ヨリ三十四年 迄三箇年間 高等二百二十六人</p> <p>八百十五坪</p> <p>十九室</p> <p>四百三十七坪五合</p>	<p>其他女 二人</p> <p>二百人</p> <p>正教員 男 三人</p> <p>其他 女 一人</p> <p>二學級</p> <p>三十四年ヨリ四十五年 迄三箇年間 高等二百八十八人</p> <p>二百四十坪七合五勺</p> <p>四室</p> <p>四百三十七坪五合</p>	<p>其他女 二人</p> <p>八尋常 八學級 高等 六學級</p> <p>正教員 男 七人 女 六人</p> <p>其他 女 二人</p> <p>六尋常 六學級 高等 三尋常 三學級</p> <p>正教員 男 六人 女 六人</p> <p>其他 女 二人</p> <p>五尋常 五學級 高等 三尋常 三學級</p> <p>正教員 男 七人 女 六人</p> <p>其他 女 二人</p> <p>三十八年ヨリ四十五年 迄八箇年間 高等九百九十二人</p> <p>二百五十二坪二合五勺</p> <p>十五室</p> <p>四百五十四坪七合五勺</p>	<p>其他女 三人</p> <p>十八學級</p> <p>四十年ヨリ四十五年迄 六箇年間 六百六十七人</p> <p>二百五十六坪二合五勺</p> <p>十四室</p> <p>四百七坪</p>	<p>其他女 三人</p> <p>十八學級</p> <p>四十年ヨリ四十五年迄 六箇年間 六百六十七人</p> <p>二百五十六坪二合五勺</p> <p>十四室</p> <p>四百七坪</p>	<p>其他女 二人</p> <p>九百五十九人</p> <p>正教員 女 九人</p> <p>其他 女 二人</p> <p>十八學級</p> <p>四十三年ヨリ四十五年 迄三箇年間 三百二十七人</p> <p>千八百七十七坪五合 (實用千五百坪)</p> <p>十四室</p> <p>五百八十五坪五合</p>	<p>其他女 二人</p> <p>九百九十八人</p> <p>正教員 女 九人</p> <p>其他 女 二人</p> <p>十六尋常 十六學級 高等 十六尋常 十六學級</p> <p>四十三年ヨリ四十五年 迄三箇年間 二百四十八人</p> <p>一千八百三十二坪 (實用千三百七十坪)</p> <p>十四室</p> <p>五百八十五坪五合</p>	<p>其他女 二人</p> <p>九百九十八人</p> <p>正教員 女 九人</p> <p>其他 女 二人</p> <p>十六尋常 十六學級 高等 十六尋常 十六學級</p> <p>四十三年ヨリ四十五年 迄三箇年間 二百四十八人</p> <p>一千八百三十二坪 (實用千三百七十坪)</p> <p>十四室</p> <p>五百八十五坪五合</p>	<p>其他女 二人</p> <p>九百九十八人</p> <p>正教員 女 九人</p> <p>其他 女 二人</p> <p>十六尋常 十六學級 高等 十六尋常 十六學級</p> <p>四十三年ヨリ四十五年 迄三箇年間 二百四十八人</p> <p>一千八百三十二坪 (實用千三百七十坪)</p> <p>十四室</p> <p>五百八十五坪五合</p>
---	---	--	---	--	--	--	---	---	-------------------------------------	--	---	---	--	---	--	---	--	---	--	--	--	---	---	---

二 佐世保市立小學校一覽表

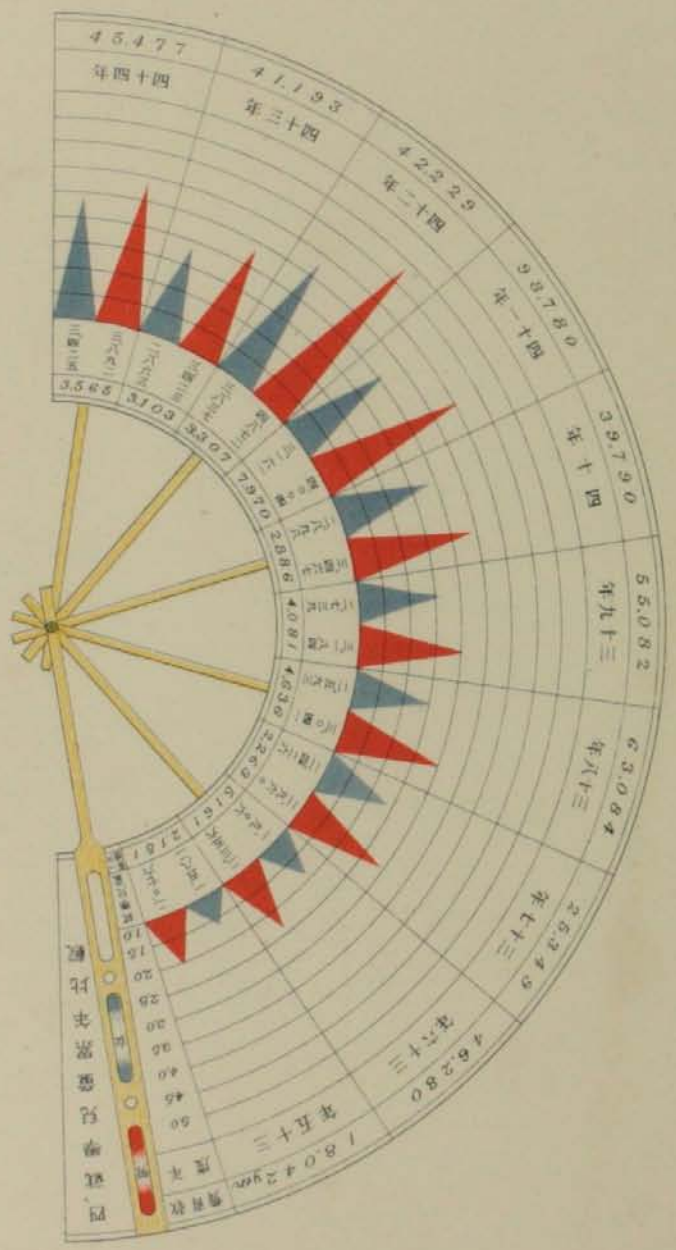
(明治四十五年三月現在)

學 校 事 項		沿 革 概 要	創 立 年 月	御 聖 影 下 賜 年 月	職 員	學 級 數	卒 業 生 數
八幡尋常小學校 八幡谷分教場	明治七年佐世保小學校創立 明治九年尋常佐世保小學校 明治二十三年校舍新築同二十 八年一棟増築 明治二十五年高等科併置同三 十一年同分立新築 同十二年現校名ニ改メ 同四年八幡谷分教場設立	明治七年九月 明治二十四年二月十 一日 舊庄屋址(今ノ谷郷 町)時八幡町一六一ノ	明治三十七年十一月 三日	正教員 男十一人 女十三人 其他 女男 一〇人	二十學級 一千八十三人	二十六箇年間 男三千六百八十九人 女三千八百四十二人 計六千五百三十一人 明治七年ヨリ同十九 年迄不明同二十年 ヨリ同三十二年迄女 生アリ	
鹿浦尋常小學校	明治十一年佐世保小學校鹿 浦分校創立 同十九年鹿浦尋常小學校ト改稱 同二十年鹿浦尋常小學校 ト改稱 同三十三年改築	明治十一年三月 鹿浦字太田 一、四四 六ノ一	明治二十六年十二月 二十三日	正教員 男一人 其他 男一人	二學級 六十四人	二十七箇年間 百七十八人 (明治十九年以前不明)	
戸尾高等小學校	明治二十三年第十二高等佐 世保小學校創立 同二十五年尋常ニ併置 同二十六年校舍新築 同三十七年戸尾ニ新築 同三十八年更ニ一棟増築 同四十二年尋常科併置 同三十七年戸尾ニ二三一 三七年戸ノ尾二三一	明治二十三年 二十三年舊庄屋址 (谷郷町) 二十六八八幡町 三十七年戸ノ尾二三一	明治二十六年九月一 日 明治二十四年二月 十二日	正教員 男十六人 女十六人 其他 女男 一人	尋常 十一學級 高等 十學級 尋常 六百九十四人 高等 四百三十九人	二十四年ヨリ四十五年 迄二十二箇年間 高等一千五百五十一人 尋常 三百二十三人 四十二年ヨリ三箇年間 尋常 三百二十三人	
八幡女尋常小學校	明治三十一年男兒ト分離シ 尋常高等併置 同三十七年尋常高等分立 同四十二年現校名ニ改稱	明治三十一年 八幡町一六一ノ一	明治三十七年十月二 十二日	正教員 男十一人 女十六人 其他 女男 二人	二十一學級 一千百三十九人	三十一年ヨリ三十六年 迄六箇年間 高等 二百八人 尋常 二百二人	
赤崎尋常小學校	明治三十一年佐世保尋常小 學校赤崎分校ト稱ス 同三十四年獨立シテ現校名 ニ改メ 同三十六年同四十四年ノ兩 度増築	明治三十一年 赤崎免字天石 一、七 二〇ノ二	明治四十二年十一月 二日	正教員 男三人 其他 女男 一人	五學級 二百人	三十四年ヨリ四十五年 迄十二箇年間 尋常 二百六十六人 高等 九百十二人	
八幡谷女兒尋常小學校	明治三十七年尋常ト分離シ 八幡谷ニ移ル 同三十八年更ニ一棟新築 同四十二年尋常併置 同年現校名ニ改稱ス	明治三十七年 三十一、八幡町 八幡谷 八幡町三五	明治三十七年十一月 三日	正教員 女七人 其他 女 二人	尋常 八學級 高等 六學級 尋常 三百六十五人 高等 三百三十九人	三十八年ヨリ四十五年 迄八箇年間 尋常 九百十二人 高等 九百十二人	
白南風尋常小學校	明治三十九年創立新築	明治三十九年 白南風町一三八	明治四十年三月九日	正教員 女男 四十人 其他 女 三人	十八學級 九百十九人	四十年ヨリ四十五年迄 六箇年間 六百六十七人	
紙園尋常小學校	明治四十二年創立新築	明治四十二年 紙園町一一五	明治四十二年十一月 二日	正教員 女男 四人 其他 女 二人	十八學級 九百五十九人	四十三年ヨリ四十五年 迄三箇年間 三百二十七人	
琴平尋常小學校	明治四十二年創立新築	明治四十二年 金比良町一四三ノ二	明治四十二年十一月 二日	正教員 女男 四人 其他 女男 二人	十八學級 九百四人	四十三年ヨリ四十五年 迄三箇年間 二百四十八人	

三 佐世保市學事一覽表

(明治四十五年調査)

年	月	日	校名	種別	高等	中等	初等	合計	備註
11	11	11	戸尾尋常、 高等小學校	尋常	高等	中等	初等	110	八幡谷女兒尋常高等小學校
11	11	11	八幡尋常小學校	尋常	高等	中等	初等	110	八幡尋常小學校
11	11	11	八幡女兒尋常小學校	尋常	高等	中等	初等	110	八幡女兒尋常小學校
11	11	11	祇園尋常小學校	尋常	高等	中等	初等	110	祇園尋常小學校
11	11	11	白南尋常小學校	尋常	高等	中等	初等	110	白南尋常小學校
11	11	11	琴平尋常小學校	尋常	高等	中等	初等	110	琴平尋常小學校
11	11	11	赤崎尋常小學校	尋常	高等	中等	初等	110	赤崎尋常小學校
11	11	11	鹿浦尋常小學校	尋常	高等	中等	初等	110	鹿浦尋常小學校
11	11	11	計						



五 學齡兒童

年 度	就學始期未達者		就學始期未達者		既達者		既達者		既達者		既達者		既達者		合 計
	就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		
	就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		
	就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		就學始期未達者		
明治三十五年	1,058	662	1,017	600	1,889	1,017	1,889	1,017	1,889	1,017	1,889	1,017	1,889	3,806	
明治三十六年	1,126	707	1,107	699	1,906	1,107	1,906	1,107	1,906	1,107	1,906	1,107	1,906	4,013	
明治三十七年	1,753	1,155	1,707	1,107	2,814	1,707	2,814	1,707	2,814	1,707	2,814	1,707	2,814	5,527	
明治三十八年	1,600	1,051	1,589	1,018	2,607	1,589	2,607	1,589	2,607	1,589	2,607	1,589	2,607	5,216	
明治三十九年	1,795	1,151	1,784	1,118	2,802	1,784	2,802	1,784	2,802	1,784	2,802	1,784	2,802	5,586	
明治四十年	1,866	1,214	1,855	1,181	2,936	1,855	2,936	1,855	2,936	1,855	2,936	1,855	2,936	5,799	
明治四十一年	2,794	1,777	2,783	1,744	4,004	2,783	4,004	2,783	4,004	2,783	4,004	2,783	4,004	7,798	
明治四十二年	3,595	2,343	3,584	2,310	4,894	3,584	4,894	3,584	4,894	3,584	4,894	3,584	4,894	8,478	
明治四十三年	2,911	2,000	2,900	2,000	4,900	2,900	4,900	2,900	4,900	2,900	4,900	2,900	4,900	7,800	
明治四十四年	3,104	2,155	3,093	2,155	5,248	3,093	5,248	3,093	5,248	3,093	5,248	3,093	5,248	8,341	
明治三十五年	1,058	662	1,017	600	1,889	1,017	1,889	1,017	1,889	1,017	1,889	1,017	1,889	3,806	

年 度	尋 常			高 等			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
明治三十五年	1,271	1,159	2,430	584	674	1,258	1,915	1,514	3,429
明治三十六年	1,415	1,299	2,714	674	799	1,473	2,089	1,728	3,817
明治三十七年	1,516	1,455	2,971	879	1,005	1,884	2,307	2,042	4,349
明治三十八年	1,642	1,799	3,441	1,057	1,169	2,226	2,511	2,242	4,753
明治三十九年	1,708	1,871	3,579	1,103	1,178	2,281	2,644	2,496	5,140
明治四十年	2,196	1,933	4,129	1,375	1,422	2,797	3,273	2,699	5,972
明治四十一年	2,296	2,177	4,473	1,571	1,625	3,196	3,335	2,669	6,004
明治四十二年	2,595	2,643	5,238	1,733	1,977	3,710	3,634	2,699	6,333
明治四十三年	3,442	2,866	6,308	2,555	2,281	4,836	3,838	2,973	6,811
明治四十四年	3,671	2,867	6,538	2,944	2,639	5,583	3,836	2,948	6,784
明治四十五年	3,271	2,671	5,942	2,634	2,361	4,995	3,266	2,311	5,577

七 市立小學校兒童

年 度	高等補習	計
明治三十五年	1	1
明治三十六年	1	1
明治三十七年	1	1
明治三十八年	1	1
明治三十九年	1	1
明治四十年	1	1
明治四十一年	1	1
明治四十二年	1	1
明治四十三年	1	1
明治四十四年	1	1
明治四十五年	1	1

六 市立小學校及學級

年 度	學 校			就 學 始 期 既 達 者 百 中
	尋 常	尋 常 高 等	高 等	
明治三十五年	3	1	5	83.4
明治三十六年	3	1	5	86.9
明治三十七年	4	1	5	90.0
明治三十八年	4	2	6	91.6
明治三十九年	5	2	7	92.7
明治四十年	5	2	7	93.5
明治四十一年	5	2	7	93.7
明治四十二年	7	2	9	94.9
明治四十三年	7	2	9	95.6
明治四十四年	7	2	9	96.1
明治四十五年	7	2	9	96.7

八市立小學校入學卒業兒童

童兒業卒		童兒學入		年
等 高	常 尋	等 高	常 尋	
計 女 男	計 女 男	計 女 男	計 女 男	度
三三 一六 二八	五四 二六 二七	八三 三七 四九	二四 五六 六三	明 四十四年
四四 二二 三三	六四 二六 三二	四九 一四 三二	一三 六三 六九	明 四十三年
二四 一八 一三	五七 三二 三六	三五 二二 一四	二四 六七 六八	明 四十二年
二二 一五 一五	一 一 一	二二 二二 一	二二 四四 六九	明 四十一年
二七 一三 一七	七三 三二 四一	七三 三三 四三	一三 六八 七四	明 四十年
二四 八八 一五	七八 三三 四八	七〇 三〇 四〇	二二 五三 六七	明 三十九年
二四 一〇 一四	七三 三三 三六	七三 二二 四二	二二 五八 六六	明 三十八年
一五 七五 八六	六七 三〇 三七	五四 二四 三〇	八三 三九 四七	明 三十七年
九三 三三 六〇	五四 二五 二九	四四 一五 二八	七六 三三 四九	明 三十六年
九三 三三 六〇	五二 一九 三三	四〇 一五 二五	六四 二八 三五	明 三十五年

九市立小學校教員

代	員 教 准		員 教 正 科 本		年
	計	高 尋	計	高 尋	
常	等	常	等	常	度
女 男	同 同	同 同	同 同	同 同	
二 一	五 四	一 一	三 七	二 三	明 四十四年
三 三	五 五	一 一	三 六	二 二	明 四十三年
八 一〇	七 六	一 一	二 〇	三 五	明 四十二年
二 四	五 五	二 二	一 九	三 三	明 四十一年
三 八	六 六	一 二	一 九	二 二	明 四十年
四 五	二 三	一 一	一 八	二 二	明 三十九年
五 八	一 五	一 一	一 三	二 八	明 三十八年
三 四	一 六	一 一	一 三	二 九	明 三十七年
一 三	一 八	一 一	一 〇	二 五	明 三十六年
四 五	二 九	一 二	一 八	二 七	明 三十五年

第四章 諸統計

年	本 科 正 教 員											
	准		員 數				正 科				本	
	最 多	最 多	平 均	最 高	最 高	最 高	最 高	最 多	最 多	等 常	等 常	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
度	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四十四年	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
四十四年	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
四十四年	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
四十四年	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
四十四年	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
四十四年	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
四十四年	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
四十四年	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
四十四年	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
四十四年	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
四十四年	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000

一〇 市立小學校教員月俸

年	用 教 員											
	計		高 尋				專 科 正 教 員				用 教 員	
	計	高 尋	等 常	等 常	等 常	等 常	等 常	等 常	等 常	等 常	等 常	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
度	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四十四年	3,600	1,000	2,600	1,000	1,600	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
四十四年	3,600	1,000	2,600	1,000	1,600	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
四十四年	3,600	1,000	2,600	1,000	1,600	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
四十四年	3,600	1,000	2,600	1,000	1,600	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
四十四年	3,600	1,000	2,600	1,000	1,600	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
四十四年	3,600	1,000	2,600	1,000	1,600	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
四十四年	3,600	1,000	2,600	1,000	1,600	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
四十四年	3,600	1,000	2,600	1,000	1,600	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
四十四年	3,600	1,000	2,600	1,000	1,600	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
四十四年	3,600	1,000	2,600	1,000	1,600	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
四十四年	3,600	1,000	2,600	1,000	1,600	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

計	十五年以上		十五年未滿		十五年未滿		五年未滿		在職年別
	同	同	同	同	同	同	同		
男	九	九	三	三	八	八	二	二	本科正教員
女	三	三	一	一	四	四	二	二	尋常科正教員
男	三	三	四	四	七	七	五	五	准教員
女	一	一	一	一	二	二	四	四	代用教員
男	一	一	一	一	一	一	一	一	專科正教員
女	一	一	一	一	一	一	一	一	

一 小學校教員在職年數

(明治四十四年末現在)

員	平均		最高		最低	
	高	尋	尋	常	尋	常
男	11,000	12,500	12,000	12,000	12,000	12,000
女	11,000	12,500	12,000	12,000	12,000	12,000

教	正科專		員		教	年
	最高	最低	平均	最高		
男	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	明治三十五年
女	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	明治三十六年
男	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	明治三十七年
女	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	明治三十八年
男	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	明治三十九年
女	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	明治四十年
男	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	明治四十一年
女	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	明治四十二年
男	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	明治四十三年
女	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	明治四十四年

一二 本科正教員に關する推算表

年次	年 次	年 始 現 員 (前年末現在)	年 内 増 員		計	年 内 減 員		年 末 現 員
			師範學校卒業 檢定合格	其他		死亡	退職	
明治四十四年	同	六六	五	三	九	一	一	一〇三
同 四十五年	同	一〇三	五	三	九	一	一	一〇〇
同 四十六年	同	一〇〇	六	三	九	一	一	一一〇
同 四十七年	同	一一八	六	三	九	一	一	一二八
同 四十八年	同	一二八	六	三	九	一	一	一三六
同 四十九年	同	一三三	六	三	九	一	一	一四三
同 五十年	同	一四一	七	三	一〇	一	一	一五〇
同 五十一年	同	一五〇	七	三	一〇	一	一	一五九
同 五十二年	同	一五九	七	三	一〇	一	一	一六七
同 五十三年	同	一六七	七	三	一〇	一	一	一七六
同 五十四年	同	一七六	八	三	一一	一	一	一八六
同 五十五年	同	一八六	八	三	一一	一	一	一九六
同 五十六年	同	一九六	八	三	一一	一	一	二〇五

附記

- 一 本表は曆年に依り明治四十四年より起算し小學校兒童學級に對し本科正教員一名を配置するを得へき見込の年次に至りて止む
- 二 年始現員は前年度末現在數(尋常小學校本科正教員數を含む)を掲ぐ
- 三 年末現員は本表計より年内減員を減したる數を掲ぐ

一三 小學校兒童増加に關する推算表

年次	年 次	年 始 現 住 人 口	年 内 現 住 人 口 増 員	小 學 校 兒 童 年 内 増 員
明治四十四年	同	八二、一〇二	二、二五七	一八三
同 四十五年	同	八四、三五九	二、三一九	一八五
同 四十六年	同	八六、六七八	二、三八三	一九四
同 四十七年	同	八九、〇六一	二、四四八	一九九
同 四十八年	同	九一、五〇九	二、五一六	二〇五
同 四十九年	同	九四、〇二五	二、五八五	二一〇
同 五十年	同	九六、六一〇	二、六五六	二一六
同 五十一年	同	九九、二六六	二、七二九	二二二
同 五十二年	同	一〇一、九九五	二、八〇四	二二八
同 五十三年	同	一〇四、七九九	二、八八一	二三四
同 五十四年	同	一〇七、六八〇	二、九六〇	二四一

第四章 諸統計

同 五十五年	一一〇、六四〇	三、〇四一	二四七
同 五十六年	一一三、六八一	三、一二五	二五四

附記

- 一 本表は曆年に依り明治四十四年より起算し小學校兒童一學級に對し本科正教員一人を配置するを得へき見込の年次に至りて止む
- 二 年始現住人口は前年末現在数を掲ぐ(四十五年以後は前年の年始現住人口に年内人口増員を加へたる数を其年の年始現住人口とす)
- 三 年内現住人口増員は其の年内に増加すへき人口を掲げ其算出の方法は明治三十八年より同四十二年迄の現住人口に依り毎年の前年に對する人口増加率を算出し其の五箇年間の平均増加率を以て年始現住人口に乘す(此平均増加率は表末に記入す)
- 四 小學校兒童年内増員は明治四十一年より同四十二年迄毎年の現在人口に對する小學校兒童數尋常小學校尋常高等小學校、高等學校並に補習科の兒童を含むの比率を算出し其三箇年間の平均率を以て當該年次の年内現在人口増員に乘して算出す(此平均率は表末に附記す)

一四 小學校學級數に關する推算表

年次	小學校兒童年始現員	同 上年内増員	合 計	學 級 數
明治四十四年	七、〇四六	一八三	七、二二九	一四五

同 四十五年	七、二二九	一八五	七、四一四	一四八
同 四十六年	七、四一四	一九四	七、六〇八	一五二
同 四十七年	七、六〇八	一九九	七、八〇七	一五六
同 四十八年	七、八〇七	二〇五	八、〇一二	一六〇
同 四十九年	八、〇一二	二一〇	八、二二二	一六四
同 五十年	八、二二二	二一六	八、四三八	一六九
同 五十一年	八、四三八	二二二	八、六六〇	一七三
同 五十二年	八、六六〇	二二八	八、八八八	一七八
同 五十三年	八、八八八	二三四	九、一二二	一八二
同 五十四年	九、一二二	二四一	九、三六三	一八七
同 五十五年	九、三六三	二四七	九、六一〇	一九二
同 五十六年	九、六一〇	二五四	九、八六四	一九七

附記

- 一 本表は曆年に依り明治四十四年より起算し小學校兒童一學級數に對し本科正教員一名を配置し得へき見込の年次に至りて止む
- 二 小學校兒童年始現員は前年末兒童總數小學校兒童年内増員は其年内に増加すへき兒童數(第二表に依る)合計は以上の合計を加へす
- 三 學級數は一學級の兒童數を五十人として算出したる数を掲ぐ

一五 本科正教員と學級數との對比に關する調査表

年次	學級數	本科正教員數	學級數ニ對スル本科正教員不足數	學級數百ニ對スル本科正教員數
明治四十四年	一三二	九六	三六	七二・七六
同 四十五年	一四五	一〇三	四二	七一・〇三
同 四十六年	一四八	一一〇	三八	七四・三二
同 四十七年	一五二	一一八	三四	七七・六三
同 四十八年	一五六	一二六	三〇	八〇・七七
同 四十九年	一六〇	一三三	二七	八三・一三
同 五十年	一六四	一四一	二三	八五・九八
同 五十一年	一六九	一五〇	一九	八八・七六
同 五十二年	一七三	一五九	一四	九一・九一
同 五十三年	一七八	一六七	一一	九三・八三
同 五十四年	一八二	一七六	六	九六・七〇
同 五十五年	一八七	一八六	一	九九・四七
同 五十六年	一九二	一九六	四	

附記 一 本表は曆年に依り明治四十四年より起算し學級數百に對する本科正教員數百に達すへき

見込の年次に至りて止む
 二 學級數は四十四年に於ては四十三年末の現在數尋常科、高等科及補習科共を掲げ四十五年以後は第三表中に於ける各前年の學級數を掲ぐ
 三 本科正教員數は第一表に依り各年次に於ける年始現員を掲ぐ
 四 學級數百に對する本科正教員數は其百分比を算出し整數以下二位迄を掲ぐ
 一六 小學校兒童貯金 (明治四十五年三月末日現在)

校名	貯金兒童數	貯金		前年三月トノ比較増減
		預入	高	
戸尾	三三二	四四六四・三三三	四六〇〇	△二六
八幡谷	一八〇	一六〇一・四五六	一六〇一・四五六	△一〇
八幡	四八二	六三九一・五五〇	六三九一・五五〇	五五
八幡	二四八	三三四三・三三四	三三四三・三三四	二〇
紙風	一六五	一六五二・九九七	一六五二・九九七	四六
白風	一〇二	一〇・一〇〇	一〇・一〇〇	△八
琴平	二二九	一八二四・五六八	一八二四・五六八	四六
赤崎	六六	六八二・二六	六八二・二六	△一四
庵浦	五八	五八八・八〇	五八八・八〇	△三
合計	一七七	一九三九八・八八〇	一九三九八・八八〇	二〇七

校名	認可年月	學科	修業年限	學級教員數	生徒數	四十四年度卒業生總數	四十四年度經費總額	校長氏名
佐世保英學館	明治三十三年	英語	三箇年	四	一五	一〇,〇〇〇	一八〇,〇〇〇	松本 寛作
成徳高等女學校	同三十五年四月	英語 技術科	四箇年	一五	一七九	一〇,〇〇〇	四七〇,〇〇〇	高田 眞雄
佐世保護國女學校	同三十六年一月	英語 技術科	三箇年	一七	一七九	一〇,〇〇〇	四七〇,〇〇〇	久田 晋
工業補習學校	同三十九年七月	工業 商業 英語	二箇年	一八	一八八	一〇,〇〇〇	一八五,〇〇〇	平田 徳太郎
佐世保學舎	同四十年十一月	英語 國語 算學 漢文	六箇月	六	三	一〇,〇〇〇	三五六,〇〇〇	中尾 庄太郎

二〇 各種私立學校

校種	高等女學校		女子學校		其他		各種		各種	
	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員	生徒	教員
高等女學校	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五
女子學校	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五
其他	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五
各種	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五
各種	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五	一七九	一五

種別	計		高等二年生		同三年生		學年別
	同	同	女	男	同	同	
實業學校	二八	三八					低能
補習學校	二八	三八					白癡
商業學校	二八	三八					癡
工業學校	二八	三八					癡
其他	二八	三八					身體不具
計	二八	三八					計

備考 (低能) 精神の發達著しく不充分にして殆んど白痴に近き者を掲げ又引續き二回以上進級し能はさりし者にして缺席の爲め進級し能はさる者の内には精神の發達著しく不充分なる爲め進級し能はさりし者のみを掲げ單に缺席の爲に進級する能はさりし者は計上せず

一九 私立實業學校並各種學校

種別	計		高等二年生		同三年生		學年別
	同	同	女	男	同	同	
實業學校	二八	三八					低能
補習學校	二八	三八					白癡
商業學校	二八	三八					癡
工業學校	二八	三八					癡
其他	二八	三八					身體不具
計	二八	三八					計

校名	認可年月	學科	修業年限	學級教員數	生徒數	四十四年度卒業生數	四十四年度總額	四十四年度經費總額	校長氏名
佐世保簿記專修學館	明治四十年十二月	簿記學全科	全科一箇年	一男	一男	三	四三〇〇〇	四九〇〇〇	田中愛一
經世學館	同	英語國語漢文	三箇年	三男	四男	一	五八〇〇〇	四八〇〇〇	五代太吉
住江學舎	同四十二年一月	修身算術國語地理歴史	一箇年	五男	七男	一	三六〇〇〇	三〇〇〇〇	住江辰次郎
和洋裁縫女學校	同	速成科	一箇年	三女	三女	一	二五〇〇〇	三〇〇〇〇	櫻井きく
佐世保產婆學校	同	高等產婆學	半箇年	二男	二女	一	六〇〇〇〇	三〇〇〇〇	荒木丈夫
研勵學會	同四十四年十二月	國語學	二年六箇月	一男	三女	一	三三〇〇〇	三三〇〇〇	松宮龜吉

私立幼稚園

年度	園名	園種	園長	園地	園舎	園具	園費	園生數	園費總額
明治四十四年	保母園	保母	同	同	同	同	同	同	同
明治四十三年	幼保園	幼保	同	同	同	同	同	同	同
明治四十二年	保母園	保母	同	同	同	同	同	同	同
明治四十一年	保母園	保母	同	同	同	同	同	同	同
明治四十年	保母園	保母	同	同	同	同	同	同	同
明治三十九年	保母園	保母	同	同	同	同	同	同	同
明治三十八年	保母園	保母	同	同	同	同	同	同	同
明治三十七年	保母園	保母	同	同	同	同	同	同	同
明治三十六年	保母園	保母	同	同	同	同	同	同	同
明治三十五年	保母園	保母	同	同	同	同	同	同	同

褒賞

(明治四十五年四月調)

種別	十圓未満	十圓以上百圓未満	百圓以上五百圓未満	五百圓以上二千圓未満	二千圓以上五千圓未満	五千圓以上一萬圓未満	一萬圓以上	計
電話架設工事費寄附	三	一	一	一	一	一	一	七
佐世保市里道敷寄附	三	一	一	一	一	一	一	七
佐世保中學校新築費寄附	三	一	一	一	一	一	一	七
佐世保中學校敷地費寄附	三	一	一	一	一	一	一	七
同高等女學校敷地費寄附	三	一	一	一	一	一	一	七
佐世保市聯合設備費寄附	三	一	一	一	一	一	一	七
同市教育基本財産寄附	三	一	一	一	一	一	一	七
同市小學校備品寄附	三	一	一	一	一	一	一	七
同市市制施行記念式費寄附	三	一	一	一	一	一	一	七
同市小學校新築費寄附	三	一	一	一	一	一	一	七

備考 本表人員數は團體寄附も其數を詳記せず單に一團體を一人として計上せり

前表の内金額(物件價格をも含む)五千圓以上の寄附者にして金杯を賞與せられたる者左の如し

金杯ミツ組	一回ノ寄附十萬八千三百餘圓	佐世保市小佐世保免十二番地ノ一七族	山縣 猛彦
同	六萬七千二百餘圓	北松浦郡平戸村大字平戸七百六十五番戸	正二位 伯耆松浦 詮

天満神社	無格社	不明	不明	佐世保市天満町
熊野神社	同	同	六十五戸	同市名切免字迎田
山祇神社	大正二年三月 熊野神社ニ合 祀ス	同	四十一戸	同市中通免字保立日
事代主神社(石祠) (同事代主命)	同	同	五十八戸	同市小佐世保免字鹽濱 (同三十五坪)

二 寺院一覽

宗派	寺院名	住職氏名	信徒數	所	在	地
曹洞宗	放光山 四方寺	高木龍法	三千人	佐世保市八幡町九十三番地	明治四十二年四月改築	
眞宗本派	大智山 教法寺	和田耕月	五百戸	同市元町十七番地	明治三十年十二月改築	
浄土宗 鎮西派	鱒島山 九品寺	小田信嚴	四百人	同市谷郷町百五十二番地	明治二十九年四月改築	
眞言宗 大覺寺派	黒壁山 大智院 (西光寺)	池上宣海	三百餘戸	同市戸尾町四番地	明治四十年三月設立	
同 智山派	福石山 清岩寺	松本盛恆	四百八十人	同市福石町二百十九番地	明治十一年十月措置許可	
眞宗本派	香蘭山 教宗寺	西村得誠	二百五十戸	同市名切免字雨ヶ坂四百九十四番地	明治四十三年七月設立	
眞言宗 高野派	高尾山 光輪院	靜盛應	三百五十戸	同市宮地町十四番地	明治四十四年十月設立	
日蓮宗	法昌山 蓮經寺	浅井要麟	二百十二人	同市赤崎免字松永原	明治四十四年四月設立	

三 教會所

教派	名	稱	擔任教師職氏名	設置年月	所	在	地
法華宗	本宗妙法講開運結社教會所		伊萬里町妙顯寺住職松島日靜(四十二年十月變更) 大友要	明治三十五年二月	佐世保市倭町百八十二番地		
同	同講信解結社教會所		武町町圓満寺住職貫名英勇(二十四年十月變更) 大河内英亮	同 年 九 月	同市中通免字万徳寺原千八百三十一番地(號地ニ移轉届出)		
神理教	御嶽教直轄神理宮地獄分會本部御嶽(三十九年四月改稱)		榎調導 副島 林史	同 年 十 一 月	同市宮地町百八十二番地		
天理教	天理教直轄宮地獄分會本部(四十二年三月改稱)		榎少講義 伊藤 文藏	同 二 十 六 年 九 月	同市上矢岳町百五十一番地		
浄土宗	浄土宗佐世保教會所(二十九年四月改稱)		榎當教師補 渡邊 戒定	同 年 十 一 月	同市名切免字濱田九百三十五番地		
鎮西派	西方山極樂院九品寺		榎中講義 野田 喜藏	同 二 十 八 年 十 月	同市八反間免谷郷町百四番地		
神理教	神理教稻成教會所		榎當教師 高崎 虎吉	同 二 十 九 年 九 月	同市太田町十五番地		
金光教	金光教佐世保教會所(三十年十二月改稱)		榎住教長時中教會所長權少教正 田中佐四郎	同 三 十 年 二 月	同市八反間免字松ノ間二百八十一番地		
黒住教	黒住教小教會所		榎當教師榎少教正 副島 林史	同 三 十 一 年 八 月	同市松川町百三十五番地ノ一		
神理教	神理教直轄宮地獄分會						

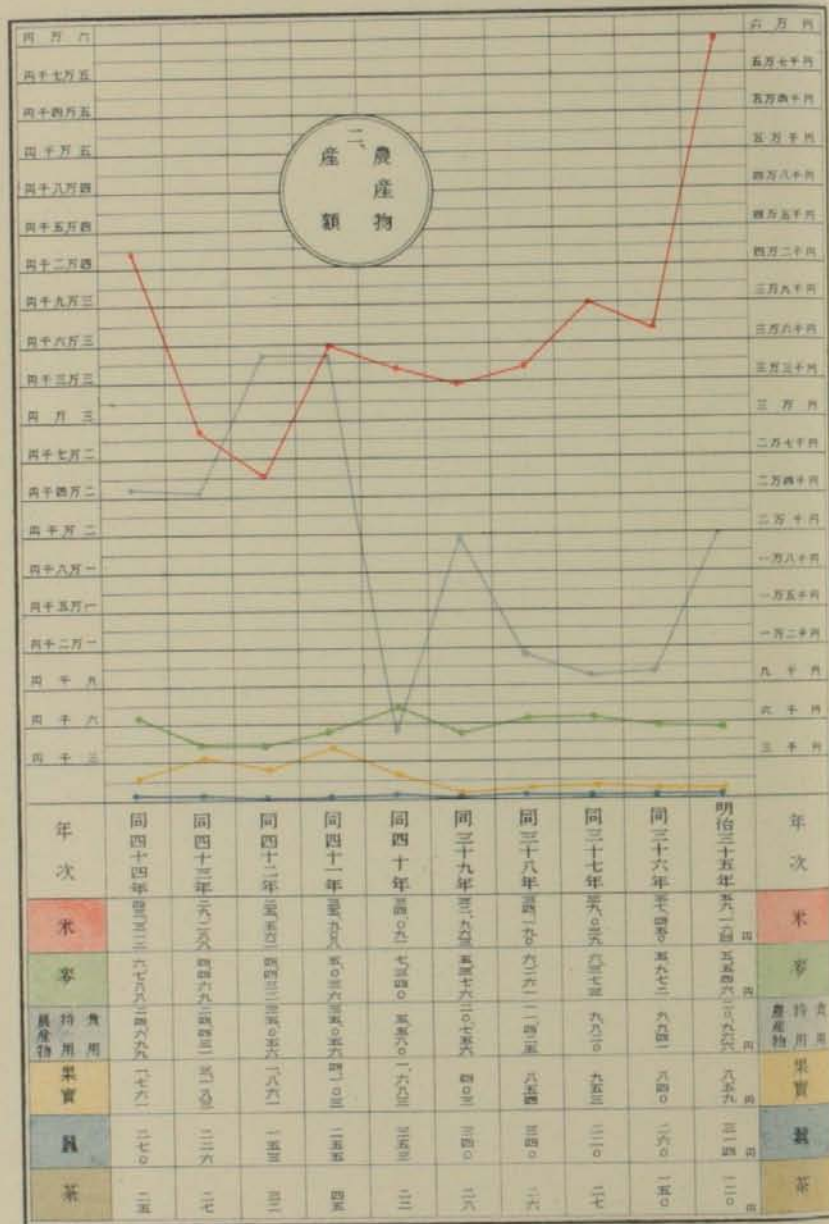
教派	名	稱	擔任教師職氏名	設置年月	所在地
神理教	神理教直轄宮地嶽教會分會		擔當教師 種少政正 片岡 桐榮	明治三十一年八月	同市金比良町七百六十二番地
天主教	天主教教會直轄假分教會		擔任宣教師 片岡 桐榮	同三十二年二月	佐世保市谷郷町四十六番地
神理教	宮地嶽分教會		擔任宣教師 大塚 彌一	同三年三月	同市八百八十七番地
基督教	浸禮教會佐世保出張講義所 (二十六年八月改稱) 佐世保浸禮教會		管理者 エルネスト・ケタンクワン	同九年九月	同市比良町十九番地
曹洞宗	曹洞宗佐世保教會所		折尾 綱村 應王 寺住職 横田 耕山 管理 原 佛眼	同三十八年八月	同市長尾町九番地
實行教	大元天社教會		擔任教師 波邊 繁雄	同十二年二月	同市福石免字長谷千五百六十番地
基督教	日本基督教佐世保講義所		管理者 矢島 重虎	同四十二年二月	同市谷郷町十四番地
實行教	宮地嶽分教會		擔任教師 波邊 繁雄	同三十九年五月	同市三浦町六十五番地
天理教	天理教治道分教會古町支會 會長 保布教所		擔任教師 渡邊 繁雄	同四十年二月	同市小佐世保免字戸ノ尾百二十一番地ノ一
臨濟宗	圓通寺佐世保出張所		同 池田 利作	同四十年二月	同市赤崎免字上野千百十一番地ノ三
同	常照寺同 出張所		同 小宮 義經	同	同市熊野町百十二番地
日蓮宗	日蓮宗教會所		同 成瀬 英澄	同四十一年八月	同市山縣町九番地
實行教	宮地嶽講社		同 森永 昌百	同四十二年四月	同市戸ノ尾町八百十九番地
眞宗	本派眞宗遊行寺出張所		同 藤澤 亨	同四十二年四月	同市本島町六十三番地
聖公會	基督教傳道館		管理者 エス・ダブル 1、ローランズ	同年六月	

教派	名	稱	擔任教師職氏名	設置年月	所在地
實行教	穴守教會		波邊 繁雄	同四十三年四月	同市太田町十七番地
日蓮宗	日蓮宗教會所		同 小田 宣慶	同四十二年	同市宮地町百七十七番地
天台宗	叡山教會分社		住職 佐賀郡久保田村三學寺 住職 桶山 増祐	同四十四年十二月	同市光月町六番地
日本メソヂヤ	日本メソヂヤスト佐世保教會		布教者 村井 長十郎	同	同市常盤町三十番地
淨土宗	淨土宗教會所		九品寺住職 小田 信慶	大正元年九月	同市本島町十八番地

四 說教所

宗派	名	稱	教師職氏名	設置年月	所在地
眞宗	大谷派本願寺說教場		擔當教師 大神 覺城	明治三十二年六月	佐世保市又ノ千二百三十六番地一號第一(三十六年十一月名切免字横山ニ移轉)
同	本願寺派說教所		眞宗本願寺布教師 千葉 康之	同三十五年三月	同市光月町百十七番地
同	眞宗眞正派說教所		擔任布教師 志鶴 曉雲	同四十一年八月	同市城山町百五十五番地
同	眞宗說教所		常念寺住職 郡 執圭	同四十三年五月	同市萬徳町百十三番地
神理教	宮地嶽教會日宮說教所		擔當者 山崎 熊雄	同四十二年六月	同市園田町五番地
眞宗	本願寺派說教所		專念寺住職 小杭 順海	同四十三年七月	同市金比良町九十六番地
同	眞宗本願寺派說教所		眞宗本派一覺寺住職 宮永 寂心	同四十四年八月	同市松川町百八十八番地
同	眞宗布教所		大智院住職 池上 宣海	同四十四年八月	同市金比良町千三百三十六番地

備考 茶の生産額僅少ニシテ漏表スルコト懸カヲ以テ之ヲ省ク



第四節 産業の部 一 農業戸口

年次	専業		兼業		計		總戸口		總人口		専業ノ人口ノ比例	
	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口
明治三十五年	1,131	1,180	1,155	1,180	2,286	2,360	8,366	50,968	51	26	27	29
同三十六年	1,110	1,180	1,155	1,180	2,265	2,360	8,966	55,292	50	26	27	29
同三十七年	1,100	1,180	1,155	1,180	2,255	2,360	11,900	61,280	51	26	27	29
同三十八年	1,100	1,180	1,155	1,180	2,255	2,360	11,900	61,280	51	26	27	29
同三十九年	1,100	1,180	1,155	1,180	2,255	2,360	11,900	61,280	51	26	27	29
同四十年	1,100	1,180	1,155	1,180	2,255	2,360	11,900	61,280	51	26	27	29
同四十一年	1,100	1,180	1,155	1,180	2,255	2,360	11,900	61,280	51	26	27	29
同四十二年	1,100	1,180	1,155	1,180	2,255	2,360	11,900	61,280	51	26	27	29
同四十四年	1,100	1,180	1,155	1,180	2,255	2,360	11,900	61,280	51	26	27	29

三米

年次	作付段別		收穫	價		格		一段少收穫高		一石當價格	
	粳米	糯米		陸米	計	陸米	計	陸米	計	陸米	計
明治三十五年	三九五〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
同三十六年	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇
同三十七年	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇
同三十八年	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇
同三十九年	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇
同四十年	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇
同四十一年	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇
同四十二年	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇
同四十三年	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇
同四十四年	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇

四麥

種類	年次	內種		雜種		外種	
		數頭	額價	數頭	額價	數頭	額價
牛	三十五年	三〇〇〇	二五〇〇〇	八〇〇	一〇〇〇〇	—	—
	三十四年	二五〇〇	二〇〇〇〇	—	—	—	—
馬	同	—	—	—	—	—	—
	同	—	—	—	—	—	—
豚	同	—	—	—	—	—	—
	同	—	—	—	—	—	—
山羊	同	—	—	—	—	—	—
	同	—	—	—	—	—	—

六家畜出產

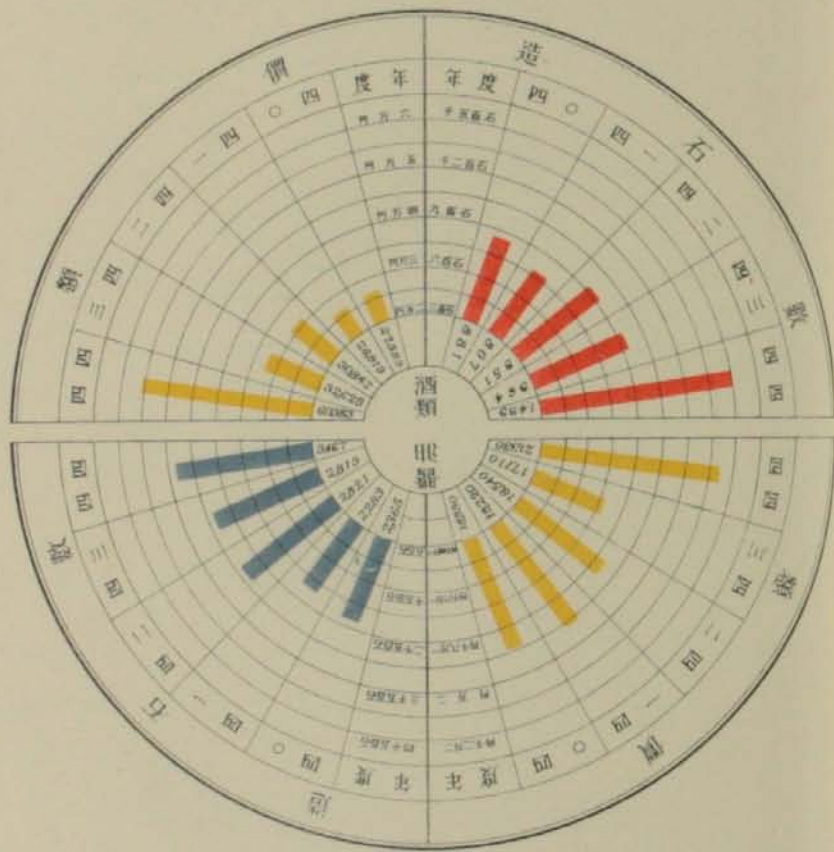
種類	年次	數頭	額價
馬	同	—	—
	同	—	—
豚	同	—	—
	同	—	—
山羊	同	—	—
	同	—	—

種類	年次	內種		雜種		外種	
		數頭	額價	數頭	額價	數頭	額價
牛	三十五年	三〇〇〇	二五〇〇〇	八〇〇	一〇〇〇〇	—	—
	三十四年	二五〇〇	二〇〇〇〇	—	—	—	—

五家畜數

年次	作付段別		收穫高		價格	
	大麥	小麥	大麥	小麥	大麥	小麥
明治三十五年	七五	六七	二八	七二	四七	四三
同三十六年	七二	七〇	二七	七〇	四六	四二
同三十七年	七〇	六八	二六	六八	四五	四一
同三十八年	七〇	六八	二六	六八	四五	四一
同三十九年	七〇	六八	二六	六八	四五	四一
同四十年	七〇	六八	二六	六八	四五	四一
同四十一年	七〇	六八	二六	六八	四五	四一
同四十二年	七〇	六八	二六	六八	四五	四一
同四十三年	七〇	六八	二六	六八	四五	四一
同四十四年	七〇	六八	二六	六八	四五	四一

(十二月末日現在)



七 家 禽

種 別	飼養戸數	員 數	價 額	飼養戸數	員 數	價 額	飼養戸數	員 數	價 額
鷺	五戸	二八〇	一七〇	五戸	二八〇	一七〇	八戸	三〇〇	二〇〇
七面鳥	六戸	六五〇	四〇〇	四戸	四〇〇	三〇〇	七戸	一、一〇〇	七〇〇
鷺	四戸	一、〇〇〇	四〇〇	五戸	一、〇〇〇	三〇〇	三戸	四〇〇	二〇〇
鷺	五戸	二、〇〇〇	四〇〇	五戸	一、〇〇〇	三〇〇	八戸	一、〇〇〇	二〇〇
鷺	五戸	二、〇〇〇	四〇〇	五戸	一、〇〇〇	三〇〇	八戸	一、〇〇〇	二〇〇

八 牛 乳

年 次	搾乳場數	乳用牛頭數	搾乳高價	額	總人口	一人ノ飲量
明治四十一年	五戸	五頭	二六五	一、三二五元	七、六〇三人	三、七
明治四十二年	四戸	七頭	三〇〇	二、一〇〇元	七、八七七	三、〇
明治四十三年	四戸	六頭	四九六	一、九八三	八、〇三七	二、四
明治四十四年	五戸	五頭	六〇〇	三、〇〇〇元	八、二〇三	三、七

(六月三十日調)

一〇酒類

酒造年度	製造人員	稅額	清酒價數	濁酒	白酒	味酒	燒酎	含酒精及飲料	價數	額計	備考
明治十四年	三〇六〇	三〇六〇	一〇〇〇〇	三三六〇			五五〇〇		一四九	六三六三	備考 石數は課稅石數にして價額は一石當りを示す而して三十五年より三十九年に至る價額は不明なり
明治十三年	一九六〇	一九六〇	七九九	三三〇〇			六〇〇〇		九六四	三三六八	
明治十二年	一九六〇	一九六〇	七二〇	三二〇〇			五八〇〇		九五二	三八四三	
明治十一年	一六六〇	一六六〇	五三〇	三三〇〇			六〇〇〇		八七	二六九三	
明治四十年	一五六〇	一五六〇	五八〇	二九八〇			五三〇〇		八八	二七五六	
明治十九年	一七二〇	一七二〇	五〇〇	二六九			三		九四		
明治十八年	一六〇〇	一六〇〇	七〇〇	二二七			三		九五		
明治十七年	二二九〇	二二九〇	五八〇	一七六			六		七五		
明治十六年	九三〇	九三〇	四〇〇	二二			四		六〇		
明治十五年	七三〇	七三〇	四〇〇	六			八		四二		

第四章 諸統計

年次	製造職工		年次
	男	女	
明治十五年	151	100	明治十五年
明治十四年	151	100	明治十四年
明治十三年	151	100	明治十三年
明治十二年	181	100	明治十二年
明治十一年	171	100	明治十一年
明治十年	171	100	明治十年
明治九年	171	100	明治九年
明治八年	161	100	明治八年
明治七年	161	100	明治七年
明治六年	161	100	明治六年

一三 玻璃製品

年次	製造職工		年次
	男	女	
明治十五年	151	100	明治十五年
明治十四年	151	100	明治十四年
明治十三年	151	100	明治十三年
明治十二年	181	100	明治十二年
明治十一年	171	100	明治十一年
明治十年	171	100	明治十年
明治九年	171	100	明治九年
明治八年	161	100	明治八年
明治七年	161	100	明治七年
明治六年	161	100	明治六年

一二 石鹼

年次	製造職工		年次
	男	女	
明治十五年	151	100	明治十五年
明治十四年	151	100	明治十四年
明治十三年	151	100	明治十三年
明治十二年	181	100	明治十二年
明治十一年	171	100	明治十一年
明治十年	171	100	明治十年
明治九年	171	100	明治九年
明治八年	161	100	明治八年
明治七年	161	100	明治七年
明治六年	161	100	明治六年

備考 價額は一石當りにして三十五年より三十九年までは不明なり

年次	製造職工		年次
	男	女	
明治十五年	151	100	明治十五年
明治十四年	151	100	明治十四年
明治十三年	151	100	明治十三年
明治十二年	181	100	明治十二年
明治十一年	171	100	明治十一年
明治十年	171	100	明治十年
明治九年	171	100	明治九年
明治八年	161	100	明治八年
明治七年	161	100	明治七年
明治六年	161	100	明治六年
明治五年	161	100	明治五年

一一 醬油

年次	石笠	舟	舶來模造品其他食器	其他	價額
明治十五年	100	100	1,800	8,800	11,700
明治十四年	800	100	1,000	8,000	10,900
明治十三年	500	100	800	7,000	9,400
明治十二年	1,000	100	3,000	3,000	8,000
明治十一年	1,000	1,000	1,000	3,000	7,000
明治十年	1,000	1,000	1,000	3,000	7,000
明治九年	500	1,000	1,000	3,000	6,500
明治八年	500	1,000	1,000	3,000	6,500
明治七年	500	1,000	1,000	3,000	6,500
明治六年	500	1,100	1,000	3,500	7,100

一四 鑛產物及鑛區

年次	石		炭		稅額合計
	製產數量	製產物價額	區坪數	稅額	
明治三十五年	47,877	1,170	5	3,700	50,110
同三十六年	33,368	1,190	5	3,000	37,558
同三十七年	33,300	1,190	4	2,500	37,000
同三十八年	9,850	1,190	4	2,500	13,540
同三十九年	19,150	1,190	4	2,500	22,840
同四十年	26,880	1,190	4	2,500	30,570

年次	同四十一年度	同四十二年度	同四十三年度	同四十四年度
製產數量	15,900	11,100	11,200	5,350
製產物價額	1,190	1,190	1,190	1,190
區坪數	4	4	4	4
稅額	2,500	2,500	2,500	2,500
稅額合計	19,400	14,800	14,900	7,940

一五 石炭消費高と其產額

年次	船		工場		市外搬出高
	用產額	消費高	用同	同	
明治十四年	1,000	5,000	1,000	1,000	1,000
明治十三年	1,000	5,000	1,000	1,000	1,000
明治十二年	1,000	5,000	1,000	1,000	1,000
明治十一年	1,000	5,000	1,000	1,000	1,000
明治十年	1,000	5,000	1,000	1,000	1,000
明治九年	1,000	5,000	1,000	1,000	1,000
明治八年	1,000	5,000	1,000	1,000	1,000
明治七年	1,000	5,000	1,000	1,000	1,000
明治六年	1,000	5,000	1,000	1,000	1,000
明治十五年	1,000	5,000	1,000	1,000	1,000

一六 勞働賃銀

職業別	男		女	
	平均勞銀	平均勞銀	平均勞銀	平均勞銀
機械職工	700	700	700	700
其他	750	750	750	750

種	類	輸出先	價額	輸入先	價額
砂	糖	同	四三	同	一七,一三四
酒	油	同	二二,〇〇〇	長崎、大阪	二二八,五〇〇
醬	油	同	八四,四〇〇	大阪、筑後	五,〇〇〇
石	炭	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
石	炭	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
薪	炭	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
和	紙	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
綿	絲	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
陶	器	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
漆	器	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
靴	子	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
毛	皮	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
肌	衣	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
矣	服	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
材	木	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
肥	料	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
太	物	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
煙	刻	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇
草	業	同	一三,〇〇〇	長崎、大阪	一五三,〇〇〇

種	類	明治十四年		明治十五年	
		輸出先	價額	輸出先	價額
米	南松浦郡	東彼杵郡、西彼杵郡、北松浦郡	六八,四五〇	肥前、肥後	八九,〇〇〇
麥	同	同	二一,一〇〇	五島、大村	一三,一〇〇
大豆	同	同	四九,五〇〇	同	一〇,〇〇〇
小豆	同	同	九八,〇〇〇	同	一八,五〇〇
甘藷	同	同	六〇,九七〇	同	一六,〇〇〇
食鹽	同	同	七六,〇〇〇	同	一六,〇〇〇
茶	同	同	二六,五〇〇	同	二七,〇〇〇

一七 輸出入品價額

職業別	三十六年中平均勞銀		四十五年中平均勞銀	
	男	女	男	女
大工	五五〇	三四〇	七五〇	三四〇
石工	七〇〇	六五〇	七五〇	七〇〇
泥工	六五〇	六〇〇	七〇〇	六五〇
日雇	三四〇	三〇〇	三四〇	三〇〇

種 類	明治四十四年					明治三十五年				
	輸出先	價	額	輸入先	價	額	輸入先	價	額	
洋 緞 物										
綠 緞 物										
疊 表 緞 物										
煉 瓦 表 緞 物										
硝 子 器 器										
熟 鐵 釘										
木 釘										
生 魚 類										
鹽 魚 類										
乾 魚 類										
海 藻 類										
鷓 鴒 類										
小 麥 類										
味 噌 類										
食 用 牛 類										
罐 詰 類										

一八 佐世保市場平均物價

年 次	支 米 一 石	精 米 同	鹽 同	味 噌 一 貫 目	醬 油 一 石	漬 物 一 樽	梅 干 一 石	大 麥 一 石	小 麥 同	稗 麥 同	秣 十 貫 目	松 薪 同	檜 薪 同	炭 同
明治三十二年	11000	11000	5000	3000	15000	11000	6800	6700	10000	9500	7000	2900	4000	8500
明治三十三年	11400	11400	5000	3000	15000	11000	6800	6700	10000	9500	7000	2900	4000	8500
明治三十四年	11800	11800	5000	3000	15000	11000	6800	6700	10000	9500	7000	2900	4000	8500
明治三十五年	12200	12200	5000	3000	15000	11000	6800	6700	10000	9500	7000	2900	4000	8500
明治三十六年	12600	12600	5000	3000	15000	11000	6800	6700	10000	9500	7000	2900	4000	8500
明治三十七年	13000	13000	5000	3000	15000	11000	6800	6700	10000	9500	7000	2900	4000	8500
明治三十八年	13400	13400	5000	3000	15000	11000	6800	6700	10000	9500	7000	2900	4000	8500
明治三十九年	13800	13800	5000	3000	15000	11000	6800	6700	10000	9500	7000	2900	4000	8500
明治四十年	14200	14200	5000	3000	15000	11000	6800	6700	10000	9500	7000	2900	4000	8500
明治四十一年	14600	14600	5000	3000	15000	11000	6800	6700	10000	9500	7000	2900	4000	8500
明治四十二年	15000	15000	5000	3000	15000	11000	6800	6700	10000	9500	7000	2900	4000	8500
明治四十三年	15400	15400	5000	3000	15000	11000	6800	6700	10000	9500	7000	2900	4000	8500
明治四十四年	15800	15800	5000	3000	15000	11000	6800	6700	10000	9500	7000	2900	4000	8500

品名	單位	數量	價額	輸出入元	數量	價額	輸出入元
葱	同	17180	300	龜岳、長浦			
雞野	同	1000	100	北松浦郡			
西	同	6000	100	北松浦郡			
蜜	同	10780	300	平戶、大村、龜岳			
梨	同	5000	100	大村、伊木力			
柿	同	1000	100	平戶、大村、伊木力			
其他ノ果實	同	1000	100	門司、佐賀			
清酒	同	900	100	門司、佐賀			
麥酒	同	1000	100	大阪			
鹽	同	1000	100	熊木、筑後			

一九 佐世保市海陸輸出入一覽表

(明治四十五年中)

品名	單位	輸 入		輸 出		年次
		數量	價額	數量	價額	
米	石	3269	27,250	620	1,350	明治三十二年
麥	同	3300	6,000			明治三十三年
大豆	同	700	1,500			明治三十四年
小豆	同	200	300			明治三十五年
牛	頭	8000	1,200			明治三十六年
猪	頭	100	100			明治三十七年
魚	同	100	100			明治三十八年
蔬菜	同	100	100			明治三十九年
其他	同	100	100			明治四十年
合計		10,000	36,000	620	1,350	明治四十一年

種類	單位	數量	價額	輸出入	數量	價額	輸出入
麵類	同	107,000	10,000	中國、佐賀			
石炭	同	11,421	11,421	三池、天草			
石油	同	19,000	7,500	大野村、柚木村			
石炭	同	3,000	3,000	長崎			
菜種	同	100	100	大村			
木炭	同	8,000	8,000	筑後			
木材	同	40,000	3,500	大村、八代、平戶、竹敷			
板	同	1,200	1,200	熊本			
竹材	同	1,000,000	110,000	平戶、大村、大串			
竹製	同	100	100	熊本、宮崎			
竹製品	同	3,000	4,000	平戶			
下駄	同	11,000	8,000	北松浦郡			
	同	1,000	1,000	平戶			
	同	1,000	1,000	武雄地方			
	同	1,500	1,500	中國			

名稱	單位	數量	價額	輸出入	數量	價額	輸出入
砂糖	海陸	1,000,000	1,500,000	長崎、門司			
茶	同	100	1,000	大阪			
乾物	同	100	1,000	博多			
麥粉	同	100	1,000	北海道			
鷄卵	同	100	1,000	神戶			
生魚	同	100	1,000	福岡、佐賀、大阪、神戶			
鹽	同	100	1,000	平戶、福江、大村、黑島			

名	種	單位	數量	價額	輸	入	元	數量	單價	輸	出	先
餅	罐詰	同	14,000	28,000								
海苔	類	同	6,900	1,231								
蝦類	類	同	2,600	1,056								
糖	類	同	2	200								
柿	油	同	5,250	18,300								
薪	貫	同	5,200	37,000								
鐵類	類	同	27,100	48,400								
セメント	槽	同		48,400								
文具	同	同		48,400								
石	同	同		48,400								
ラ	同	同		48,400								
打	同	同		48,400								

輸出入元 數量單價 輸出入元 數量單價

名	種	單位	數量	價額	輸	入	元	數量	單價	輸	出	先
燕窩	實	陸	2,900	21,500								
薯	同	同	2,400	4,300								
瓜	同	同	6,600	1,008								
胡瓜	同	同	9,000	2,400								
筍	同	同	1,100	2,600								
松茸	同	同	1,500	4,400								
干魚	同	同	2,300	2,600								
鹽	同	同	1,100	3,200								
錫	同	同	4,600	8,400								

名 稱	單位	輸 入		輸 出	
		數量	價 額	數量	價 額
氷 賞	陸 海			14,000	6,100
カ ー パ イ ト	同 同			1,000	5,100
肥 料	同 同			6,000	2,100
玻 璃	同 同				2,300
計	同 同				14,400
同	陸 海				14,400
陸					14,400
海					14,400

輸出總額 五十五萬七千四百五十九圓
 輸入總額 三百四十五萬六千三百八十一圓
 差引輸入超過額 二百八十九萬八千九百二十二圓

二〇 銀行

(四十四年)

組織	銀行名	所 在 地	創 業 年 月	資本金	拂込資本金	積立金	本年積立金	本年純益	本年配當	拂込百圓二付純益配當
株式	九十九銀行	本店北松浦郡平戸町	明治二十二年二月	100,000	100,000	5,950	7,000	3,116	1,100	6,000
同	十八銀行	本店佐世保市常盤町	明治二十九年七月	100,000	100,000	1,200	9,000	4,100	2,750	10,000
同	佐世保銀行	本店佐世保市濱田町	明治二十四年七月	100,000	100,000	1,200	9,000	4,100	2,750	10,000
同	銀世保	出所佐世保市上京町	明治二十一年七月	100,000	100,000	1,200	9,000	4,100	2,750	10,000
同	有田銀行	本店佐世保市有田町	明治二十一年七月	100,000	100,000	1,200	9,000	4,100	2,750	10,000
同	伊萬里銀行	支店佐世保市伊萬里町	明治三十八年四月	100,000	100,000	1,200	9,000	4,100	2,750	10,000
同	伊萬里銀行	支店佐世保市伊萬里町	明治三十八年四月	100,000	100,000	1,200	9,000	4,100	2,750	10,000

二一 銀行の入金出金

(四十四年)

銀行名	上 半 期		下 半 期		計		一箇年出納金額
	入 金	出 金	入 金	出 金	入 金	出 金	
九十九銀行 佐世保支店	1,795,350	1,796,140	1,894,250	1,895,928	3,689,600	3,692,068	7,381,668
十八銀行 佐世保支店	6,478,353	6,563,340	7,949,750	7,990,554	14,428,103	14,553,894	28,981,997
佐世保銀行	7,377,540	7,349,918	8,699,911	8,677,251	16,077,451	16,027,169	32,104,620
有田銀行 佐世保支店	3,555,550	3,532,288	3,544,266	3,544,887	7,099,816	7,077,175	14,176,991
伊萬里銀行 佐世保支店	1,235,950	1,235,950	1,236,799	1,236,378	2,472,749	2,472,328	4,945,077

二二二 銀行手形

(四十四年)

銀行名	荷爲替		制所		引所		代金取立	
	貸出	取立	常所	他所	常所	他所	常所	他所
九十九銀行佐世保支店	三三,五七〇	二九,九九六	三三,五七〇	—	—	—	—	—
十八銀行佐世保支店	二二,四九九	四六,八七四	二二,四九九	—	—	—	—	—
佐世保銀行	二八,九九三	六八,一一三	八四,九三七	—	—	—	—	—
有田銀行佐世保支店	—	—	—	—	—	—	—	—
伊萬里銀行佐世保支店	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	八四,〇六二	一四六,七七四	一四六,七七四	—	—	—	—	—

二二三 銀行の爲替金

(四十四年)

銀行名	振出		受入		込	
	官公普	通	官公普	通	官公普	通
九十九銀行佐世保支店	—	—	—	—	—	—
十八銀行佐世保支店	—	—	—	—	—	—
佐世保銀行	—	—	—	—	—	—
有田銀行佐世保支店	—	—	—	—	—	—
伊萬里銀行佐世保支店	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—

二二四 銀行の預金貸付金總高

(四十四年)

銀行名	預金		貸付金	
	官公定期	當座	定期	當座
九十九銀行佐世保支店	一七,八六六	三三,三三三	四八,三三三	九五,二二二
十八銀行佐世保支店	二二,九九九	四四,四四四	五五,五五五	一一,一〇〇
佐世保銀行	三三,三三三	六六,六六六	七七,七七七	八八,八八八
有田銀行佐世保支店	—	—	—	—
伊萬里銀行佐世保支店	—	—	—	—
合計	七四,一九八	一四四,四四四	一七三,六六六	二〇六,一〇〇

二二五 銀行の預金貸付金年末現在

(四十四年)

銀行名	預金		貸付金	
	官公定期	當座	定期	當座
九十九銀行佐世保支店	一七,八六六	三三,三三三	四八,三三三	九五,二二二
十八銀行佐世保支店	二二,九九九	四四,四四四	五五,五五五	一一,一〇〇
佐世保銀行	三三,三三三	六六,六六六	七七,七七七	八八,八八八
有田銀行佐世保支店	—	—	—	—
伊萬里銀行佐世保支店	—	—	—	—
合計	七四,一九八	一四四,四四四	一七三,六六六	二〇六,一〇〇

二六 質屋貸金及金利

年次	店數	貸出高		受展高		流質高		貸出金年度末現在	
		口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額
明治四十年	三	三三六〇八	一七九〇七	八〇四〇〇	二七〇五六	一三〇四五	一八九九	三三〇五二	六六〇八
同四十一年	三	二九三三七	一九五六九	八六九二四	一五二五九九	一〇三二	二五五五	四〇三七	五九〇九
同四十二年	三	四〇一五六	二七九〇〇	一〇四六一	三三三三三	二九五〇	三八二八	四三七三	八七四〇
同四十三年	三	二九七四一	三六四三一	九二八七	一七〇八元	二四七〇	四〇三四	四八三三	九八五五
同四十四年	三	一三三〇四	二四〇〇九	一〇六一〇	一八九八二	二七四六	四八二六	五三〇四八	一三二五

二七 株式會社

(大正元年未調)

名	稱	營業目的	創立年月	位置	資本金		積立金	純益金	年配當割
					總額	拂込額			
株式會社佐世保銀行	銀行	銀 行	明治二十四年二月	濱田町	五〇〇〇〇	三三〇〇〇	三三〇〇〇	五〇七	一割
佐世保製氷株式會社	氷製造販賣	氷製造販賣	同四十一年十二月	山縣町	五〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	二〇八	一割
佐世保瓦斯株式會社	瓦斯販賣	瓦斯販賣	同四十五年一月	相生町	五〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	不詳	不詳	不詳
肥薩貯金株式會社	貯金及貸付	貯金及貸付	大正二年七月	島瀬町	三〇〇〇〇〇	—	同	同	同
佐世保電燈株式會社	電燈電力供給	電燈電力供給	同元年十月	福石町	一〇〇〇〇〇〇	二五〇〇〇〇	同	同	同

二八 合資會社

九州輸出眞田株式會社	マニラ糖、經木	同	同	相生町	七〇〇〇〇	一七五〇〇	同	同	同
佐世保相互貯金株式會社	貯金及貸付	同	同	同	五〇〇〇〇	三三〇〇〇	四八六四	同	同
佐世保勸業貯金株式會社	同	同	同	濱田町	一〇〇〇〇〇	三三〇〇〇	三三〇〇〇	同	同
佐世保米穀株式會社	米穀取引販賣	同	同	松浦町	二六〇〇〇	一七五〇〇	—	同	一割

二九 會社支店

名	稱	營業目的	位 置	創立年月	資 本 金
合資會社長醫商會	石炭販賣建築請負	佐世保市相生町	明治三十六年十二月	一〇〇,〇〇〇	
中通炭坑合資會社	石炭採掘販賣	同 中通免	同 三十九年五月	一〇〇,〇〇〇	
佐世保石炭合資會社	石炭採掘及賣炭荷爲替	同	同 三十一年四月	二〇,〇〇〇	
合名會社佐世保倉庫	倉庫業	同 港町	同 三十八年十二月	二〇,〇〇〇	
佐世保紙合資會社	紙賣買	同 榮町	同 四十四年六月	一〇〇,〇〇〇	

名	稱	營業目的	位	置	創立年月	本店資本金
株式會社十八銀行支店	銀	行	松	浦	明治三十年七月	三、〇〇〇、〇〇〇
同 九十九銀行支店	同	同	常	盤	同 二十九年十月	四〇〇、〇〇〇
同 有田銀行支店	同	同	松	浦	同 二十九年九月	二二五、〇〇〇
同 伊萬里銀行支店	同	同	濱	田	同 三十八年四月	五〇〇、〇〇〇
同 殖産銀行支店	同	同	福	石	同 四十四年五月	三〇〇、〇〇〇
同 佐世保銀行出張所	同	同	上	京	同 四十年十二月	五〇〇、〇〇〇
同 大阪電燈會社支店	電氣 附屬 品販 上	電氣 附屬 品販 上	福	石	同 三十八年九月	二、〇〇〇、〇〇〇
同 京都電燈會社支店	同	同	同	同	同 四十四年十二月	二、〇〇〇、〇〇〇

三〇 諸組合

名	稱	位	置	創立年月	組合員數	役員數
重要物産 同業組合	佐世保米穀商同業組合	松浦町	同	明治四十二年二月	四六九	四二
同	佐世保醬油商同業組合	光月町	同	同 四十三年八月	六一	二〇

營業組合	産業組合	有責任 佐世保共濟會信用購買組合	漁	同	三、八五八	八
佐世保浦漁業組合	佐世保茶業組合	同	鹽濱町	同	三十七年三月	七〇
佐世保酒造組合	佐世保酒造組合	同	同	同	三十八年四月	四〇
大村灣水産組合	佐世保水産組合	同	同	同	三十九年四月	一〇
			鹽濱町	同	三十七年一月	一、八八八

三一 法人にあらざる組合

(大正二年六月現在)

業	名	所在地	組合員數	設立年月	資産ノ状態
理髮業	松浦町四番地	九二	明治三十七年三月		
人力車	島瀬町五十四番地	一九三	同 三十二年十月		
賞屋	天瀬町四十一番地	二八	同 二十九年六月		
古物	松浦町二十四番地	三二七	同 二十九年三月(再立)		
湯屋	榮町十四番地	五八	大正二年四月(再立)		
飲食店	宮田町九十九番地	一七八	同 年同月		
菓子店	榮町三十三番地	五一	明治十四年十月		

業名	所在地	組合員數	設立年月	資産ノ状態
藥種商	天滿町五十一番地	五六	明治三十五年	三五〇〇〇〇
陶磁器商	相生町十一番地	二〇	同 三十九年九月	
疊屋	島瀬町八十六番地	二〇	同 三十八年一月	
料理屋	上町五十六番地	三一	大正二年四月	一、二五〇〇〇〇
貸座敷 (小佐世保)	勝富町七十八番地	二三	明治二十六年七月	
同 (花園町)	花園町百八十九番地	五〇	同 四十三年五月	

二三四

第五節 交通の部

一 郵便貯金狀況

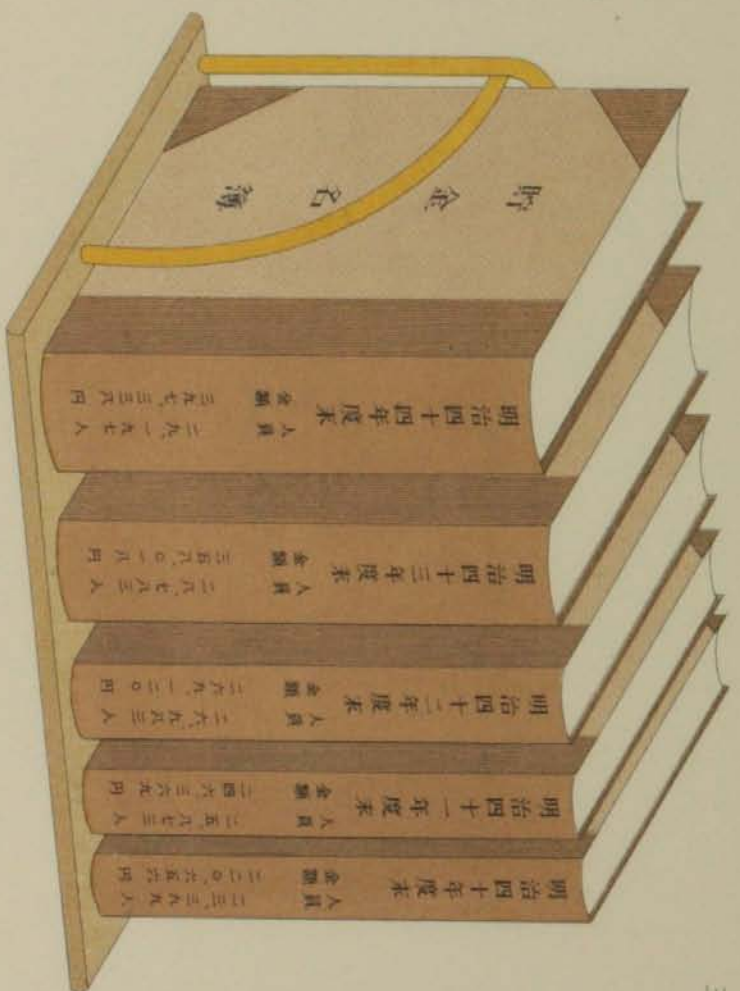
(佐世保市管内)

年次	貯金前年度		本年度		全拂年度末		前年度		本年度		貯金利息	公債	合計	拂戻高	現年度末	一人平均
	局數	取扱	局數	取扱	現在	繰高	繰高	繰高	繰高							
三十五年																

二 郵便貯金職業別

(佐世保市管内)

年次	農		工		商		雜		被雇職工		官吏軍人		其他	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
三十六年	四													
三十七年	五	八九五六												
三十八年	五	一三、三三七〇												
三十九年	六	二、三三三三												
四十年	六	二、二、二、二、二、二												
四十一年	七	三、三、三、三、三、三												
四十二年	七	三、三、三、三、三、三												
四十三年	七	三、三、三、三、三、三												
四十四年	七	三、三、三、三、三、三												



四 内國郵便爲替

年 度	口 振 出		口 拂 渡		口 數 一 二 付 金 額	
	口 數	金 額	口 數	金 額	口 數	金 額
明治三十五年度	四四九六六	三七一四六三七	三五〇六	一六九七九	八、六〇〇	七、五〇四
同 三十六年度	四四〇〇〇	四四〇〇二六六	三、六〇三	二二、三三〇	一〇、三三六	九、七四九
同 三十七年度	四七、四四九	四九、七三六六八	四、三三七	五〇、五九九、八六	一〇、四五一	二、七六七
同 三十八年度	四四、四九一	五二、五〇三六三	四、四四一	八八、二八八、五四六	一一、三六六	一、八三三、八
同 三十九年度	三四、三二六	三五、四四六、三九八	三、三三二	四九、六七、一九五	一一、四六九	二、三五、六
同 四十年度	二七、八七〇	三三、〇三九、九五	二、七九九	三六、四三〇、七〇〇	一一、三三二	二、三三、四九
同 四十一年度	二五、八七〇	三〇、〇九七、五三六	二、五七三	三三、四七、七九〇	一〇、四四四	二、三〇、七
同 四十二年度	二〇、四四〇	二五、〇〇四、五二六	二、〇三三	三九、四三三、七三六	二、三三三	一、四八、六
同 四十三年度	二二、〇〇〇	二六、〇〇〇、五〇四	二、〇七八	三三、三三三、三三三	二、一三三	一、四八、七
同 四十四年度	三三、三三三	三三、三三三、三三三	二、八七六	三三、三三三、三三三	三、三三三	二、三九、三

五 外國郵便爲替

年 度	通 話 度 數		電 話 料 金		呼 出 料 金	呼 出 料 金	料 金 合 計
	加入者	電話及自働所	電話料	計			
明治三十八年度	八八六三	五二	八五七五	二五八五	二六六六	—	二六六六

七 電話加入區域內通話度數及料金

年 度	同 三十六年度	同 三十七年度	同 三十八年度	同 三十九年度	同 四十年度	同 四十一年度	同 四十二年度	同 四十三年度	同 四十四年度
加入者	四	五	六	六	七	七	七	七	七
電話及自働所	—	—	—	—	—	—	—	—	—
電話料	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—
呼出料	—	—	—	—	—	—	—	—	—
料金合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—

六 郵便電信電話局等

年 度	口 振 出 金 額		口 拂 渡 金 額		口 振 出 一 二 付 金 額	
	郵便局	電信事務	郵便局	電信事務	郵便局	電信事務
明治三十五年度	四	—	—	—	—	—
同 三十六年度	—	—	—	—	—	—
同 三十七年度	—	—	—	—	—	—
同 三十八年度	—	—	—	—	—	—
同 三十九年度	—	—	—	—	—	—
同 四十年度	—	—	—	—	—	—
同 四十一年度	—	—	—	—	—	—
同 四十二年度	—	—	—	—	—	—
同 四十三年度	—	—	—	—	—	—
同 四十四年度	—	—	—	—	—	—

年 度	通 話 度 數		電 話 料 金		呼 出		料 金 合 計
	加入者 電話局 及自備 電話所	計	電話使用料 附加材料 及交換料 維持料	電話料	呼出料	呼出料 電話料	
明治三十九年度	二六八八五	一七九	三三〇五	二一七六五	一三〇〇〇	—	三三〇〇〇
同 四十年 度	六三三三〇	二二九	四八六五	二一八八五	一三三〇〇	—	三三〇〇〇
同 四十一年 度	六三三三〇	二二九	四八六五	二一八八五	一三三〇〇	—	三三〇〇〇
同 四十二年 度	二二〇六八七	二二九	四八六五	二一八八五	一三三〇〇	—	三三〇〇〇
同 四十三年 度	二六六四九八	二二九	四八六五	二一八八五	一三三〇〇	—	三三〇〇〇
同 四十四年 度	一七九八二八	二二九	四八六五	二一八八五	一三三〇〇	—	三三〇〇〇

八 電話加入區域外通話度數及料金

年 度	通 話 度 數		電 話 料 金		呼 出		料 金 合 計
	加入者 電話局 及自備 電話所	計	電話使用料 附加材料 及交換料 維持料	電話料	呼出料	呼出料 電話料	
明治三十八年度	六六八二	一九七	八六五八	二二八六五	一三三〇〇	—	三三〇〇〇
同 三十九年 度	八九〇八	一九七	八六五八	二二八六五	一三三〇〇	—	三三〇〇〇

九 内外國發著電報

年 度	發 信 通 報		電 信 通 報		發 信 通 報		電 信 通 報	
	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料
明治三十五年度	五〇七六	五七七八	四九六八	五三四五	三三三	—	三〇九	—
同 三十六年 度	九八八二	九五七四	八〇〇四	九三三五	九〇三	—	二六二	—
同 三十七年 度	二二三四〇	二四五四	二七五九	二九二二	一八五	—	二〇七	—
同 三十八年 度	二二七六四	二四九六	二七五九	二九二二	一八五	—	二〇七	—
同 三十九年 度	八二五六	一一七三	八三三七	一一〇三	八三三	—	八三三	—
同 四十年 度	六〇四五六	九七〇四	六〇八八	九八四一	五七六	—	五七六	—
同 四十一年 度	五八二九〇	九八二六	六七三三	九三三二	七六六	—	七六六	—
同 四十二年 度	五三八五八	九八八七	六八三〇	九三三二	七六六	—	七六六	—

年 度	內 國		電 報		外 國		電 報		
	發 信 通 數	有 料 無 料 計	發 信 通 數	有 料 無 料 計	發 信 通 數	有 料 無 料 計	發 信 通 數	有 料 無 料 計	
明治四十三年度	五,二八四	二,七五五	六,〇九五	七,〇一〇	九,八八〇	七,九八九	一,九五五	二,〇二八	三,〇三三
同 四十四年度	五,三八五	二,七七一	六,〇五六	七,〇〇〇	九,八〇九	七,九八四	一,九五五	二,〇二八	三,〇三三

一〇 内外通常郵便物

年 度	引		受		配 達	人口一 付引受郵 物	告 引受廣 告郵便		
	書 狀	業 書	新 聞 紙	書 籍 類 書				業 務 用 類 書	見 本
明治三十五年度	六,四二四	二,五三六	六,七七一	一,六三三	五,〇四	一,〇六	三,九三三	二,九二二	五,〇七四
同 三十六年度	二,八四四	二,三三九	一,九〇九	四,九六五	六,九二	一,一九	三,七八二	四,四九九	三,七七八
同 三十七年度	二,七八二	二,九四二	一,八七二	四,九四九	一,四三	一,二四	三,七八二	四,四九九	三,七七八
同 三十八年度	一,八七九	二,九四二	一,八七二	四,九四九	一,四三	一,二四	三,七八二	四,四九九	三,七七八
同 三十九年度	一,九七五	二,八二二	一,九七五	四,九四九	一,四三	一,二四	三,七八二	四,四九九	三,七七八
同 四十年度	二,七二七	二,九四二	二,七二七	四,九四九	一,四三	一,二四	三,七八二	四,四九九	三,七七八
同 四十一年度	二,〇六四	二,九四二	二,〇六四	四,九四九	一,四三	一,二四	三,七八二	四,四九九	三,七七八
同 四十二年度	九,九〇〇	二,七八二	九,九〇〇	四,九四九	一,四三	一,二四	三,七八二	四,四九九	三,七七八
同 四十三年度	九,〇〇〇	二,七八二	九,〇〇〇	四,九四九	一,四三	一,二四	三,七八二	四,四九九	三,七七八
同 四十四年度	九,〇〇〇	二,七八二	九,〇〇〇	四,九四九	一,四三	一,二四	三,七八二	四,四九九	三,七七八

一一 内外國小包郵便物

年 度	引		受		配 達
	有 料	無 料	有 料	無 料	
明治三十五年度	一八,八二九	九八四	一九,八一三	三二,〇九七	三二,〇九七
同 三十六年度	二七,一六七	二,一五二	二九,三一九	五八,二〇七	五八,二〇七
同 三十七年度	四二,四二〇	一四,二三九	五六,六五九	九〇,九三三	九〇,九三三
同 三十八年度	三一,三〇三	一〇,〇一四	四一,三一七	七四,二三二	七四,二三二
同 三十九年度	二七,一一〇	二,八八五	二九,九九五	五六,四七七	五六,四七七
同 四十年度	二六,三五二	二,五三九	二八,八九〇	五五,二六七	五五,二六七
同 四十一年度	二一,九五二	三,四八七	二五,四三八	五五,八七八	五五,八七八
同 四十二年度	一九,四六九	三,七五〇	二三,二一九	五八,二六五	五八,二六五
同 四十三年度	一九,九八四	三,七二一	二三,七〇五	六三,二三二	六三,二三二
同 四十四年度	一九,六四九	三,四五	一九,九九四	六二,三一七	六二,三一七

一二 汽車乘客及貨物

年 次	普 通 客		普 通 貨 物	
	乘 車 降 客	發 送 到 著	乘 車 降 客	發 送 到 著
明治四十一年	不明	不明	不明	不明

路線	距離	車站	乘車	客車	貨物
函館區青森經由	一、二五〇・七	東京市	八三三・八	琴平神社	四一七・七
室蘭同	一、二五〇・七	京都市	五〇五・七	草津温泉	五八〇・八
道分室蘭經由	一、二五〇・七	大阪市	四七八・九	伊勢大廟	六〇四・四
岩澤室蘭經由	一、二五〇・七	堺市	五五四・三	出雲大社	六三五・一
札見同	一、二五〇・七	橫濱市	八一七・五	日光廟	九二四・七
小樽同	一、二五〇・七	神戶市	六八六・九	鹽釜神社	一、〇六〇・三
夕張室蘭經由	一、二五〇・七	姫路市	四二四・五	宇宮	二五五・三
歌志內室蘭經由	一、二五〇・七	長崎市	五四六	道後温泉	二七二・五
櫻川同	一、二五〇・七	新潟市	八八八・九	生野銀山	二七四・六
旭川同	一、二五〇・七	水戸市	八四八・五		四五一・六
網走同	一、二五〇・七	宇都宮市	九〇六・八		
池田同	一、二五〇・七	奈良市	八九九・六		
釧路同	一、二五〇・七	津市	五七八・五		
		四日市市	六二二・六		
		宇治山田市	六〇四・六		

一四 自佐世保其他鐵道哩數

路線	距離	車站	乘車	客車	貨物
伊萬里	二二九・八	若松	二二九・八	鹿兒島	二二九・七
有田	二二九・八	折尾	二二九・八	國分	二二九・七
三河内	二二九・八	遠賀川	二二九・八	吉松	二二九・七
大三東	二二九・八	香椎	二二九・八	人吉	二二九・七
長崎	二二九・八	箱崎	二二九・八	八代	二二九・七
道ノ尾	二二九・八	博多	二二九・八	宇土	二二九・七
諫早	二二九・八	鳥栖	二二九・八	熊本	二二九・七
大村	二二九・八	佐賀	二二九・八	大牟田	二二九・七
早岐	二二九・八	武雄	二二九・八	久留米	二二九・七
		枝光	二二九・八	行橋	二二九・七
		小倉	二二九・八	中津	二二九・七
		小門司	二二九・八	四日市	二二九・七
		大里	二二九・八	宇佐	二二九・七
		小倉	二二九・八	別府	二二九・七
		小倉	二二九・八	西大分	二二九・七
		相模	二二九・八	大分	二二九・七
		西唐津	二二九・八		二二九・七

一三 自佐世保各地鐵道哩數

年次	乘車	客車	貨物
明治四十二年	二六六、二三九	二六九、一八〇	六六、一二二
同四十四年	二七九、四九七	二八〇、〇四一	五三、三八五
同四十四年	二九五、一九九	二九五、七九六	四一、一二六
大正元年	三一二、六二八	三三〇、五二五	七八、八三九

馬	三	朝	卑	鳳	同	旗	九	打	阿	大	臺	布	新	嘉	斗
山	山	鮮	南	林	(自花蓮港)	尾	堂	狗	店	街	南	鳴	庄	義	六
五五三	三〇五		一〇八二	二二四		二七六五	二五七七	二四六八	二三三四	二二六八	二一八〇	二〇七一	一九四〇	一七九七	一六〇三
門	久	福	松	九	高	德	和	下	吳	尾	廣	岡	松	島	富
司	留	岡	山	龜	松	島	歌	關	道	道	島	山	江	取	山
市	米	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市
一二九三	五九四	八〇四	二七八四	四〇七三	三八九九	四十四五	五九八二	一二九三	二八五二	三二〇七	二六八八	三六九五	六一〇一	五三四五	七〇四一

鹿	彰	臺	大	苗	新	中	桃	淡	臺	臺	榮	榮	樺			
港	化	中	甲	栗	竹	歷	園	水	北	灣	濱	町	太			
一三六六	一二九四	一一八六	一一七三	八三五	六二八	四〇九	三四七	三一〇	一七八	(自基隆)	五七六					
金	福	秋	山	弘	青	盛	福	若	仙	長	岐	大	甲	靜	豐	名
澤	井	田	形	前	森	岡	島	松	臺	野	阜	津	府	岡	橋	古
市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市
六六七〇	六一九四	一、一八八六	一、〇五七一	一、二八〇八	一、二九〇七	一、一六三八	一、〇〇一八	一、〇一一九	一、〇五一〇	七五七二	五八一六	五一五八	七七二七	七一五八	六四五三	六〇〇四

營口	大石橋	蓋平	熊岳城	萬家嶺	得利寺	瓦房店	普蘭店	金州	撫順	開原	鐵嶺	奉天	沙河	烟臺	遼陽
二六二七	二四八七	一三〇一	一一〇六	九〇八	七七二	六五二	四七九	二〇二	二七〇六	三一六	二九〇八	二四六八	二三〇九	二二〇二	二〇六三

海城	旅順	滿洲	新義州	鎮南浦	平壤	黃州	鐵原	西門	龍山	仁川	永登浦	井邑	群山	裡田	大田
一六八六	三九四		五八一六	四六九三	四三五〇	四一二三	三三七七	二七四九	二十二三	二八七〇	二六八六	二五二三	二三九三	二二五〇	一七〇四
										首里區	那霸區	鹿兒島市	熊本市	佐賀市	小倉市
										二二六七	二二六七	二二六七	一一〇八	三九五	一二二〇

一五 航路里程

博	唐	伊	呼	勝	長	玉	福	藤	原	平	瀬	松	面	白
多	津	里	子	本	崎	浦	江	江	原	浦	浦	島	高	佐
一〇〇〇〇	五九〇〇	四七〇〇	四九〇〇	五九〇〇	四六〇〇	七九五〇	五四〇〇	八八〇〇	五一〇〇	二九〇〇	二〇〇〇	一九八〇	八二〇	世
門	博	鹿	牛	三	口	島	三	勝	玉	福	最	郷	平	保
司	多	島	深	角	津	原	池	木	浦	江	原	浦	戶	自
一四二〇	一〇五〇	一六二〇	五〇〇〇	六〇〇〇	四八〇〇	六六〇〇	八二〇〇	八五〇〇	八三〇〇	五五〇〇	一〇六〇	七七〇〇	五三〇〇	長
函	新	直	敦	酒	萩	品	横	横	神	舞	江	吳	宇	時
館	瀨	津	賀	田	川	賀	濱	濱	戶	島	島	品	品	白
六八九〇	四九九〇	四六一〇	三二六〇	五五四〇	六六〇〇	五八三〇	五九〇〇	二四〇〇	三〇三〇	一一四〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	門
														司

第四章 諸統計

淡	基	族	大	鎮	仁	鎮	釜	元	馬	大	橫	舞	吳	竹	鹿	門
水	陸	順	連	浦	川	得	山	山	公	湊	賀	鶴	敷	島	司	
六六四〇	六四七〇	五八五〇	五八二〇	五三二〇	四三四〇	一五〇〇	一四六〇	四四二〇	八一五〇	八〇二〇	七〇二〇	四〇〇〇	二六六〇	一〇五〇	一八八〇	一三七〇
上	威	芝	太	泰	牛	群	木	巨	馬	鎮	仁	鎮	釜	元	馬	竹
海	衛	架	沽	島	莊	浦	浦	島	山	浦	川	得	山	山	公	敷
四六三〇	五二五〇	五六一〇	七三六〇	六八〇〇	七三二〇	三六三〇	二六二〇	一五七〇	一七三〇	五五〇〇	四五二〇	一六八〇	一六四〇	四六〇〇	七九六〇	一二二〇
淡	仁	鎮	釜	元	馬	大	別	德	丸	和	兵	大	尾	多	高	小
南	海															
浦	川	得	山	山	公	分	府	島	總	山	庫	阪	道	津	松	樽
五九〇〇	四九二〇	一四六〇	一二七〇	三八三〇	九二〇〇	七二〇	七四五	二九二〇	三三二〇	二七三〇	二四一五	二五五〇	一二六〇	一五六〇	一七四〇	七八五〇

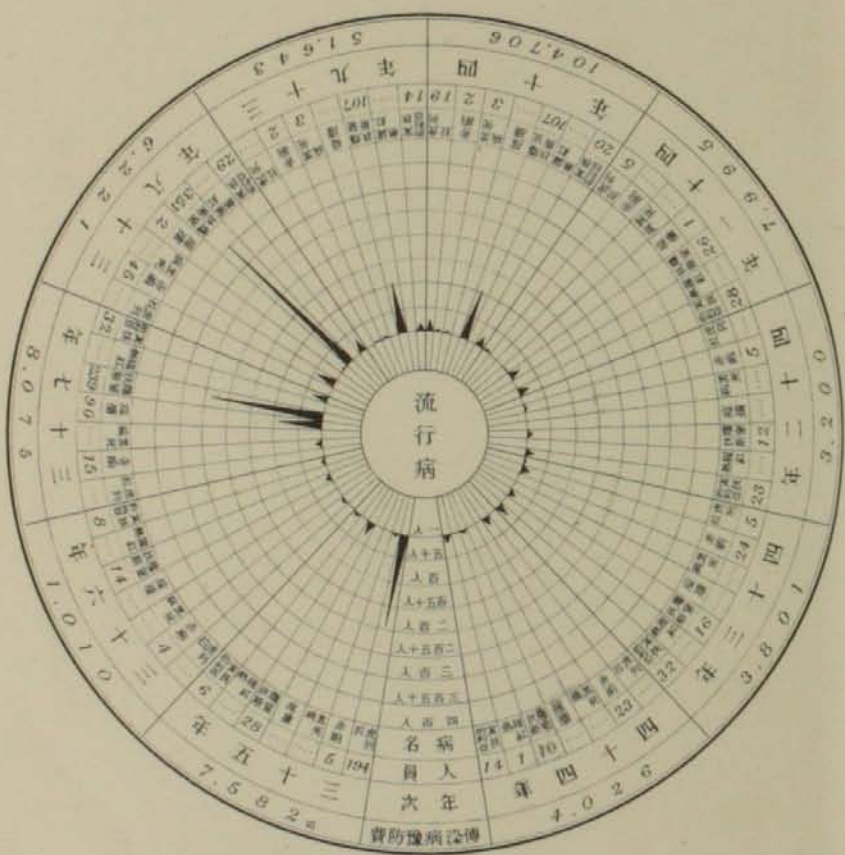
	蘇東	八四八〇
	澳港	六五〇〇
蘇東打安澳基旅大廣香汕厦	澳港狗平水陸順連東港頭門	九七〇〇 一一〇三一〇 一一一八六〇 一二九〇〇 六四〇〇 六四三〇 六四三〇 七五二〇 七六九〇 九三七〇 九五九〇 九七二〇 七七四〇

蘇東打安	自
澳港狗平	佐
	世
六六九〇 八六七〇 八五四〇 八三〇〇	保
打安澳基旅大廣香汕厦馬宜漢太吳青	自
狗平水陸順連東港頭門尼昌口治港島	長
八三五〇 八一三〇 六四五〇 六二八〇 六〇三〇 六〇〇〇 一、一六六〇 一、〇九二〇 九二〇五 八四六〇 七四一五 一、三七七五 一、〇〇四五 九三八〇 四四七〇 五四〇〇	崎
馬宜漢太吳青上海威芝太秦牛群木巨馬	自
尼昌口治港島海嶺榮沽島莊浦浦島山	門
八四六五 一、四四九五 一、〇七六五 一、〇一〇〇 五二八〇 五七〇〇 五三五〇 五六五〇 五八五〇 七七〇〇 七一五〇 七七〇〇 三九七〇 二九六〇 一九七〇 一五一〇	司

第六節 衛生の部

一 種痘人員

年次	種痘人員	善	感不善	感	検査未了	種痘費
明治三十五年	一、六九三	八〇六	七六七	一一〇	一六一、〇二〇	
同三十六年	二、五一四	九三八	一、三六三	二一三	二六〇、一一〇	
同三十七年	五五、一〇四	一七、六八二	三七、一九二	二三〇	九八七、七八七	
同三十八年	一九、三〇三	一、一一三	六、〇七九	一一、一一一	三四六、九〇〇	
同三十九年	四、九〇六	一、三五九	三、五四七	—	二七〇、三九五	
同四十一年	五、五八三	八三三	四、七五〇	—	四四〇、八三七	
同四十二年	五、七五一	一、〇八六	四、六六五	—	三五〇、七九五	
同四十三年	三、七一四	一、三八〇	五、二九三	—	三二七、四三〇	
同四十四年	五、二七〇	二、八四一	八六七	六	二〇一、四九六	
計	一一〇、四一一	三一、七三二	六五、六八六	一三、〇九三	三、五七八、五五八	



三 病院、醫師、藥劑師、藥種商、製藥者、產婆、看護婦

年 別	病 院		醫 師		藥劑師、藥種商、製藥者、產婆、看護婦
	公立	私立	全科	齒科	
明治三十五年	—	—	—	—	—
同 四十四年	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—
附	—	—	—	—	—
人口一萬二	—	—	—	—	—
醫師數	—	—	—	—	—
藥劑師	—	—	—	—	—
藥種商	—	—	—	—	—
製藥者	—	—	—	—	—
產婆	—	—	—	—	—
看護婦	—	—	—	—	—

第七節 兵事の部

一 陸軍軍人

年 次	現 役		後 備		充補	計
	將校、准士、下士	卒	將校、准士、下士	卒		
明治三十五年	—	—	—	—	—	—
同 三十六年	—	—	—	—	—	—
同 三十七年	—	—	—	—	—	—
同 三十八年	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—
充補	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—

年次	明治三十五年	同三十六年	同三十七年	同三十八年	同三十九年	同四十年	同四十一年	同四十二年	同四十三年	同四十四年
壯丁	115	110	117	115	110	106	104	100	98	95
陸軍補充兵	14	12	13	11	10	9	8	7	6	5
海軍補充兵	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3
計	133	125	133	127	123	118	115	110	107	103
六週間延	35	28	26	25	23	22	21	20	19	18
徵集	37	33	31	29	27	26	25	24	23	22
免兵	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3
除役	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7
終リタ	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
ノ者	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
重罪ノ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

三 徴兵人員

同四十三年	213	18	29	1	273
同四十四年	211	18	29	1	273

二 海軍軍人

年次	明治三十九年	同四十年	同四十一年	同四十二年	同四十三年	同四十四年
現役	27	32	39	35	37	28
豫備	1	1	1	1	1	1
後備	1	1	1	1	1	1
補充	1	1	1	1	1	1
計	28	35	42	38	40	31

年次	明治三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年
高等學校以上卒業者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
同上ニ均シキ學力者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中學校卒業者	1	2	3	5	3	4	6	4	6	8
同上ニ均シキ學力者	1	2	3	5	3	4	6	4	6	8
高等小學卒業者	3	3	3	4	5	5	100	6	6	6
同上ニ均シキ學力者	3	3	3	4	5	5	100	6	6	6
尋常小學卒業者	5	5	5	7	8	6	12	9	10	12
同上ニ均シキ學力者	5	5	5	7	8	6	12	9	10	12
積讀書算ヲ知ル者	18	20	23	25	26	25	23	22	20	18
讀書算ヲ知ラサル者	14	17	15	13	11	10	16	14	11	16
計	101	112	119	125	126	125	139	135	131	134

五 壯丁普通教育程度

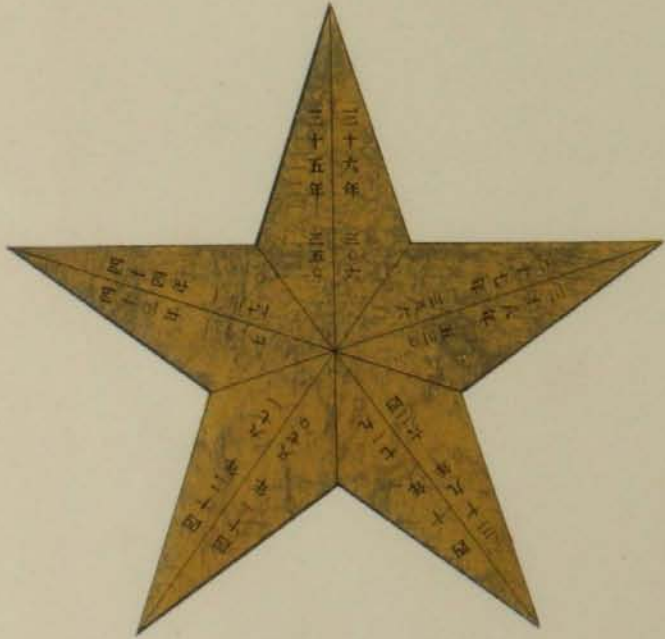
年次	明治三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年
甲種	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
乙種	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
丙種	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
丁種	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
戊種	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
選兵上徴サレニ適セ	102	100	99	97	96	95	94	93	92	91
檢對丁百ニ合格者	307	300	298	296	295	294	293	292	291	290

四 壯丁體格檢査成績

六海軍在郡軍人
累年比較



七陸軍在郡軍人
累年比較



八 現役兵並在鄉將校下士兵員

第四章 諸 統 計	軍		陸		年 次
	備後	備豫	兵役	現	
	准尉 士官	兵下 計員	未歸 計入 營休	在 營	
	三	一 六 九	五	三 六 三	明治四十四年
	三	一 三 九	四	一 七 三	明治四十三年
	三	二 七 五	二	二 五 九	明治四十二年
	二	二 七 九	三	三 二 二	明治四十一年
	二	七 六 七	二	八 一 九	明治四十年
	二	七 六 九	二	七 一 二	明治三十九年
	三	六 五 七	二	七 一 三	明治三十八年
	二	六 五 九	二	六 一 四	明治三十七年
	一	五 四 二	一	一 三 三	明治三十六年
	一	五 六 二	一	一 一 三	明治三十五年

陸軍
八人

海軍
一人

九 佐世保市出身戦病死者

(明治三十七八年戦役に於ける)

總計	軍					
	第一國民兵	後備			備	
		兵計	下士	准士官	尉士官	佐士官
三七	六	一八	二七			一七
三六	五	二九	二六			三三
二七	八	一七	一〇			二〇
二二	三	一四	一八			一八
二五		一四	一〇			二四
二六		一四	一〇			二八
二〇		一六	一			一六
九		四				五
六		四				五
六						一

年次	海			總計	陸		
	准士官	尉士官	佐士官		第一國民兵	後備	
						兵計	下士
明治十四年				一三七	一	一	
明治十四年				二二七	二	二	
明治十四年				九七	一	一	
明治十四年				八七〇	三	三	
明治十四年				七九	一	一	
明治十四年				六四	二	二	
明治十四年				五〇	一	一	
明治十四年				一八六	三	三	
明治十四年				三〇六	三	三	
明治十四年				二五〇	二	二	

陸軍 九人
海軍 一人
計 十人

陸軍 九人
海軍 一人
計 十人

陸軍 九人
海軍 一人
計 十人

一〇 明治三十七八年戰役應召員 (自三十七年二月至三十八年十月)

種別	陸軍	海軍	計
充員召集	△ 一七三人	△ 三〇人	△ 二〇三人
補充召集	一一九	一	一二〇
戰時中ノ現役者及現役延期者	五二	三九	九一
計	△ 三四三	六九	△ 四一三

備考

- 一 △印を付せしは准士官以上とす
- 一 教育召集より補充召集に移されたるものは補充召集中に合記す
- 一 歸休兵は現役とせず應召員として計上す

一一 明治三十八年戰役敍勳者及行賞賜金受領者

區別	陸軍	海軍	計
功級	二	一	三
同級	七	九	一六
勳等	一	一	二
同等	二	一	三
同等	二一	六一	八二
同金	一五三	八〇	二三三
賜金	二五、五八〇	不明	二五、五八〇

備考

陸海軍人は本市在籍者のみ
海軍の賜金總額不明
現役陸海軍人の敍勳者行賞賜金受領者不明

一二 軍需品調辨力

(明治四十四年八月調)

精米		開業年月	資本金高	納税總額	信用ノ厚薄	當時一日ノ製造力	一日ノ最大製造力	注文後一箇月ノ供給力	工場設備ノ概要	住所氏名
磨擦米	同	明治四十三年四月	十五萬圓	四八〇〇〇	厚	九石	二〇石	三〇石	六馬力瓦斯發動機	佐世保市松浦町
		同 四十四年一月	十萬圓	新規開業ニ付未定	同	三	一	四〇石	六馬力石油發動機	同市戸尾町
		同 四十年	一萬圓	四三〇〇〇	同	一〇	三	三〇石	同	同市本島町
		同 三十五年十二月	八千圓	四三〇〇〇	同	一〇	三	三〇石	同	同市上京町
挽割麥	同	明治四十七年三月四月	十五萬圓	四八〇〇〇	厚	三石	二五石	四〇石	六馬力瓦斯發動機	佐世保市松浦町
		明治四十四年一月	十萬圓	新規開業ニ付未定	厚	四石	四石	四五石	六馬力石油發動機	佐世保市戸尾町
薰肉	同	明治四十七年十月	三萬圓	二九七〇〇〇	同	同	同	同	同	同
		明治二十七年	一萬五千圓	四六〇〇〇	厚	同製造ノ約一箇月ヲ要ス	二〇	二〇	特殊ノ設備ナシ	佐世保市

鹽魚		開業年月	資本金高	納税總額	信用ノ厚薄	當時一日ノ製造力	一日ノ最大製造力	注文後一箇月ノ供給力	工場設備ノ概要	住所氏名
鹽魚	同	明治二十七年	一萬五千圓	四六〇〇〇	厚	同製造ノ約一箇月ヲ要ス	二〇	二〇	特殊ノ設備ナシ	佐世保市
		同 三十七年十月	三萬圓	二九七〇〇〇	同	同	同	同	同	同
乾魚	同	明治三十年	一萬五千圓	四六〇〇〇	厚	八〇〇斤	五〇〇斤	五〇〇斤	同	佐世保市
		明治三十年	一萬五千圓	四六〇〇〇	厚	五〇〇斤	五〇〇斤	五〇〇斤	同	佐世保市
生魚	同	明治三十年	一萬五千圓	四六〇〇〇	厚	四〇〇斤	四〇〇斤	四〇〇斤	同	佐世保市戸尾
		明治三十年	一萬五千圓	四六〇〇〇	厚	四〇〇斤	四〇〇斤	四〇〇斤	同	佐世保市戸尾
獸肉	同	明治二十七年	一萬圓	一七二〇〇〇	厚	一〇〇〇斤	八〇〇斤	八〇〇斤	同	佐世保市常盤
		明治二十七年	一萬圓	一七二〇〇〇	厚	一〇〇〇斤	八〇〇斤	八〇〇斤	同	佐世保市常盤

井手貞五郎

開業年月	資産又ハ 資金高	納税總額	信用 薄ノ	臨時調達 量シ得ル 數	注文後一箇 月間ノ供給 力	住 所	氏 名
明治四十三年十一月 同 四 十 年	五萬圓 十萬圓	新規開業ニ 付未定 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇	厚 同	1,000 1,000	8,000 8,000	佐世保市戸尾 同市元町	笹野甚四郎 中村七平
明治三十七年二月	二萬圓	〇〇〇〇〇	厚	100	1,000	佐世保市榮町	大社源太郎
明治三十七年二月	二萬圓	〇〇〇〇〇	厚	500	10,000	佐世保市榮町	大社源太郎
明治三十七年二月	二萬圓	〇〇〇〇〇	厚	500	10,000	佐世保市榮町	大社源太郎

明治三十七年二月	二萬圓	〇〇〇〇〇	厚	100	10,000	佐世保市榮町	大社源太郎
明治三十七年二月	二萬圓	〇〇〇〇〇	厚	100	10,000	佐世保市榮町	大社源太郎
明治三十七年二月	二萬圓	〇〇〇〇〇	厚	100	10,000	佐世保市榮町	大社源太郎
明治三十七年二月	二萬圓	〇〇〇〇〇	厚	100	10,000	佐世保市榮町	大社源太郎
明治三十七年二月	二萬圓	〇〇〇〇〇	厚	100	10,000	佐世保市榮町	大社源太郎
明治三十七年二月	二萬圓	〇〇〇〇〇	厚	100	10,000	佐世保市榮町	大社源太郎
明治三十七年二月	二萬圓	〇〇〇〇〇	厚	100	10,000	佐世保市榮町	大社源太郎
明治三十七年二月	二萬圓	〇〇〇〇〇	厚	100	10,000	佐世保市榮町	大社源太郎
明治三十七年二月	二萬圓	〇〇〇〇〇	厚	100	10,000	佐世保市榮町	大社源太郎

開業年月	資産又ハ高ハ	納税總額	信用薄ノ	隨時調査シ得ル數量	註文後一箇月間ノ供給力	住所氏名
明治三十七年二月	二萬圓	四六〇〇〇	厚	1,000	五,000	佐世保市榮町 大社源太郎
甘 藷						
明治三十七年二月	二萬圓	四六〇〇〇	厚	1,500	100,000	佐世保市榮町 大社源太郎
豆 類						
明治三十七年二月	二萬圓	四六〇〇〇	厚	1,000	五,000	佐世保市榮町 大社源太郎
馬鈴薯						
明治三十七年二月	二萬圓	四六〇〇〇	厚	1,000	一五,000	佐世保市榮町 大社源太郎
牛 蒡						
明治三十七年二月	二萬圓	四六〇〇〇	厚	1,000	二〇,000	佐世保市榮町 大社源太郎

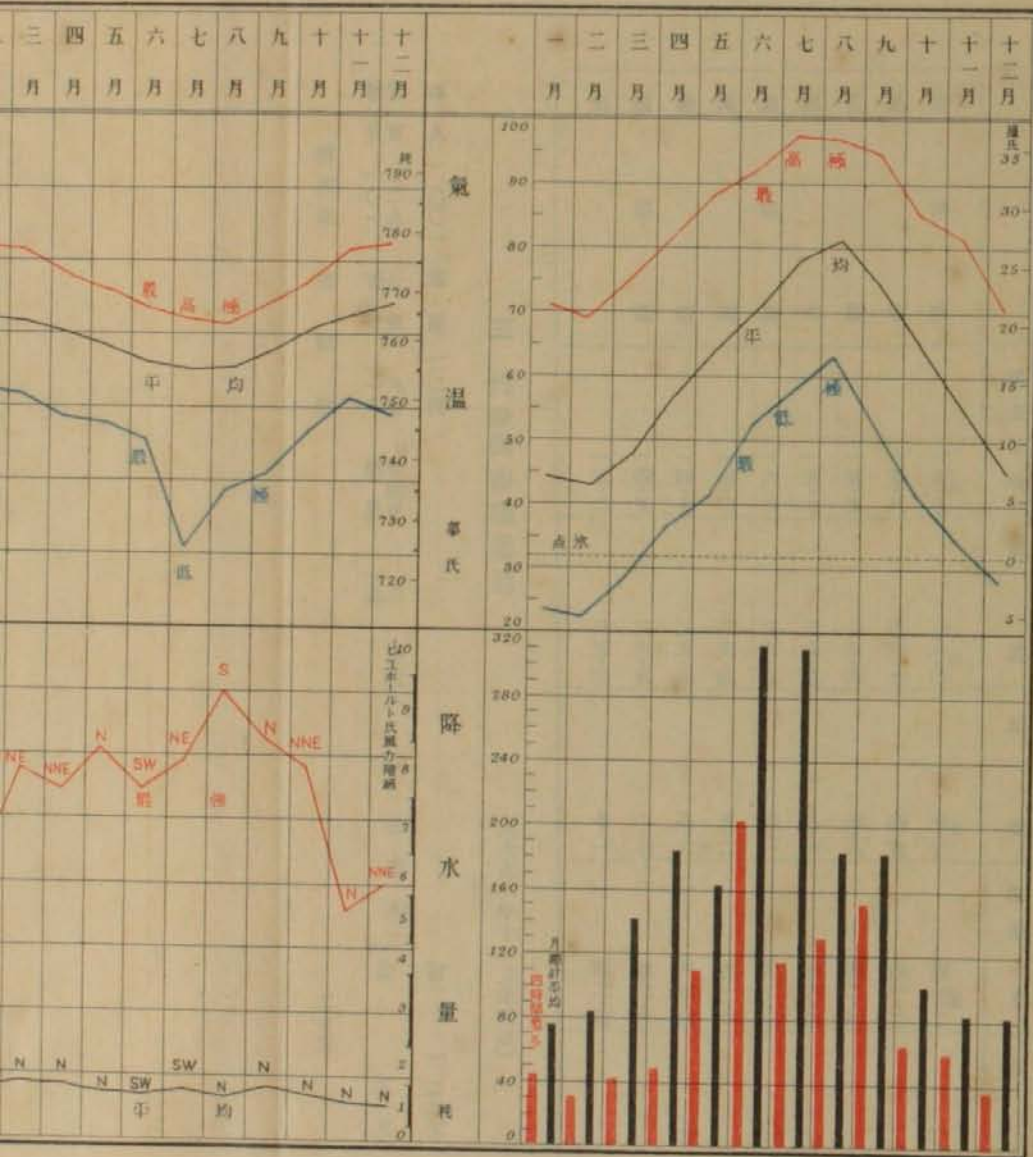
開業年月	資産又ハ高ハ	納税總額	信用薄ノ	隨時調査シ得ル數量	註文後一箇月間ノ供給力	住所氏名
明治三十七年二月	二萬圓	四六〇〇〇	厚	1,000	二〇,000	佐世保市榮町 大社源太郎
蓮 根						
明治三十七年二月	二萬圓	四六〇〇〇	厚	1,000	二〇,000	佐世保市榮町 大社源太郎
澤庵漬						
明治三十七年二月	二萬圓	四六〇〇〇	厚	1,000	一〇,000	佐世保市榮町 大社源太郎
紅生姜						
明治三十七年二月	二萬圓	四六〇〇〇	厚	五〇〇	1,000	佐世保市榮町 大社源太郎
奈良漬						
明治三十七年二月	二萬圓	四六〇〇〇	厚	1,000	二〇,000	佐世保市榮町 大社源太郎
梅 干						
明治三十七年二月	二萬圓	四六〇〇〇	厚	1,000	三〇,000	佐世保市榮町 大社源太郎

開業年月	資産又ハ高	納税總額	信用ノ厚薄	最近品質評會等ノ成績	注文後一箇年ノ間ノ供給力	住所	氏名
明治三十七年二月	二萬圓	5,000円	厚		3,000円	佐世保市榮町	大社源太郎
開業年月	資産又ハ高	納税總額	信用ノ厚薄	最近品質評會等ノ成績	注文後一箇年ノ間ノ供給力	住所	氏名
明治三十一年一月	二萬圓	11,000円	厚	聯合共進會ニテ三等銅牌ヲ受ク	5,000円	佐世保市相生町	古賀政一
同三十二年	一萬圓	10,000円	同	同上	2,500円	同市光月町	古賀新太郎
同二十六年	一萬五千圓	6,500円	同	同上	2,500円	同市上京町	高橋長一
同三十年	一萬圓	6,500円	同	同上	2,500円	同市城山町	梯政吉
開業年月	資産又ハ高	納税總額	信用ノ厚薄	最近品質評會等ノ成績	注文後一箇年ノ間ノ供給力	住所	氏名
明治二十五年	十萬圓	4,000円	厚		6,000円	佐世保市元町	富田等平

開業年月	資産又ハ高	納税總額	信用ノ厚薄	隨時調辦量ヲ得ル數	注文後一箇月間ノ供給力	住所	氏名
明治三十七年	一萬圓	5,000円	厚	3,000円	1,500圓	佐世保市上京町	木下幸一
開業年月 <th>資産又ハ高</th> <th>納税總額</th> <th>信用ノ厚薄</th> <th>隨時調辦量ヲ得ル數</th> <th>注文後一箇月間ノ供給力</th> <th>住所</th> <th>氏名</th>	資産又ハ高	納税總額	信用ノ厚薄	隨時調辦量ヲ得ル數	注文後一箇月間ノ供給力	住所	氏名
明治三十年	一萬圓	4,000円	厚	1,000円	100,000円	佐世保市松浦町東	長吉
開業年月 <th>資産又ハ高</th> <th>納税總額</th> <th>信用ノ厚薄</th> <th>隨時調辦量ヲ得ル數</th> <th>注文後一箇月間ノ供給力</th> <th>住所</th> <th>氏名</th>	資産又ハ高	納税總額	信用ノ厚薄	隨時調辦量ヲ得ル數	注文後一箇月間ノ供給力	住所	氏名
明治三十年	一萬圓	4,000円	厚	1,000円	50,000圓	佐世保市松浦町東	長吉
開業年月 <th>資産又ハ高</th> <th>納税總額</th> <th>信用ノ厚薄</th> <th>隨時調辦量ヲ得ル數</th> <th>注文後一箇月間ノ供給力</th> <th>住所</th> <th>氏名</th>	資産又ハ高	納税總額	信用ノ厚薄	隨時調辦量ヲ得ル數	注文後一箇月間ノ供給力	住所	氏名
明治三十年	一萬圓	4,000円	厚	1,000円	50,000圓	佐世保市松浦町東	長吉

一三 愛國婦人會佐世保幹事部會員數

自明治二十七年至明治四十五年



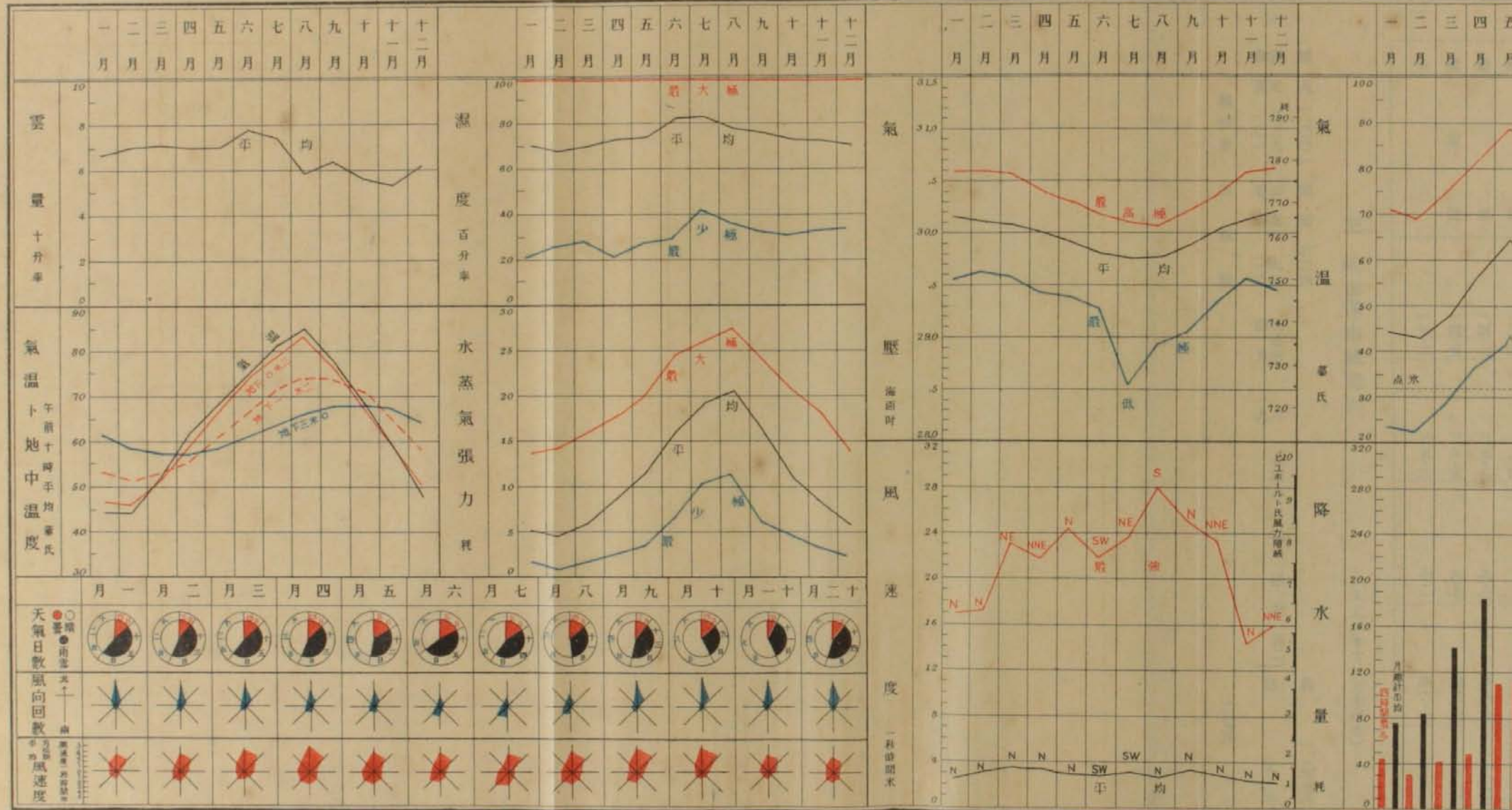
第八節 雜の部
一 佐世保氣象一覽圖

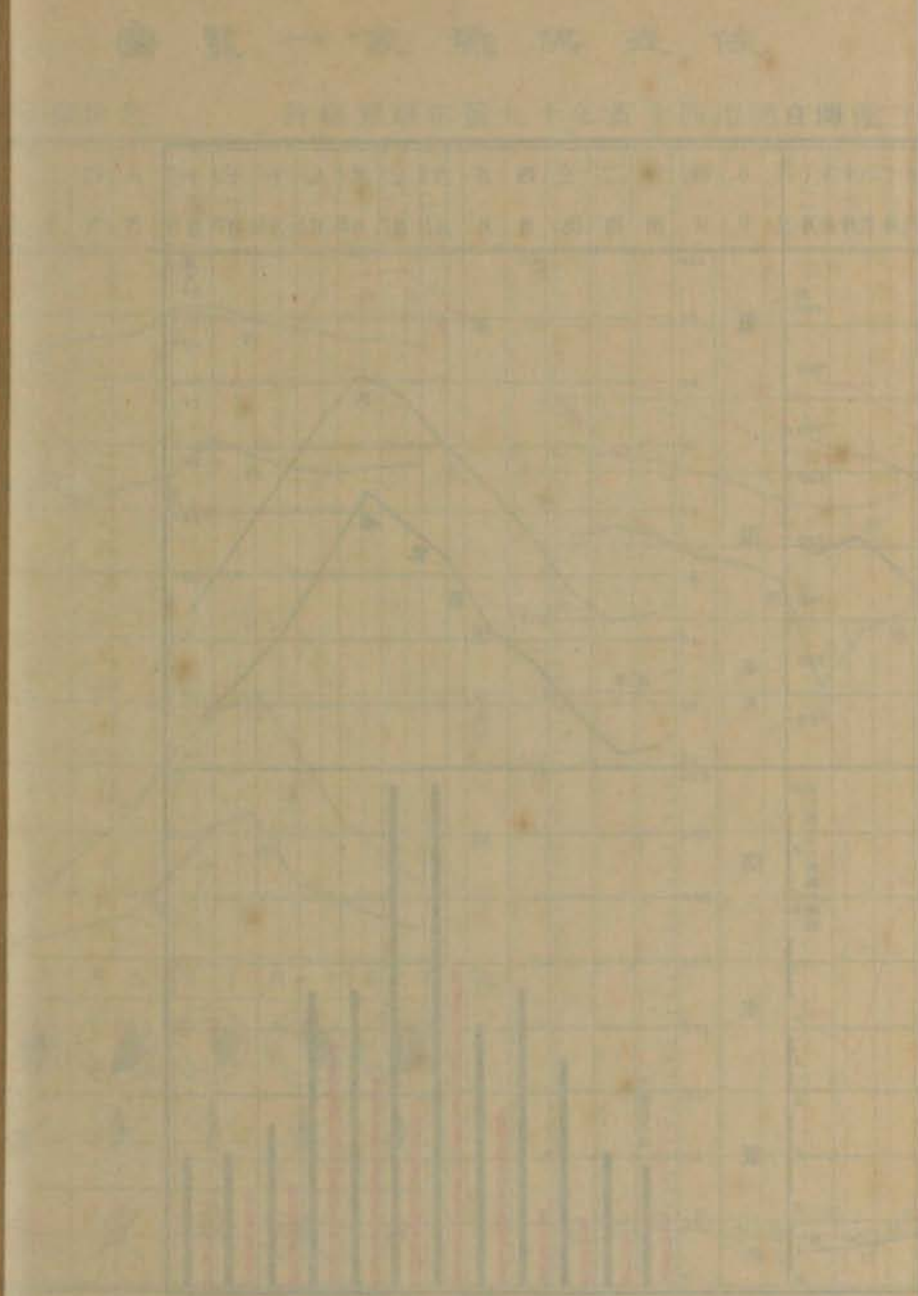
年次	計	特別會員		年賦
		終身	同	
明治三十七年	1,031	3	23	37
明治三十八年	1,351	3	23	55
明治三十九年	1,775	2	24	58
明治四十年	2,298	5	23	100
明治四十一年	2,811	5	24	149
明治四十二年	3,334	4	25	196
明治四十三年	3,857	4	26	241
明治四十四年	4,380	5	27	288
明治四十五年	4,903	2	28	335

佐世保氣象一覽圖

佐世保海軍測器庫

自明治二十七年一月至明治四十五年九月觀測統計





二 九州各地及吳橫須賀二軍港地氣象對照一覽

佐世保	長崎	佐賀	熊本	鹿島	福岡	嚴原	橫須賀	吳
一五·八	一五·八	一五·五	一五·七	一六·八	一五·〇	一四·七	一四·五	一五·二
三六·〇	三六·七	三六·六	三八·三	三六·二	三六·四	三五·八	三六·五	三五·六
五·二	四·九	五·八	八·六	六·一	五·二	八·六	六·七	七·一
四一·二	四一·六	四二·四	四六·九	四二·三	四一·六	四四·四	四三·二	四二·七
一七八·〇	一九四·七			二一〇·二		二二三·六		

三 佐世保市職業別

(大正二年十二月末現在)

軍人	二,〇〇一	軍屬	二,二三四
官吏	二,二九九	公證人	二
教員	一〇一	執達吏	一九六
警察	九〇	公證人	二
看守	一六	巡査	五二
計		計	一,二二五
		計	五二五

第四章 諸統計

代議士	一	辨護士	八	會計員	二二七	產婆	二二	鍼灸按摩	三四	計	九
銀行員	八一	新聞社員	二二	諸教師	一〇	產婆	二二	鍼灸按摩	三四	計	三四一
僧侶	四四	神官	一〇	看護婦	六九	配達夫	二一	計	計	六四	六四
通店員	三六一	通稱	一	看護婦	六九	祈禱者	五	計	計	三六二	三六二
醫師	四四	藥劑師	三二	看護婦	六九	祈禱者	五	計	計	二〇二	二〇二
用達	七三	請負	四九	看護婦	六九	祈禱者	五	計	計	一二二	一二二
代書	一九	小使	一七	易者	五	祈禱者	五	計	計	六七	六七
漁業	四二	船員	二二	易者	五	祈禱者	五	計	計	七〇五	七〇五
諸教授	造花	一六	琵琶	一八	尺鼓	一五	三味線	五	計	計	四四
日傭	一、四二八	葛土方	一八八	仲仕	一四九	車夫	二二二	計	計	一、九九七	一、九九七
藝妓	一、二四	娼妓	六六八	料理人	二六	興行師	七八	樂手	三	計	八三三
活動寫真	士四	廣告夫	六六八	料理人	二六	興行師	七八	樂手	三	計	一九七
無職	一九七									計	一九七
海軍職工	二七〇七	踏鐵工	一	靴工	二一	車夫	二二二	計	計	二、七二九	二、七二九
大工	二七二	木挽	三八	石工	五九	左官	六四	屋根葺	一	計	五五〇
指物	二八	煉瓦	一一	鍛冶	四二	桶	三五	計	計	一六二	一六二
機織	七	染物	四三	洗張洗濯	二三	和洋縫工	八九	計	計	一六二	一六二

寫真	一七	陶器畫工	四	上繪師	一	印刷工	二〇	緯物師	三	計	四二
金銀細工	一三	鍛冶細工	三一	鑄甲細工	一一	竹細工	二五	擊釘具弓矢	二	計	八一
彫刻	一〇	研師	四	經師	九	土器及瓦	一二	人車	一	計	二二三
塗工	一〇	研師	四	經師	九	土器及瓦	一二	人車	一	計	九二
疊	三五	綿打	二六	提灯	九	土器及瓦	一二	人車	一	計	九二
庭師	一	植木盆栽	六	鐵道工夫	三	鑄掛	四	計	計	七	七
電信電燈工夫	一五	坑夫	二	鐵道工夫	三	鑄掛	四	計	計	二〇	二〇
酒造工	三	採掘工	一	銀砂工	四	鑄掛	四	計	計	一一	一一
鐵工所	一〇	精米所	一〇	倉庫業	二	同清業	二	運送業	八四	計	二八六
銀砂製造	二一	肥料仲買	一三	新聞取次	六七	點燈業	一九	馬尼拉麻取扱	一八	計	二八六
礦業	二	肥料仲買	一三	新聞取次	六七	點燈業	一九	馬尼拉麻取扱	一八	計	二八六
實地貸家	三〇	兩替業	二一	株券仲買	一	金貸	一九	計	計	八四	八四
養魚	一一	養豚	一	養蜂	二	伯樂	一	捕鼠業	四	計	一〇
洋傘修繕	一八	靴修繕	一〇	下駄齒替	二	羅字替	八	鋸目立	一	計	五七
屠買	一八	辻占賣	一〇	下駄齒替	二	羅字替	八	鋸目立	一	計	五七
雜業	二四九									計	二四九
料理屋符合	三五	飲食店	二二八	西洋及支那料理	五	饅飽蕎麥	二〇	天麩羅	二	計	一九〇

備考

本職業調は一戸を立て居る者に限り計上したるものにして假令一戸二人以上ありと雖も其戸主の職を採りたるものなり

四、佐世域各時代歴史要概
對照一覽圖表

佐世係屬域干製歴史

元
紀元

國史對照事項

上				
100	100	100	100	100
200	200	200	200	200
300	300	300	300	300
400	400	400	400	400
500	500	500	500	500
600	600	600	600	600
700	700	700	700	700
800	800	800	800	800
900	900	900	900	900
1000	1000	1000	1000	1000
上 試 碑				

五 松浦家略系圖

(松浦家總系圖及松浦系圖其他參照)

高祖 源融

左相公 嵯峨天皇二ノ皇子、始メテ源姓ヲ賜フ、從一位左大臣世ニ河原院ト號ス
母正四位下大原ノ金子、寛平七年八月二十五日薨享年七十三、從一位ヲ贈ラル

亞相公 昇

左相公ノ第二子、正三位大納言、河原大納言ト號ス
享年六十歲

武州公 仕

亞相公ノ第二子、從五位武藏守
天慶五年五月十八日薨享年五十二

箕田公 充

箕田源次ト稱ス、夫人ハ多田滿仲女
享年二十一歲

渡邊公 綱

箕田源二、渡邊丹後守、源賴光ニ仕ヘ駿勇四天王ノ一、内舍人ニ補ス
萬壽二年二月三日歿享年七十三

奈古屋公 授

二耶ト稱ス、肥前奈古屋ニ居ル、内舍人ニ補シ從五位下ニ敘ス

瀧口公 泰

後三條帝ニ仕ヘ從五位下ニ敘シ、瀧口太夫ト稱ス

始祖 松浦公 久一

源融八代ノ孫瀧口公ノ長子新太郎ト稱ス、肥前松浦御所檢校トナリ檢非違使ニ補シ從五位下ニ敘ス因テ源太夫ト稱ス、久安元年(一説延久元年)四十シ肥前國下松浦郡今福根石城ニ居ル因テ始メテ松浦ヲ氏トシ家章ハ三星ニ引兩梶葉、松浦ハ彼許及壹岐ヲ治ス
久壽元年(一説久安四年)九月十五日薨釋號光久宛陵寺ニ葬リ今福若宮大明神トシテ祀ル相神浦及蟹島ニモ同社ヲ建ツ

御府公 直二

松浦公ノ長子、兵衛尉ニ任シ五位ニ敘ス因テ源太夫ト稱ス、松浦郡御府田及彼許郡壹岐等ヲ治ス

清三

承安二年四月朔薨享年七十一、釋號大體、日代ノ山寺ニ葬ル山代首領大明神亦直ニ緣故ヲ有ス、御府公八子アリ長子五代ニシテ斷絶、二子清本宗松浦ヲ繼ギ、三子ハ有山唐船城主、四子大河野ヲ領シ五子平戸松浦ノ祖六子山代ヲ領シ其子孫早岐ノ祖トナル
御府公ノ第二子源三又源二ト稱ス、今福志佐相神浦生月五島中上松浦ノ西郷及班島彼許郡佐世保壹岐ノ一部ヲ領ス、今福ニ居リ御府執行タリ
正治元年親族ト共ニ鎌倉ニ赴キ領土保全ノ朱印ヲ得テ還ル(以下十四代本宗松浦)

達四

松浦二耶ト稱ス、御府執行タリ城ヲ相神浦ニ築ケ

正治元年親族ト共ニ鎌倉ニ赴キ領土保全ノ朱印ヲ得テ還ル(以下十四代本宗松浦)

達

松浦二郎ト稱ス、御府執行タリ城ヲ相神浦ニ築ク

直

松浦大夫、丹後權守、御府執行、御府城主タリ
此時一族等嫡家ト相論アリ

定

松浦丹後守、御府執行、御府城主

(蒙古來寇ハ此時代)

正

松浦二郎、丹後權守、幼字大童丸、寢島ヨリ入り定ノ養子トナル、初ノ名ハ時
吉野朝ニ忠勤シ菊池等ト共ニ奮戦シテ討死ス

清

松浦丹後守
延元三年十月足利ニ屬ス

直

松浦丹後守、御府執行、御府城主、幼字龜童丸後チ定ト改ム法名善賢
元中(至徳)元年八月十一日宗族會盟ス、同四年八月十一日第二回松浦黨會盟、文中三年宗屬ト共ニ足利義滿ニ屬ス

勝

松浦丹後守、童名羅候龜丸、有田領ヲ併ス、此時代威權最盛ナリ

延

松浦丹後權守
法名融泉

進

松浦丹後守、童名虎龜丸
法名義通、應永二十八年八月二十一日(一〇八一)松浦黨第三回同盟ニ記名ス

盛

松浦丹後守、應永二十九年生ル、長祿元年信ヲ朝鮮ニ通シ貿易ヲ約ス
應仁元年十二月六日卒、享年四十六、法名昌源

定

松浦丹後守
明應元年六月二十八日卒、法名昌朝

政

松浦丹後守大野村瀬戸越太智庵城主、有田今福相神浦黒島寢島佐世保ヲ領ス
明應七年十二月二十三日(一説ニ天文九年八月二日)平戸興信ノ兵ニ夜襲セラレ討死ス享年二十一、此落城後本宗松浦ノ勢力頓ニ衰フ、政ノ弟謙丹後源三郎ト稱ス佐世保ヲ分領ス因テ佐世保ヲ家號トナス

親

松浦丹後守、童名幸松丸後別號シテ宗全ト號ス、相神浦飯盛城主
平戸松浦ト戦ヒ數年ニ互リ後チ媾和シ隆信ノ三男ヲ養ヒテ家ヲ繼カシム是ニ於テ本宗松浦ノ勢力ハ全ク消絶シ平戸松浦代ツテ宗全トナリ本支變換セリ

披

御府公ノ第五子ニシテ平戸松浦ノ祖トナス峯邑ニ居ルヲ以テ家號ヲ改メ峯五郎ト稱ス田平城主タリ建久三年六月源賴朝ノ命ニ依リ御府莊地頭ト爲ル
正治初年ノ頃平戸ヲ占領ス(以下二十九代平戸松浦)

持

峯彌五郎又源藤次ト稱ス、始メテ居テ平戸ニ移ス
平戸源三郎ト稱シ平戸村ニ居ル

湛

峯又五郎
平戸五郎後松浦源五郎(是ヨリ代代松浦ト稱ス)
(蒙古來寇)

定

松浦肥前守鏡勇絶倫世ニ鬼八郎ト稱ス
後醍醐帝ニ忠任シ肥前守ニ任ス
澁口左衛門尉
足利ニ屬シ國司ト稱ス、當代恩威權ヲ行ハル

理

松浦左衛門尉
直

直

勝

肥前守、三耶次郎
芳

芳

義

肥前守、源三郎、初名是與
赤烏帽子ヲ戴キ義教將軍ニ謁ス平戸中興ノ祖ト稱ス

豐

肥前守、源五郎

後醍醐天皇三子任三原前守二作ス

足利二廟シ國司ト稱ス、當代恩威稱ト行ハル

理〇

松浦左衛門尉

直二

松浦肥前守

勝三

肥前守、三郎次郎

芳三

肥前守、源五郎

義二

肥前守、源三郎、初名是與
赤烏帽子ヲ戴キ義教將軍ニ謁ス平戸中興ノ祖ト稱ス

豊久

肥前守、源五郎

弘定

肥前守、源三郎

興定

後興信ト改ム、源三郎ト稱ス
實ハ峯經本ノ子、弘定ノ養子

隆信

源三郎、印山、道可
勢力盛シニ西境ヲ略取シ領土ヲ廣メ本宗松浦ノ領域ヲ併合シテ松浦家ノ宗主トナル後始メテ壹岐守ト稱ス

鎮信

源三郎、式部卿、法印
隆信ノ遺業ヲ繼承シ豐臣氏ニ徳川ニ仕ヘ武功多シ當代ヨリ以下十二代佐世保圍城ノ領主トナル

久信

源三郎

隆信

幼名千代鶴丸、源三郎、初メ信ト稱ス、壹岐守

鎮信

千代鶴、三郎、初重信ト稱ス、肥前守
學ヲ好ミ藩學ヲ興ス

棟三

壹岐守、源三郎

篤信

初政、後英ト改メ又篤信ト改ム

有信

松千代、源三郎

誠信

左京、吉松、數馬

清二

英三郎、雪州、靜山
相神浦郷里美村ヲ開ク

熙三

三種松

曜二

安丸、源三郎

詮三〇

明治維新ニ際シ封土ヲ奉還ス

厚三

現代

親二

丹後守、幼名左近大夫
實ハ平戸隆信ノ三男ニシテ松浦親ニ養ハレ其名ヲ襲ク當代ヨリ以下本宗松浦ノ後繼トシテ世代ヲ數フルモ其實ハ平戸ノ末家タル位置ニアリ

定八

丹後守、源二郎
朝臣役ニ於テ文祿二年正月七日平壤城ニ戦死ス年二十三

正九

源一
法名清安、當代全ク平戸ニ寄食ス

信貞

松浦猪右衛門(是ヨリ以下江戸ニ居ル)
寛永十年家光將軍ノ代江戸ニ參謀家綱將軍ノ代寛文四年幕府旗下ニ列シ勘定奉行ヲ勤ム、元祿七年八月死去

信方

松浦覺左衛門

信朝

松浦源左衛門

豊三

松浦猪右衛門

備二

松浦猪右衛門

信豊

松浦左京

信忠

松浦大膳、初メ熊之助
堺奉行町奉行勘定奉行大目付ニ累進シ後旗本奉行トナル天保二年八月六日卒ス

信脩

松浦熊之助

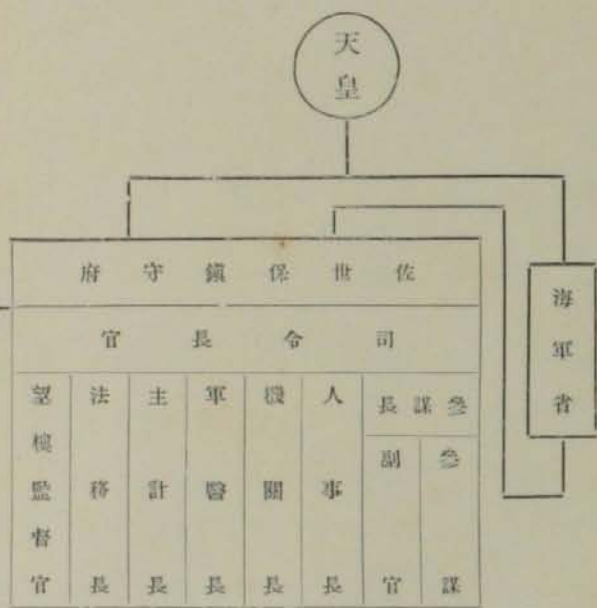
信恆

松浦勝太郎、後左京、又實名恆
徳川幕府大政返上、因テ江戸ヲ辭シ勤王ノ意ヲ表ス

信康

松浦信恆ノ養嗣子
實ハ伯耆松浦詮ノ七男

七 佐世保鎮守府軍政系統表



課 第 一	廠							工		
	織	軍	需	兵	會	造	造	造	檢	副
	員	長	庫	庫	部	部	部	部	官	官

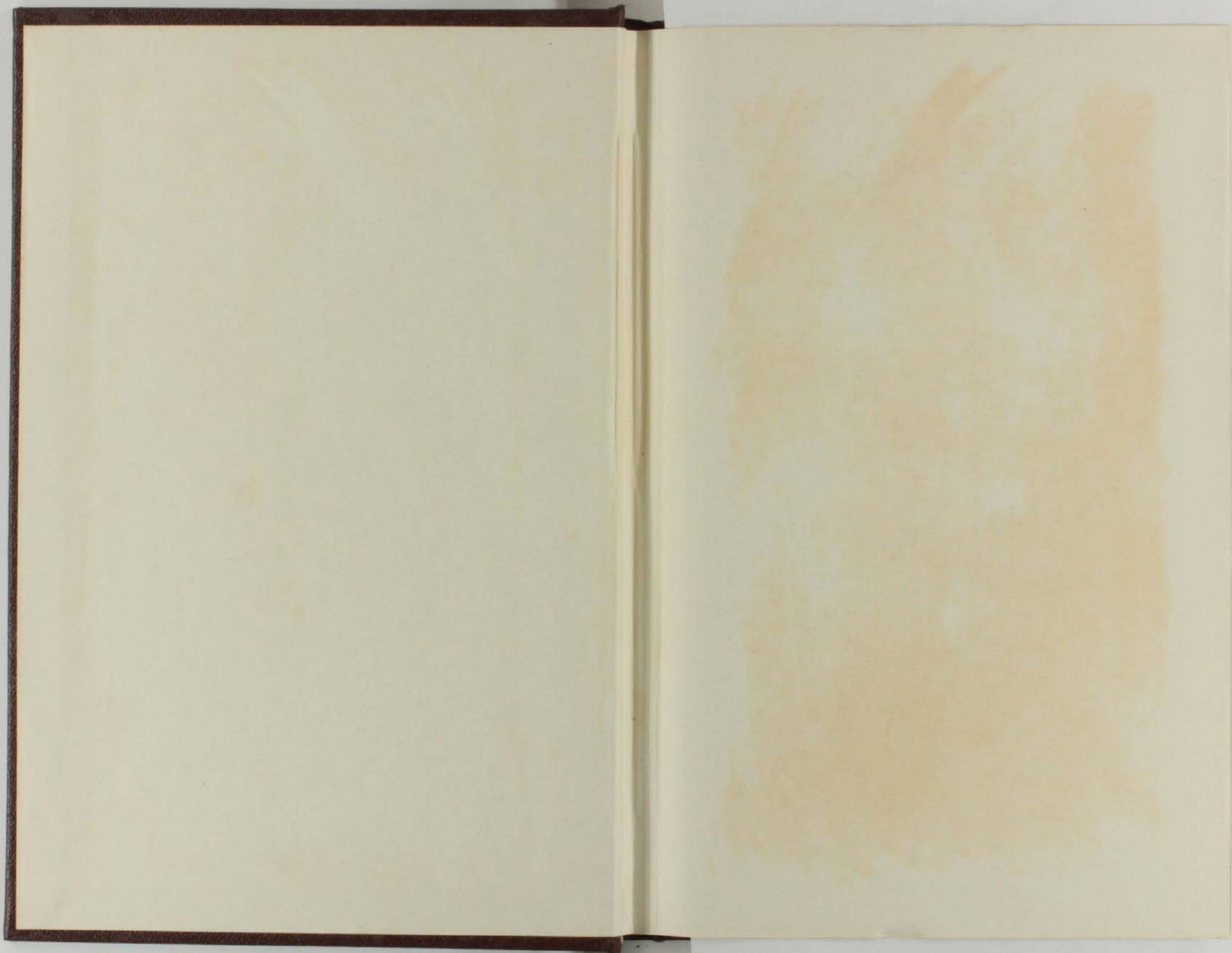
竹 數 防 備 隊	永 興 防 備 隊	鎮 海 防 備 隊	在 役 艦	豫 備 艦 隊	水雷團				海 兵 團	監 獄	軍 法 會 議	測 器 庫	港 務 部	病 院			人 事 部	經 理 部				廠				
					隊 設 隊	艇 隊	隊 隊	隊 隊						百 回 鼻 消 毒 所	看 護 衛 練 習 所	試 驗 所		療 品 庫	建 築 科	衣 櫃 科	第 二 課	第 一 課	織 造 部	軍 需 品 庫	兵 器 庫	會 計 部

大正四年八月五日印刷
大正四年八月十日發行

佐世保市役所

東京市日本橋區數寄屋町一番地

印刷者 田山宗堯



市立平戸図書館



110310836